

# 研究紀要

平成28年度  
第40号

静岡県博物館協会 研究紀要 第40号

静岡県博物館協会 研究紀要 第40号



静岡県博物館協会

静岡県博物館協会  
研究紀要

第40号/平成28年度

表紙/ふじのくに地球環境史ミュージアム展示室

目次

- 
- 02 静岡県民が考える豊かさとは何か？  
～ふじのくに地球環境史ミュージアムの挑戦～  
ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授 山田 和芳
- 
- 10 企画展「静岡のチョウ 世界のチョウ」の開催  
～新たな展示スタイルの試み～  
ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授 岸本 年郎
- 
- 18 静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 3  
立花 義彰
- 
- 40 富士市立博物館から富士山かぐや姫ミュージアムへ  
～リニューアルオープンの経緯と特徴～  
富士山かぐや姫ミュージアム(富士市立博物館)  
学芸員 井上 卓哉
- 
- 平成28年度静岡県博物館協会地域セミナー事例報告
- 52 スペシャルミュージアムサロン「クラヴィコードって何？  
～ピアノでもチェンバロでもない、耳を澄まして聴く、素敵な鍵盤楽器～」  
浜松市楽器博物館 館長 嶋 和彦
- 
- 58 静岡県博物館協会 研究紀要目録  
62 静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

編集・発行

静岡県博物館協会(事務局)

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

静岡県立美術館

電話・054-263-5857 FAX・054-263-5742

デザイン タツマキチューンD.D.

発行日 2017年(平成29年)3月31日

印刷 有限会社 橋本印刷所

# 静岡県民が考える豊かさとは何か？

## ～ふじのくに地球環境史ミュージアムの挑戦～

ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授 山田和芳

### はじめに

ふじのくに地球環境史ミュージアムは静岡県立として初の自然系博物館であり、全国初の地球環境史をテーマとする博物館である(図1)。約30年の準備期間をへて2016年3月26日に開館した。ミュージアムは、2013年3月に閉校となった高校校舎を改修して作られた博物館施設で、小・中学校ではなく高校校舎を活用した博物館は全国的にも珍しい。展示室や標本収蔵室、研究室等はすべて一般教室や特別教室を改修したものであり、とくに学習机、椅子、黒板等といった学校什器を各所で活用した展示室では、かつての学び舎の空気が随所に漂っている。

ミュージアムの使命や目標は館名に代表されている。“ふじのくに”は富士山を擁する静岡県を示すとともに、日本という国土をも示している。静岡のローカルを知ることで、日本、そして世界を考えるとという視点を目指している。“地球環境史”は人間と自然環境の関係性の歴史と定義し、また、人類活動を長い地球史の中に位置づけ、未来を見通すことを意識している。地球規模のグローバルな課題を考える上でも、ローカルな事象を正しく捉えることは重要であると考え、静岡の自然とその歴史である「自然史」と、それを内包しつつ人と自然の関わり及び未来の生き方を考える「環境史」の領域を主軸とした。“ミュージアム”という語には既存の博物館の枠にとらわれない活動や展開を志向するとともに、デザイン性も重視した展示の具現化を目指す方向性を込めた。

本研究報告では、前半部では、ミュージアムという一つの作品の作成過程において、定めた目標(活動テーマ)と、その達成に至るまでの手段(展示表現)や援用(高校リノベーションという持ちあわせの特色)について網羅的に述べ、実際開館を迎えて発生している課題について報告する。そして、後半部では、未来の地域社会をデザインする未来志向を位置づけた当館の挑戦として、「これからの豊かさ」をいうものに対して、ミュージアムの展示空間を通じて個々の来館者が考えている「豊かさ」について紹介する。



図1 ふじのくに地球環境史ミュージアムの外観(正面入り口付近)

### 活動テーマ「百年後の静岡が豊かであるために」

ミュージアムには、明確な活動テーマが存在する。地球という大きな自然と共存・共栄するために人類はどうすべきか。世界中の人たちが豊かな暮らしを続けるためには、無理や無駄のない持続可能な取り組みを考える必要がある。その中で、気候変動、人口、食料、資源、エネルギー、水、生物多様性に分類される地球環境問題というリスクを背負いながら我々人間は、これから豊かに生きていかなければならない(石田・古川、2014)。これは、産業革命以降、利便性のみを追求してきた人間活動の肥大化がもたらした問題である。言い換えれば自然搾取型の社会構造を作り上げてきた我々が、自ら招いてしまった歪んだ自然との関係性であるともいえる。我々の未来、すなわち持続的な社会構築のためには、今後も変化しつづける自然とうまく付き合う以外の方法はない。Lewis and Maslin (2015)による、人新世という地質時代を作るという動きがあることも、このような世界的な社会の変調が46億年という地質時代のタイムスケール上でもエポックメイキングと捉えられることの証と考えられる。

全国初となる地球環境史をテーマにしたミュージアムでは、人と自然の関係について理解を深める場所として、来館者は、確かな未来をつくるために、過去を知り、郷土の自然の豊かさを実感する。そのうえで「本当の豊かさとは何か?」という問いかけに対する解を探すため、地球とヒトの歩んできた歴史を振り返りながら「考える場」とした。換言するならば、地球環境史という複雑な学問を、豊かさの本質を探す学問として表現した。

ミュージアムでは、その最適解を導くために、来館者とともに考える場として、さらにわかりやすいキャッチフレーズとして「百年後の静岡が豊かであるために」という活動テーマを掲げた。そして、人と人のつながりを大切にすソフトパワー重視の活動を展開しながら、静岡という地域を「見る」「知る」から、「つくる」「デザインする」という未来を見据えた博物館を目標にしている。

### 「見る」博物館から「考える」博物館へ

こうした理念を常設展示で具現化するために、導き出した展示手法は、「思考型展示」である。ただ、見て学ぶ展示や触るなどの体験型展示ではなく、自ら考えることで参加する新たな展示体験施設となることを目指した。展示コンセプトは「思考を拓くミュージアム」とした。

ミュージアムの常設展示は、「これからの豊かさとは何か?」

という問いかけに対して、自分自身が答えを探していく仕掛けとなっており、各教室をひとつの単位とした10の展示室を順番に巡る方法となっている(図2,3)。導入の展示室1では、地球環境史とは何かを示し、「百年後の静岡が豊かであるために」何ができるかを来館者に問いかけることで、ミュージアムが課題と向き合う「考える場」であることを意識づける。展示室2～8では、静岡県という地域に視点を移し、自然の脅威や恵み、高低差6,000mに及ぶ自然環境や生物多様性、自然と人との関係の歴史等を紹介する。単に紹介するだけではなく、多角的な視点から知的好奇心を刺激し、考えるための様々なヒントを直感的な展示で示すなど、思考を促す仕掛けがいたるところに散りばめられている。例えば、生物の標本が並ぶ展示室4「ふじのくにの大地」では、静岡の動植物ほ乳類をただ並べたのではなく、静岡の里山における食う-食われるという食物網を多数の標本を用いてテーブル上に連鎖させて配置している(図4)。「自然を大切に」というシンプルなメッセージだけではなく原点から一歩踏み込んだ、自然と人間の新たな相互関係を考えるきっかけを忍ばせている。

続く展示室9には、対話を誘発する要素を空間に盛り込んだ。部屋の中央にはドーナツ型の会議テーブルがあり、インタープリター(サイエンス・コミュニケーター)が来館者に対して、人間活動により増大する環境問題について問いかけ、議論する。例えば、水不足の問題では「将来、使える水の量は現在の4分の1になる。さてどうする?」といった問いかけである。問題の解決に向けたヒントは、次の展示室10で展開されている。先ほどの水不足の問題では少量の水から大量の泡を作り出す昆虫・アワフキムシの生態を示しながら、10分の1の水量で泡のお風呂を作る研究が紹介されている。さらに展示室10の最後の部分では未来を自分のこととして捉え、それに向けた行動を促すよう、「百年後の静岡が豊かであるために」自分に何ができるのかを記す豊カリウムという掲示板を設けた。

ミュージアムは、来館者が考えることを楽しむために、伝え手は問いかけの「種」を蒔き、来館者はその種から、思考を促し、対話を促し、行動を促す展示フローとなっている。美術館で作品を鑑賞するように、まずは展示とじっくり向き合い、考えを巡らせながら見ていただきたいという伝え手の想いを込めて、解説文は極力少なく、展示ラベルの大きさも控えめにした展示表現になっている。

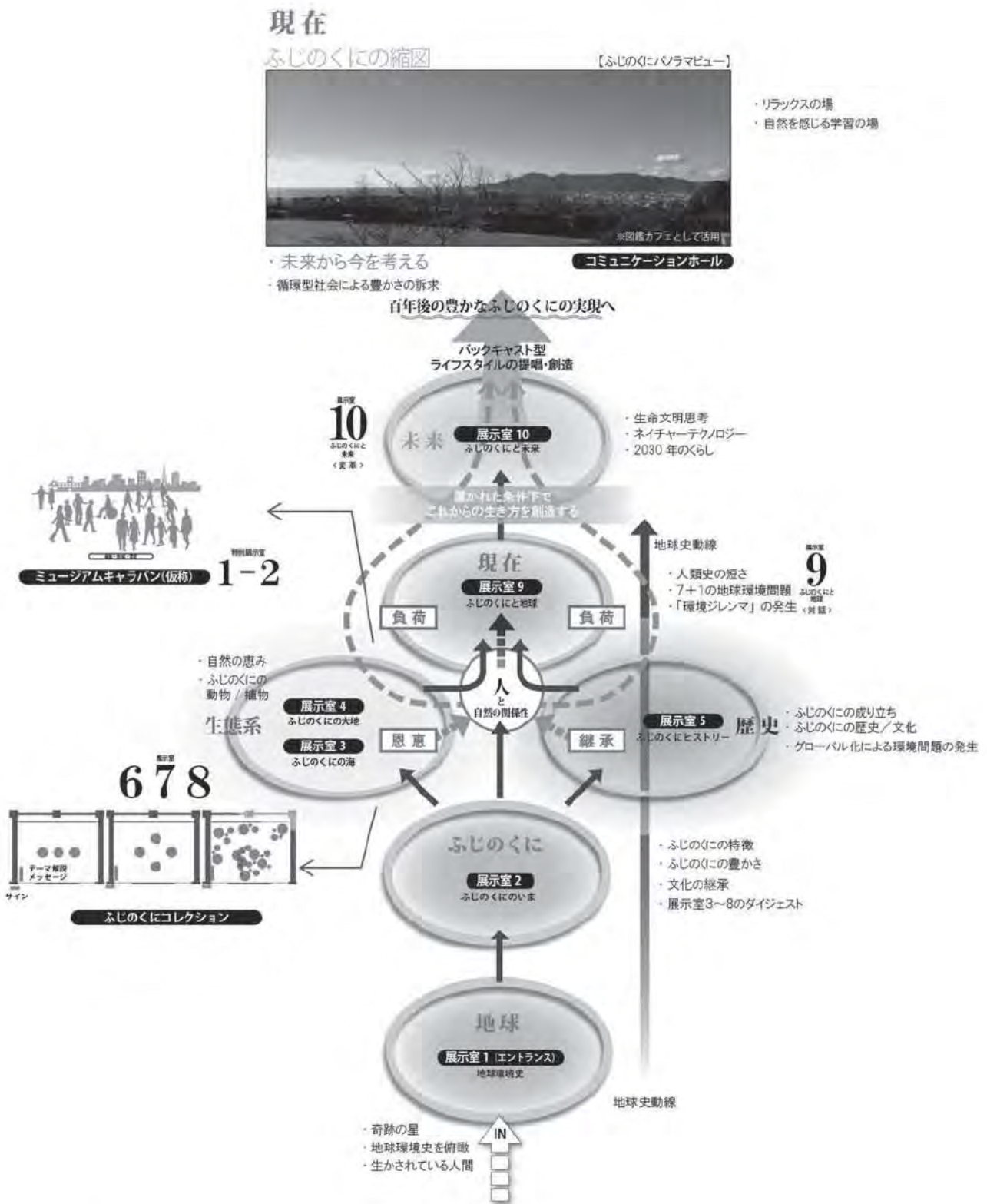


図2 展示の展開ストーリー(当初案)



ふじのくにの自然の過去・現在・未来を巡る  
ミュージアムへようこそ！



図3 展示案内パンフレット



図4 展示室4「ふじのくにの大地」

## 高校リノベーション

ミュージアムの特徴のひとつは、高校校舎の再活用(リノベーション)である。生徒数減少による高校再編によって空き校舎となった建屋を改修して、ミュージアムはつくられた。1983年に開校した静岡県立静岡南高校の校舎は、新耐震基準を満たした比較的新しい建屋であるため、屋内のみの改修で済んでいる。改修工事は、閉校後の2013年春からはじまった。教室は展示室として、天井を外して広い空間として、間仕切り壁を窓側に新設し、遮光をおこなった。また、調理室などの特別教室は収蔵室として、遮光フィルムや気密性を高める扉を新設した。

展示空間デザイン設計においても、高校リノベーションを一つの要素とし、展示室各所に学校の香りを残した。このことで、思考を誘発するさまざまな仕掛けを忍ばせた。

来館者が、各展示室に入るとまず目にするのは、誰もが自身の経験の中で必ず目にして学習机や椅子である。しかしそれらの什器は、背中合わせになっていたりと、傾いていたりと、通常のレイアウトとは異なる配置となっている。これは各展示室のテーマの核心を直感的に感じさせる工夫のひとつである。学校什器を活用することで、来館者に身に染み込んでいるであろう過去の学びの経験(マインドストーリー)を再び体に思い起こさせ、本来とは別の配置をすることで、考える行為を自然に誘発する仕掛けとしている(図5)。

このようなデザイン性に富む思考型展示が、DSA日本空間デザイン賞2016(主催:一般社団法人 日本空間デザイン協会)において、総数785点の応募作品のグランプリとなる、DSA空間デザイン大賞を受賞した。イギリスではFX国際インテリアデザイン賞の博物館・展示スペース部門で最優秀賞を受賞した。この快挙が、静岡県で、世界レベルで評価された機関や人をまとめた「静岡県における世界水準の魅力」の44番目に選ばれた。



図5 展示室3「ふじのくにの海」

## 見えてきた課題

思考型展示を目指したミュージアムの展示デザインでは、展示解説は簡潔かつ、訴えたいことを適切に伝えることができるよう言葉を絞りこんだものとなっている。考える行為を導くよう、心に響く、高いメッセージ性を重視したためである。そのため、情報に対して受け身の来館者や子どもにとっては、情報が不足することや、わかりづらいと感じることもあるようである。

また、同様な理由で、標本を陳列する台が高い位置に存在することや、キャプションラベル等の文字サイズも極力小さくなっている部分もある。そのため、幼児や高齢者などの来館者には、館側が伝えたいテーマを吸収する以前に、ストレスと感ずることもあるようである。これらは、思考型展示の課題である。

ミュージアムでは展示室ごとに問いかけを記したマイミュージアムノート(ワークブック)を展開(図6)し、その問いかけに答えながら展示室を巡ってもらうという方法を導入することで、より多くの方に思考体験ができるような工夫もしている。今後、マイミュージアムノートのコンテンツを充実させることで、より多様な思考体験を提供していきたいと考えている。

それと同時に少なめの解説を補い、「思考」をひらくためには、それを助ける「対話」も重要である。そのため、研究員等のスタッフ、ミュージアムサポーターと名付けたボランティアスタッフ、ミュージアムの諸活動をサポートするNPO法人静岡県自然史博物館ネットワークのメンバー、業務委託による展示監視を兼ねたサービススタッフら様々なミュージアムのメンバーと来館者の対話の充実が重要と考える。また来館者同士の対話を引き出すことも課題である。

今後は来館者との対話を通じて、これらのコンテンツの質をより高めていながら、来館者の満足度を高め、リピーターを確保することを目指していかなければならない。そのためには、人材の確保やスタッフの研修等、「人」を磨いてゆく努力が何よりも必要と考えている。



図6 学校団体用に用いているマイミュージアムノート(ワークブック)

## ミュージアムが考える「本当の豊かさ」

前述したように展示室10の最後の部分では「百年後の静岡が豊かであるために」は、自分に何ができるのかを記す豊カリウムという掲示板を設けている。これは、この掲示板には、前日の来館者が書いたそれぞれのこれからの豊かさが描かれている(図7)

ミュージアムでは、掲示板に掛けるカードに以下の4つの問いかけをおこなっている。

- ① あなたにとって「豊かな暮らし」とは何ですか?
- ② 人間活動をこれ以上肥大化させないためには、何が必要だと思いますか?
- ③ 100年後の静岡が豊かであるために、あなたは何ができますか?
- ④ あなたが100年後の静岡に残したいものは何ですか?

①で想像(イマジネーション)し、②で創造(クリエーション)し、③はそのための行動(アクション)になり、④はデザインしたものの象徴(シンボル)が残るように仕掛けている。

「豊かさ」の尺度は、人それぞれであるため、明確な答えはない。ミュージアムは、この「豊かさ」に対して、実は、隠された解を持っている。それは、「自然に生かされていることを知り、自然を活かすことを楽しみ、自然を往なすことを覚える」ことである。これは、展示全体を通じて来館者に訴えていきたい地球のことを考えた暮らし、あるいは日本人の自然観をもった暮らし方を再考する際、我慢ではない暮らし方を提案しているものをまとめたものである。本研究報告では、カード①豊かな暮らしとは何かについての問いかけから、静岡県民が考える潜在的な豊かさを考察する。



図7 展示室10の豊カリウム

## 「本当の豊かさ」を構成する52の要素

石田・古川(2014)では、人々は豊かさというものに対して、「利便性」を追求するとともに、「楽しみ」や「自然」を潜在的に求めていることを明らかにしている。ミュージアムで発信するこれからの「本当の豊かさ」にも、自然と人・社会が協調した「利便性」ではない「楽しみ」や「自然」の要素を、来館者に気付きとして感じる仕掛けを展開している。

静岡県民が考える豊かさを要素分解する方法として、自然とともに生きた戦前の暮らしをしてきた90歳ヒヤリングから求めた45のヒント(石田・古川、2014)と照らし合わせる。

45の項目と要素に含まれるキーフレーズは以下のとおりである。

### 1 自然に寄り添って暮らす

〈キーフレーズ〉風を通す。お天とさんとともに。季節の変化で段取り。自然のサインを読む。

### 2 自然を活かす知恵

〈キーフレーズ〉葉も根も実も活かす。井戸で冷やし、温泉で温まる

### 3 山、川、海から得る食材

〈キーフレーズ〉山がもたらす季節の恵み。田んぼも堀も魚の宝庫。海がもたらすごちそう。

### 4 食の基本は自給自足

〈キーフレーズ〉穀物と野菜を育てる。粉ひき、油しぼり。鶏肉・ウサギ肉。

### 5 てまひまかけてつくる保存食

〈キーフレーズ〉干し餅、水餅、凍み餅。味噌があれば安心。干し栗。冬の備えは漬物。しょっぱい魚。万が一に備える。

### 6 質素な毎日の食事

〈キーフレーズ〉麦ごはんに一汁一菜。魚がタンパク源。一人ずつのお膳。出かけるときは弁当を持つ。甘いおやつが待ち遠しい。

### 7 ハレの日はごちそう

〈キーフレーズ〉心踊る祭りの膳。正月を迎える。

### 8 野山で遊びほうける

〈キーフレーズ〉遊びの工夫。山や川で遊ぶ。浜で遊ぶ。どこでも遊び場。子ども同士。自然からもらうおやつ。

### 9 水を巧みに利用する(水を使い分ける、水を確保する)

〈キーフレーズ〉湧き水・沢水。家の前の堀。井戸水。水汲みの苦勞。水売り。

### 10 燃料は近くの山や林から

〈キーフレーズ〉杉の葉を拾う。薪を切り出す。松葉をさらう。



垂炭で風呂炊き。

11 家の中心に火がある

〈キーフレーズ〉 囲炉裏を囲む。火鉢に集まる。煮炊きはかまどで。火のやりくり。ほのぐらい明かり。

12 自然物に手をあわせる

〈キーフレーズ〉 自然からいただく力。神様に拝む。

13 庭の木が暮らしを支える

〈キーフレーズ〉 果樹の恵み。大木を役立てる。

14 暮らしを映す家のかたち

〈キーフレーズ〉 農作業ための大きな屋敷。保管のための蔵や小屋。境のない間取り。

15 一年分を備蓄する

〈キーフレーズ〉 燃料を備える。

16 何でも手づくりする

〈キーフレーズ〉 女の針仕事。縄ない。藁仕事。

17 直しながらいいに使う

〈キーフレーズ〉 仕立て直し。道具の手入れ。

18 最後の最後まで使う

〈キーフレーズ〉 ものを使いまわす。食べものは捨てない。あくを貯蔵する。ゴミは堆肥にする。貴重な人糞。

19 工夫を重ねる

〈キーフレーズ〉 考えながらつくる。

20 身近に生きものがいる

〈キーフレーズ〉 どの家にもいた馬。家の中で飼う。肉と乳と蜜を得る。野山や川で。

21 暮らしの中に歌がある

〈キーフレーズ〉 伝えられる仕事歌。掛け声が響き渡る日。

22 助け合うしくみ

〈キーフレーズ〉 結で行う田植え。屋根葺き替えは共同作業。葬式は地域で。海辺の助け合い。共同で確保する燃料。数軒で分け合う水。集落中が使う水車。助け合いの心。

23 分け合う気持ち

〈キーフレーズ〉 火をもらう。お風呂をもらう。あふれる人情。

24 つきあいの楽しみ

〈キーフレーズ〉 家族のようにつきあう。地域の集う場。

25 人をもてなす

〈キーフレーズ〉 客を迎える。おふるまいを受ける。

26 出合いの場がある

〈キーフレーズ〉 地域の出合いの場。外の人と出会う。

27 祭りとの楽しみ

〈キーフレーズ〉 年に一度の楽しみ。祭りのにぎわい。祭りの

ごちそう。

28 行事を守る

〈キーフレーズ〉 家長がになう。子どもたちの行事。季節の節目に。地域で守る。

29 身近な生と死

〈キーフレーズ〉 兄弟や子の死。家の中のお産。

30 大ぜいで暮らす

〈キーフレーズ〉 10人以上の大家族。住み込みの人。

31 家族を思いやる

〈キーフレーズ〉 年長者との交流。親を思う、子を思う。

32 みんなが役割を持つ

〈キーフレーズ〉 お嫁さんの仕事。家長の役割。年寄りも働く。

33 子どもも働く

〈キーフレーズ〉 年齢に応じて手伝う。おつかい。農作業。水汲み・風呂炊き。掃除。子守り

34 ともに暮らしながら伝える

〈キーフレーズ〉 摂理を教える。観察することから。知識を教える。知恵を伝える。

35 いくつもの生業を持つ

〈キーフレーズ〉 半農半漁。生業を組み合わせる。こづかい稼ぎ。売りに出る。

36 お金を介さないやりとり

〈キーフレーズ〉 手伝いでやりとり。物々交換。

37 町と村のつながり

〈キーフレーズ〉 村から町へ。町と村をつなぐ店。

38 小さな店、町場のにぎわい

〈キーフレーズ〉 軒を並べる店。職人仕事に見入る。

39 振り売り、量り売り

〈キーフレーズ〉 売りに出る。魚売りがくる。お菓子屋がくる。季節の行商人。量り売りで買う。

40 どこまでも歩く

〈キーフレーズ〉 歩くのが基本。馬で運ぶ。鉄道で行く。

41 ささやかな贅沢

〈キーフレーズ〉 装う楽しみ。心踊るごちそう。くつろぐひととき。

42 ちょっといい話

〈キーフレーズ〉 子どものころ。思い出の人。長生き。まちに暮らす。暮らしの1コマ。

43 ちょうどいいあんばい

〈キーフレーズ〉 おおらかな心持ち。ほどよい加減。

44 生かされて生きる

〈キーフレーズ〉 苦労も楽しみも。

#### 45 家族をつくる

〈キーフレーズ〉結婚相手を探す。いくつもの名前を持つ。

さらに、今回の項目分けの過程において、上記に該当しない豊かさが存在している。そのため、46 健康・心、47(包括的な)自然・ロマン・夢、48 平等、49 戦争がない・平和、50 原発がない、51 わがまま・ぜいたく・お金がある、52 今のままの、7つの追加項目を設定した。

#### 静岡県民が考える「本当の豊かさ」とは

ミュージアムの来館アンケートでは、来館する方の約90%は静岡県内である。約10%は県外の意見であるものの、今回はそのすべてを静岡県民の考えとして、一般オープン後一か月間(2016年3月26日～4月24日)のデータを集計して静岡県民が考える「豊かな暮らし」を検討した(図8)。

その結果、第1位は1 自然に寄り添って暮らす(68票)、第2位は44 生かされて生きる(48票)、第3位は31 家族を思いやる及び、43 ちょうどいいあんばい(各26票)、第5位は52 今のまま(19票)であった。第5位までで全体の約半分の割合を占めていた。このことから、静岡県民は「本当の豊かさ」というものにたいして、「自然」「家族」「バランスのよいつながり」が、豊かさを作り上げるために、潜在的に強く存在していることが示唆された。一方で、現状を維持する将来に対する不安感も垣間見えることも示された。

今後も、集計・分析を進め、その結果については、ミュージアムが刊行する年報などで報告をする予定である。

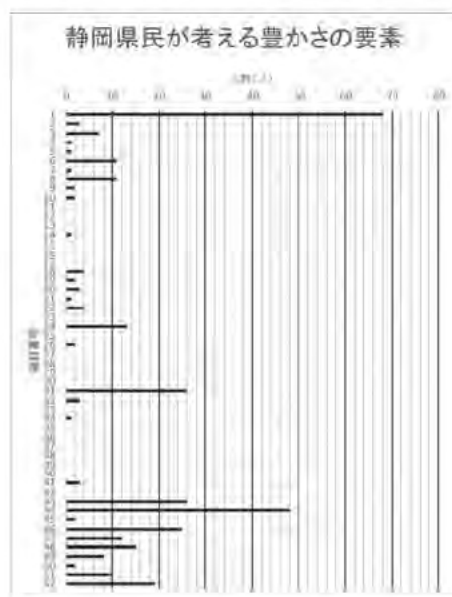


図8 問いかけカード①に対する豊かさに関する52項目の分布

#### おわりに

開館して約1年が経過する現在、展示室10の豊カリウムに掲示されているカード③「100年後の静岡が豊かであるために、あなたは何ができますか?」の問いかけに対して、「我慢」「節約」など、豊かさの構築のために、まずは除外したい長続きしない方法が散見されている。これは、まだまだ私たちミュージアムが伝えたい思いが浸透しきれていないことを示している。ミュージアムでは、常設展示以外にも、各種普及教育イベントを実施し、心豊かなワクワクする未来の静岡を作り上げられよう、その発信に努めていきたい。

謝辞: 本稿をまとめるにあたり、東北大学名誉教授の石田秀輝氏、東京大学総合研究博物館特任教授の洪恒夫氏、株式会社丹青社の加藤剛氏、石河孝浩氏、篠原宏一氏、山田晃裕氏、県立磐田西高校の小室桜子氏、岸本年郎氏・鈴木啓和氏をはじめとするふじのくに地球環境史ミュージアムの職員には大変お世話になった。ここに記して感謝申し上げます。

#### 引用文献

石田秀輝・古川柳蔵 (2014) 地下資源文明から生命文明へ。東北大学出版会、158p.  
 Lewis, S.L. and Maslin, M. A. (2015) Defining the Anthropocene. Nature, 519, 171-180.

# 企画展「静岡のチョウ 世界のチョウ」の開催

## ～新たな展示スタイルの試み～

ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授 岸本年郎

### はじめに

ふじのくに地球環境史ミュージアムは静岡県立の自然系博物館として、統廃合の結果空き校舎となった高等学校のリノベーションにより、2016年3月にオープンした。今回、2016年12月10日～2017年3月26日の期間、当館初の有料の企画展として「静岡のチョウ 世界のチョウ」を開催している。当館の常設展では10の展示室があり、展示室1では当館の名称にある「地球環境史」についての導入、2～7までは静岡県の自然と環境史に関する展示、8ではヒトを含めた脊椎動物の骨格の展示、9では人間が環境に与えている負の影響の伝達、10では未来の生き方を考える場所と位置付けて展開している。必然、上記以外の内容、例えば県内に産しない地球上の様々な生物の多様性についての展示は、館内では企画展を通じてみせることになる。筆者は当館の設立準備のため、2014年6月に静岡県に奉職したが、赴任直後より最初の企画展はチョウを題材に展開したいと考えており、その構想を今回、実現することができた。本稿では本企画展の基本コンセプトと概要について、新たな展示スタイルへの試みを含め紹介する。

### 背景

当館設立以前より、静岡県では自然史資料の収集保管事業を行っていた。2003年から、県内各地を中心とした研究者・愛好家が収集した自然史標本を、県が寄贈を受け、当初は県教育委員会三島分館に、後に旧中部健康福祉センター庵原分庁舎において保管を続けていた。様々な貴重な標本が寄贈され現在に至るが、なかでも昆虫標本、特にチョウ類の標本の充実が群を抜いている。静岡県には「静岡昆虫同好会」という、主に非職業的研究者と愛好家からなる団体が活動している。この会は1953年に設立され、今年で創立64年を迎える全国でもかなり老舗の部類に入る昆虫同好会である。このメンバーを中心とした方々から多数のチョウ類の寄贈がこれまでになされ、当館に保存されている。開館して間もないミュージアムであるが、静岡県の地域の自然史を研究するた

めに貴重な歴史的な資料に加えて、世界各地のチョウ類の多様性を俯瞰できるようなコレクションが既に形成されていた。ご寄贈頂いた多くの方々へのご厚意に報い、また、当館所蔵の重要コレクションの披露もかねて、これらのコレクションを活用した企画展を開催することにした。

### 展示テーマと内容の構成

本展では①チョウという生物の多様性、②人と自然の関係がチョウに与える影響、の2点にテーマを絞り展示構成を企画した。①については、世界には約18,500種、日本に約250種のチョウが生息しており、静岡県だけでも141種のチョウが生息している。それらチョウの1種1種が、それぞれに独自の進化の歴史を持っている。あるチョウがその地域に分布しているということは、その種が歴史的時間のなかで、その場所にたどりつき、現在も好適な環境であるために、その場所で生息しているということが重要である。②については人間活動がチョウの生息に影響を与え、あるチョウは滅び、あるチョウは栄えているということがある。里山の雑木林や草原は、かつては人間が利用し、手入れして管理することで維持されていた環境だが、現代の生活ではこのような環境は不要となってしまい、急速に環境が変貌している。そのような変化の中で特に草原性のチョウが全国的に衰退しており、静岡県から絶滅したと考えられる6種のチョウはすべて草原性のチョウである。その一方で、温暖化や餌となる植物の植栽、耕作地の放棄等の人間活動の影響により、特定のチョウの生息には好適な環境が拡大し、個体数を増加させているという現状もある。以上のような観点を、本企画展で伝えたい内容の軸に据えた。なお、当館では「地球環境史」という言葉を、「人と自然の関係性の歴史」と定義しており、テーマ②は当館の基本コンセプトにもよく合致したものとなっている。

会場は91㎡の企画展示室1(図1)と59㎡の企画展示室2を使用し、以下の構成で展開した。

〈企画展示室1〉

1. イントロダクション
2. 静岡のチョウ大全集
3. 減少するチョウ
4. 増加するチョウ
5. 世界のチョウ
6. 世界の至宝
7. 「種」と変異
8. 蝶と蛾
9. 消える 似せる
10. チョウを描く チョウを書く

〈企画展示室2〉

コレクション展

上記、1から5は展示室の壁面を用いて、6から10については展示室のフロアに什器を設置して展開した。3、4及び10については展示テーマ②の人と自然の関係についての内容、それ以外は展示テーマ①のチョウの多様性に関する内容である。

平面図

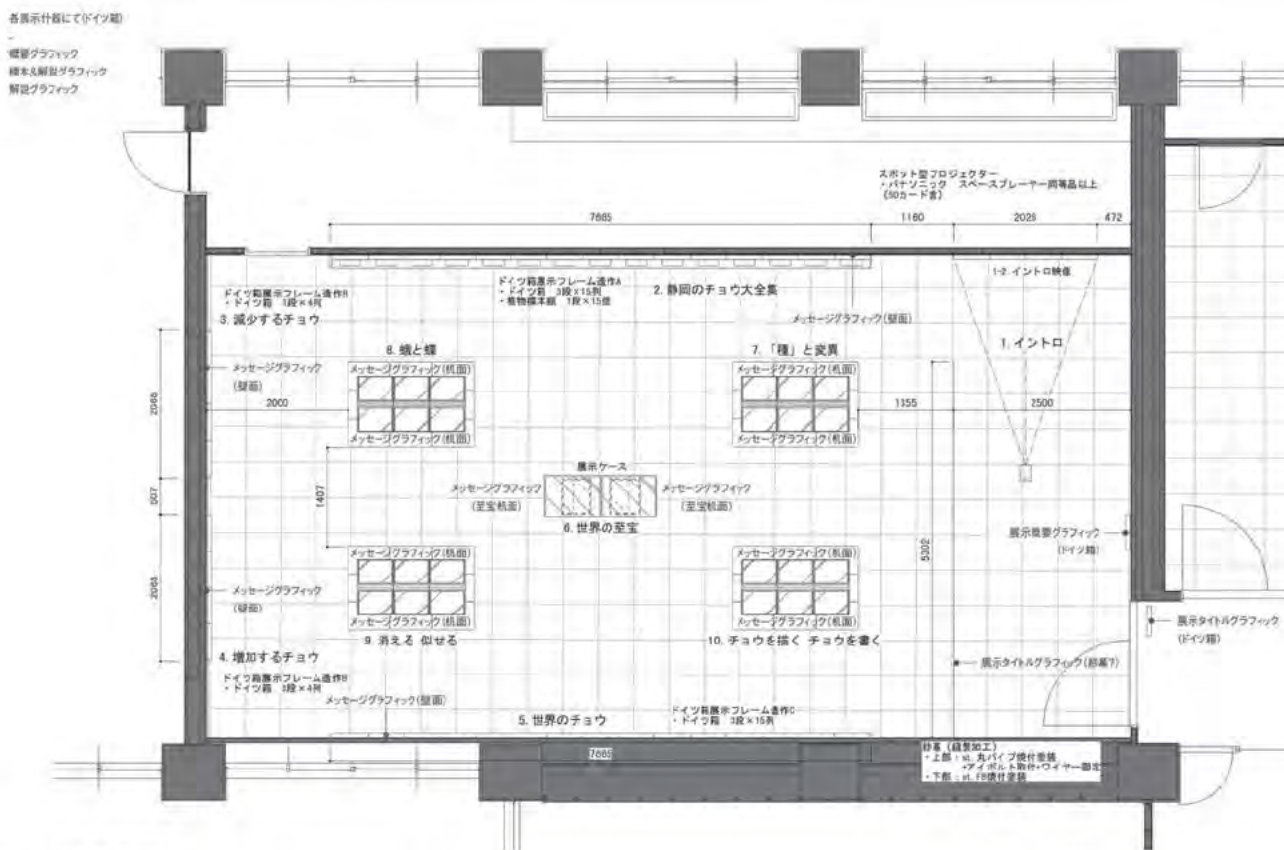


図1 展示平面図

## 〈企画展示室1〉

### 1 イントロダクション(図2)

導入の「企画展開催にあたって」のあいさつと映像によるイントロダクション。約1分30秒の映像を作成し、音楽とともに繰り返し、絶え間なく流すことで、BGMの効果も与えた。ここでは、部屋の入口から中がすぐには見えなように、黒色の紗幕で視覚的な境界を設け、そこには「チョウがつなぐ人と自然の歴史 ストーリー チョウがつむぐ生命の物語」という展示内容を期待させるメッセージをあしらった。



図2 イントロダクション映像と紗幕

### 2 静岡のチョウ大全集(図3)

約7.5mの壁面にわたりドイツ型標本箱を3段×15列はめ込むことのできるフレームを設置し、その下方にはチョウの幼虫の餌植物の腊葉標本を陳列した。ここでは、静岡県に生息する141種のチョウ全種の他、代表的な生息地について写真で紹介した。



図3 静岡のチョウ大全集

### 3 減少するチョウ 4 増加するチョウ(図4)

同一壁面を利用しドイツ型標本箱3段×4列のフレームを2つ並べて設置した。減少するチョウでは静岡県から絶滅したと考えられるチョウを標本箱1箱に1頭のみだけを配置したのに対して、増加するチョウはなるべく標本箱の中に多数の個体を配置して対照が際立つように並列した。



図4 減少するチョウ 増加するチョウ

### 5 世界のチョウ

対面する「静岡のチョウ大全集」と同様のフレームを設置し、ユーラシア、熱帯アジア、北アメリカ、中央・南アメリカ、アフリカ、オーストラリア・オセアニアの生物地理区ごとに分割し、世界各地の代表的なチョウ約910種1400頭を展示した。煌びやかなチョウも多く展示し、本展の華となったコーナーである。

### 6 世界の至宝(図5)

展示室の中央にドイツ型標本箱が1つだけ収まるケース付什器を2器配置して、国際的に希少な種の展示を行った。会期が始まって約1ヶ月間は、東京大学総合研究博物館から借用したブータンシボリアゲハとその標本ケースを展示した。この標本及び標本ケースはブータン国王陛下から贈呈されたもので、所蔵館以外での初の長期展示となった。本種の標本の返却以降は、当館に所蔵されるアレクサンドラトリパネアゲハとルソンカラスアゲハの2種のワシントン条約付属書Iに掲載されているチョウを展示した。



図5 世界の至宝

## 7 「種」と変異

チョウにおける種と同種内の変異をテーマに、かつては同種と考えられていたが、研究の結果、別種であることが判明した事例と、斑紋が明らかに異なるものの同種内の地域変異で亜種として捉えられている事例について紹介した。

## 8 蛾と蝶

チョウとガは二大別される群ではなく、鱗翅(チョウ)目という分類群の中の、ある一群をチョウと呼んでおり、多くのガの中にチョウが含まれていることを伝え、あわせてガにも美しく麗しい種がいることも紹介した。

## 9 消える 似せる

チョウの紋様・形態のうちカムフラージュ(隠蔽)として枯葉等に似たチョウがいること、まるでフクロウやヘビの目のような眼状紋の役割、毒のあるチョウに毒のないチョウが似せるベイツ型擬態、毒のあるチョウ同士が似た紋様となるミュラー型擬態について紹介した。

## 10 チョウを描く チョウを書く

チョウを「描く」では、デザインにモチーフとして取り上げられるチョウとして、伝統的な家紋で描かれるものと日用品のデザインとして描かれたチョウを紹介。「書く」では北杜夫とヘルマン・ヘッセの文学作品に取り上げられたチョウについて紹介した。

## 〈企画展示室2〉

### コレクション展

当館では昆虫のみで数十万点のコレクションを既に収集しており、それらは普段来館者の目に触れることなく、収蔵室に大切に保管されている。ミュージアムが担う収集・保管機能の重要性を知って頂くためにも、収蔵品を少しずつピックアップして紹介する「コレクション展～ふじのくに地球環境史ミュージアム収蔵品紹介～」という展示を行うこととした。その第1回目として、今回の企画展と合わせて「静岡昆虫同好会メンバー収集のチョウ類コレクション」を、本展の第2部として展開した。ここでは、アクリルのカバーをつけた汎用性の高い特製の展示什器を6器作成し、1器ごとに収集者別のコレクション紹介を行った。標本を収集された方々の情熱と努力が伝わる展示となったのではないかと考えている。

### 展示手法とデザインにおける特色

#### I 常設展デザインとの統一感

旧高校校舎を活用した当館においては、学校教室を展示室にリノベーションしているために、大きな空間の確保が困難であるという制約を逆手に取り、教室単位のコンパクトな空間で、部屋ごとに印象の違った展示を目指し、従来の博物館にはあまり見られなかった新たな展示デザインを模索してきた。シンプルで資料を主役にした展示デザインに、高校時代に実際に使用されていた机や椅子といった什器を活用したことや、伝えたい内容を吟味の上、言葉にこだわって解説文の量を少なくする等の工夫をした常設展を展開している。常設展は、DSA日本空間デザイン賞大賞、FX国際インテリアデザイン賞(ミュージアム・展示スペース部門)最優秀賞受賞をはじめ、複数の国内外のデザイン賞の受賞もしくは最終選考に残るという名誉を頂き、一定の評価が得られたものと考えている。今回の企画展においても、常設展の展示デザインとの統一感を重視した。展示設計・施工は(株)丹青社に委託し、デザイナー、プランナー、マネージャー等の主要メンバーについては、常設展設計と同じ顔触れで取り組むことができたことも、展示全体の統一感の確保という点では重要であった。

#### II シンプルな展示

今回の企画展ではパネルはほとんど使用していない。企画展示室2で展開しているコレクション展部分については、若干のパネルを使用した。本編である企画展示室1では壁に直接吹き付けたリード文や解説文(図6)、ドイツ型標本箱の

ガラス面に解説文を印字したフィルムをはりつけたもの(図7)、展示台へ直接カットシートで作成した文字を張り付けること(図8)で、解説・キャプションを展開している。また、これら解説・キャプションの色は黒もしくは白で、他の色は使用していない。パネル類を使わず、文字の色を抑えることで、チョウの標本の存在と色彩をより強調し、すっきりと洗練された印象となったものと考えている。標本箱そのものを解説板とするアイデアは、当館が展開する移動ミュージアム「ミュージアムキャラバン」において、移動型の特別展示ユニットの開発の際に生まれたものである。主に学校の教室で展開することを前提にしたミュージアムキャラバンの展示ユニットのフレームは、標本箱をはめ込む形に統一している。その際解説はドイツ箱の底面に黒地のバックにネガポジ反転させたモノトーンの画像等をあしらひ、ガラス面に白文字で解説文を印刷したフィルムを張り付ける形式に統一した。本企画展では新たに写真画像をフィルムに印刷し、標本箱のガラス面に貼るという手法も用いた。今回作成したドイツ型標本箱の解説は、企画展終了後も、ミュージアムキャラバンでも活用できるものとなっている。常設展同様、学校什器の活用も行い、フロア中央部の展示ケースを新たに作成した他、フロアの展示台は学校の机6台を並べ、結束バンドで脚の部分を固定し、その上に標本箱6箱が斜めにおけるフレームを設置しただけのごくシンプルな構造の展示台を4ヶ所に島状に作成し、それぞれの島でテーマを持たせて展開した(図9)。

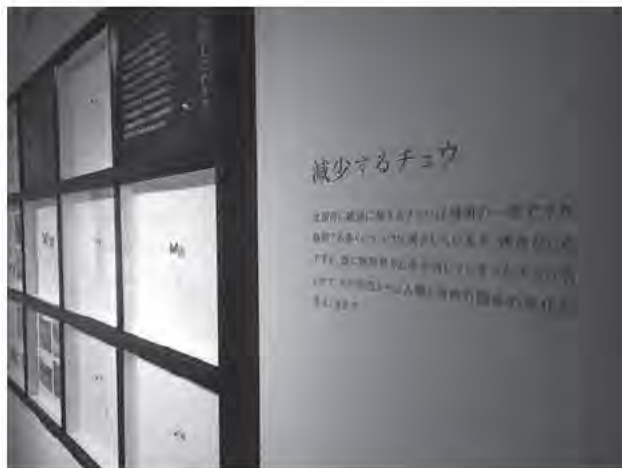


図6 壁に吹き付けた解説



図7 ドイツ型標本箱を使った解説



図8 カットシートによるリード文



図9 学校の机を並べた展示台

### Ⅲ 言葉へのこだわり

解説文では何が伝えたいことなのかを吟味しながら、極力少なめにすることに努力した。この試みは常設展の製作の際にも強く意識したことであり、資料(ここではチョウの標本)に来館者の注目が向くように、また情報過多により結局何が伝えたいのか分からなくなることを避けたいという思いがある。字数は少ないが、そこでの主題のヒントになるようなリード文を大きく示すことで、来館者の思考を促すことにも配慮した。例えば、「減少するチョウ」のコーナーでは、「静岡でチョウが減っている?」、対する「増加するチョウ」のコーナーでは「静岡でチョウが増えている?」とし、「種」と変異」のコーナーでは、良く似た同種に対しては「同じに見えても違う」、同種内の変異の顕著な亜種の紹介のところでは「違って見えても同じ」というリード文を掲げ、来館者の思考を引き出すためのフックのような役割を果たすことを期待した。

### 図録・ポスター・チラシ

全カラー132ページの企画展図録を作成した。内容は3部構成とし、第I部を「静岡のチョウ」として、静岡に生息するチョウ全種のそれぞれ1個体を原寸大で掲載するとともに、斑紋のディテールの美しさを見せる狙いで見開きに1種以上の拡大写真を配置した。第II部「世界のチョウ」では、それぞれの地域ごとに代表的で優美なチョウを中心に、こちらも大胆な拡大写真とともに見せている。ここでは東京大学総合研究博物館所蔵標本で本展のために借用したブータンシボリアゲハとシャクガモドキについて、同博物館の矢後勝也助教からご寄稿頂いた。また、チョウに造詣が深い方向けのページとして、当館所蔵の木暮翠コレクションから、世界のベニヒカゲ属の所蔵されている全種の表裏の写真を原寸で掲載した。同コレクションは世界的にもレベルの高いもので、一見地味であるが格調高い斑紋を持つ同属の世界の多くの種が、鮮明な画像で印刷されたことは学術的にも利用価値の高いものとなるだろう。第III部は「人の暮らしとチョウの暮らし」として、減少するチョウや増加するチョウ、そしてチョウと人類の未来についての論考を、展示室内では解説できなかった内容を含め掲載した。全体としてデザイン性高く編集された本図録は、これまでの昆虫の展示図録にはないテイストのものとして仕上がったと考えており、手に取られた方からは好評を博している。表紙のデザインは上部に静岡のチョウ9種、下部に世界のチョウ9種のそれぞれに美しいチョウの翅1枚を放射状に配置したものであり(図10)、このデザインを基に

してポスター、チラシを作成し各所に掲示、配布を行った。



図10 企画展図録表紙

### 課題と展望

今回の企画展では狭い空間においてなるべく多様性を見て頂きたいとの思いから、約1,400種6,000頭の成虫標本を展示したが、その分、卵、幼虫、蛹期等を含む生態の紹介はほとんどできず、来館者の一部から聞く「生きているチョウや生態写真も見たい」などの声にも対応できていない。これらの点については、また別の機会を作って展開することを考えたい。

また、今回の企画展と常設展を通じて、来館者から「ラベルが小さい」、「解説が少ない」という感想を頂くことが比較的多い。大きなラベルは今回のように多くの標本を展示した場合に、一つの標本箱に入る標本の数に制約を与えることと、デザイン上の洗練を損なうことがあると考えている。解説が少ないことについては、展示物に集中させる効果を狙うとともに、来館者の思考を拓くことができればと考えている。また、生まれた疑問をスタッフやミュージアムサポーターとの対話により、気づきや答えにたどりつくこと、より深い好奇心や興味を育むことにつながることを願っている。こうした字の小ささ・解説が少ないという問題については、解説サービスの充実や現在も実施しているルーベの貸出に関する情報の徹底等、来館者オペレーションについても検討し、改善していく必要があるだろう。一方で、「博物館という空間は好きではな



かったが、ここはゆっくり見ることができる」という方もおられる。こうした問題については、唯一の正解というものはないが、展示を作成する側が、意識して空間デザインを構築する必要があることは間違いないだろう。

“horror vacui”という言葉がある。空間恐怖や余白恐怖とも訳されることのある語であるが、デザインにおいては、空間があると埋めたくなる、モノを置きたくなる、字を入れたくなるという心情を表すことが多い。筆者もかつては、展示作成やデザイン制作においては、空いた空間があると何かで埋めたくなったものだ。しかし、当館の企画・デザイン制作を進める経験を通じて、余白空間があることで、そこに置かれたモノの存在や書かれた文字の意味を引き立てる効果を持つことがあることにも気づくことができた。時には、びっしりとモノや言葉で埋め尽くされた展示も、大きな視覚効果を与えることもあり、どちらが良いかというものではなく、重要なのはそのバランスであろう。本企画展においてもそのバランスを考慮しながら設計・列品を行ってきたが、そうした能力を磨くには良質な展示を多く見てセンスを研ぎ澄ませていくしかないであろう。これからも、観覧者に印象を残すような、良質な展示を模索し、挑戦し続けていきたい。

## 謝辞

本企画展の開催に当たり、学術監修を務めて頂いた東京大学総合研究博物館矢後勝也助教、展示監修を務めて頂いた同博物館洪恒夫特任教授には様々なご教授・ご鞭撻を賜った。静岡昆虫同好会のメンバー、特に池谷正、清邦彦、諏訪哲夫、鈴木英文、高橋真弓の諸氏には、開催準備に並々ならぬご協力を頂いた。NPO法人静岡県自然史博物館ネットワークのメンバーには、常日頃よりミュージアムの収集保管をはじめとする様々な事業への惜しみない協力を頂戴している。静岡大学教育学部伊藤文彦教授には horror vacui という概念について教えて頂いた。本企画展を設計・施工を担当して下さった(株)丹青社の石河孝浩、篠原晃一、山田晃裕及び氏デザインの前田豊、平賀美沙子の諸氏、図録、ポスター、チラシのデザイン、制作に尽力頂いたニューカラー写真印刷(株)の中田俊雄、松田聡子の両氏には、タイトなスケジュールのなか、高品質の成果物を納品頂いた。上記の方々のご協力がなければ、本企画展の開催は成し得なかった。ここに記して厚くお礼申し上げる。



## 静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 3

立花 義彰

昭和32-34年の県内美術を語る上で、国体の存在を無視する事はできない。昭和32(1957)年、静岡県内で戦後初の開催となる第12回国民体育大会(静岡国体)が行なわれた。水泳他の夏季大会が9月22日から25日浜松市、伊東市で、陸上競技他の秋季大会が10月26日から30日に静岡市他11市3町1村の56会場で開催された。これに関連する美術の企画も多数あり、静岡市郊外の県営草薙運動場に、堤達男、杉本宗一、水野欣三郎、大村政夫、山口益ら県内彫刻家のセメント彫刻が登場したほか、県民会館を会場として10月25日から11月1日までの会期で国体協賛スポーツ芸術展が行なわれた。同芸術展審査員には藤井浩祐の他、県外から東山魁夷、中村研一、山崎覚太郎らの大家が招かれている。

駿府公園は公園法に基づく整備が行なわれ、戦災を免れた旧歩兵34連隊本部及び兵舎が撤去され、丹下健三設計の駿府会館が建設された。駿府会館も柔道、バスケットボール、バレーボール競技の会場として計画されたがその完成は国体終了後の11月にずれ込み、以後体育施設兼文化施設として使用された。駿府会館は鉄筋コンクリートH・P・シェル構造の平屋建て1部地下の面積3,500平方メートルで、3,800人を収容できる事から、大きな集会や音楽会などに利用された。駿府城の天守台を破壊してまで建設された駿府会館ではあるが、その威容を誇った時期は短く、昭和54(1979)年には閉館しその後解体に至った。昭和55(1980)年、その空地脇の、天守台を避けた場所に、計画中であった県立美術館[当時県立美術博物館]が誘致されたが、天守台以前の時代の今川遺構保存の為に実現されなかった。

実は、同国体は縮小や地方持ち回り中止の閣議決定までありながらも、主管の文部省当局を出し抜く形で、自治庁、大蔵省、更にそれに連携する地方政治家からの圧力との妥協の上で実現を見たもので、静岡市側は財政上及び腰であった。特殊工法での丹下健三建築に経済的にも技術的にも工期の面でも対応しきれなかった側面がある。

再び彫刻の分野に目を向けると、国体関連の諸像以外のものとして、太平洋戦争戦没者の十三回忌から十七回忌を

迎えるこの時期に多くの戦争関連の造像がある。日露戦争のものではあるが昭和33(1958)年8月の新海竹太郎(1868-1927)の《市川紀元二像》移設、太平洋戦争勤労動員学徒を悼む同年11月の堤達男作《動員学徒やすらぎの塔》等が注目されるべきものと言える。新海竹太郎の《市川紀元二像》が、竹内久一(1857-1916)作《平和観音像》と共に、静岡県内にある事は、時代地域を越えた価値基準を養う機会を県内にもたらしている。

地域的な建立の一例とはなるが、堤達男の《動員学徒やすらぎの塔》は、保田龍門(1891-1965)の戦前作《吉田松蔭像》(下野市内現存)からの影響を示すものであり、戦前戦中期のセメント彫刻、モニュメント彫刻の系譜を継承すると同時に、戦後県内屋外彫刻を代表するものでもあった。

これら以外、昭和32年の主要な出来事として、熱海美術館の開館、遠州美術会展の第1回展開催、清川泰次の美術文化協会退会などがあり、翌昭和33年には、第5回ルガノ国際版画ビエンナーレ展での山口源《能役者》のグランプリ受賞、県民会館での郷土画家遺作名品展、静岡県美術家協会展の開催、昭和34年には静岡市産業会館の完成がある。静岡市市役所と呉服町通りの間の位置に建てられた産業会館は、地上6階地下1階建てで、1、2階の展示施設は、館内の中電ショールームと共に、美術展覧会の会場となった。

戦後復興期から高度成長期に向うこの時期、西武沼津店開店等、百貨店の興隆があり、百貨店を会場とした展覧会も活発化し、画廊の開設やその他の施設での美術展の開催も盛んとなっていった。東京及び県内公募展への出品者も増し、地域のサークルも多く生まれた。昭和31年に清水の鈴与倉庫株式会社[現在の鈴与]に就職した美術評論家石子順造が、地元の作家達と知り合うのもこの時期からに当たる。

そのような次代へと繋がる流れの中で、惜しまれつつ亡くなられた有名な美術家を挙げれば、昭和33年逝去の横山大観、太田聰雨、藤井浩祐、翌年の和田英作らの名がある。

## 1957 昭和32年

- 1/ 1 「和田英作 富士を見つめて六十年」  
(毎日静岡, 遠州版 1/1)
- 1/ 1 山口源《沼津の新富士》(沼津朝日 1/1)
- 1/ 1 小川龍彦《にわとり》(静岡 1/1)
- 1/ 1 芹沢晋吾洋画展於沼津マルサン書店(-8)。  
(沼津朝日 1/1)
- 1/ 2 熱海美術館開館。(伊豆毎日 S29.4/4, S31.11/18,  
12/5, 9, 朝日静岡版 S31.12/27, 毎日静岡版 S31.  
12/27)
- 1/ 3 野島青茲《東天紅》(静岡 1/3)
- 1/ 3 志賀旦山小品展於沼津富士屋(-7)。  
(沼津朝日 S31.12/21, S32.1/1, 黎明 1/6)
- 1/ 4 細井繁誠《にわとり》(静岡 1/4)
- 1/ 4 平井俊男「海の風景」(静岡 1/4)
- 1/ 5 「山家初枝 芽生え」(沼津毎日 1/5)
- 1/ 5 第8回選抜秀作美術展於東京日本橋三越(-20)。  
北川民次《メキシコ市場の一隅〔教会前の人々〕》  
秋野不矩《裸婦》中村岳陵《狭霧霽れゆく》
- 1/ 5 近藤浩一路日本画展於東京日本橋三越(-11)。  
(三彩 no.96)
- 1/ 6 早川実小品展於清水戸田書店(-9)。  
(毎日静岡版 1/5)
- 1/ 7 新春らくがき展於県民会館(-11)。  
(遠州 S31.12/21, 静岡 1/9)
- 1/ 杉山泰雅作品展於静岡吉見書店(-13)。(静岡 1/11)
- 1/ 8 柏木俊一「美術団体を固める」(沼津毎日 1/8)
- 1/ 8 板谷房バリ風景油絵展於静岡松坂屋(-13)。  
(静岡 S31.12/2, S32.1/4, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 16,  
読売静岡版 1/5)
- 1/10 池田正司「今年の希望」(朝日駿豆, 駿遠版 1/10)
- 1/11 漫画展於静岡田中屋(-16)。(毎日静岡, 遠州版  
S31.12/31, S32.1/11, 12, 17, 中日遠州版 1/14)
- 1/12 水彩画連盟浜松支部展於浜松谷島屋(-14)。  
(遠州 1/5)
- 1/15 山下充個展於東京兜屋画廊(-21)。  
(静岡 1/6, 毎日静岡版 1/6, 中日遠州版 1/15)
- 1/15 安井曾太郎遺作展於静岡松坂屋(-20)。  
(静岡 1/15, 18, 朝日駿遠版 1/17)
- 1/ 池田正司小品展於静岡アオバベーカーリー(-31)。  
(静岡 1/10, 18)
- 1/ 深沢和一作品展於静岡吉見書店(-20)。(静岡 1/18)
- 1/17 鈴木和夫作品展於清水戸田書店(-20)。  
(静岡 1/18, 毎日静岡版 1/18)
- 1/17 鈴木秀夫油絵展於県民会館(-20)。(読売静岡版 1/5)
- 1/18 井出孝「私の恩師」(静岡 1/18)
- 1/21 ヨーロッパ巡回日本現代絵画展国内展示会於東京  
日本橋高島屋(-26)。近藤浩一路《月》《道》《雪》
- 1/25 井原敏夫・豊田逸二・土井俊策・松井宗鳩・青木英  
夫 5人展於伊東林多路(-2/8)。(毎日静岡版 1/17,  
静岡 2/1)
- 1/25 山本海野日本画展於浜松市立図書館(-2/7)。  
(遠州 1/25, 30, 毎日静岡, 遠州版 S31.12/31)
- 1/28 ヘレナ会美術展於県民会館(-30)。(静岡 1/25)
- 1/28 第17回美術文化協会展於東京都美術館(-2/8)。  
清川泰次《季節》中村良七郎《ビルの夜粧》(努力賞  
受賞、会員推挙)。(美術年鑑 S.33, 静岡 1/27, 朝日  
静岡版 1/27, 遠州 1/28, 2/1, 5, 7)
- 1/ 大井碧水・石神白竜二人展於静岡吉見書店(-2/3)。  
(静岡 2/1, 毎日静岡版 2/1)
- 1 深沢栄一、富士宮公民館へ自作寄贈。  
(読売静岡版 2/1)
- 2/ 1 前田守一展於静岡トノイケアートルーム(-14)。  
(静岡 2/15)
- 2/ 1 青木達弥個展於静岡アオバベーカーリー(-15)。  
(静岡 1/18, 2/8)
- 2/ 1 松本長十郎個展於浜松市立図書館(-3)。  
(遠州 1/29, 2/4, 中日遠州版 2/1)
- 2/ 2 光悦・宗達・光琳派展於熱海美術館(-28)。  
(中日駿遠版 2/3)
- 2/ 3 中国絵画複製展於熱海市観光会館(-5)、於静岡  
松坂屋(8-10)、於浜松松菱(13-15)。(読売静岡 B  
版 1/17, 静岡 1/18, 30, 中日駿遠版 2/9, 遠州 1/21,  
2/11, 13, 14, 朝日静岡版 1/27)
- 2/ 8 大村政夫「受験勉強の頃」(静岡 2/8)
- 2/ 桜井琴風書道展於静岡北番町ティハウス(-26)。  
(静岡 2/8)
- 2/10 第9回モダンアート展於東京都美術館(-23)。  
新入選者。(朝日静岡版 2/9)
- 2/10 第16回水彩連盟展於東京都美術館(-23)。  
入選者発表。(静岡 2/9, 毎日静岡版 2/13)  
受賞者。(中日駿遠版 2/13)

- 2/11 佐野儀一《山下秀策像》《高橋正三像》除幕式於富士宮。(朝日駿豆版2/10)
- 2/12 現代大家洋画写真展於静岡松坂屋(-17)。(読売静岡版2/1, 毎日静岡版2/1)
- / 橋本圭舟、大村素峰《富士》を原画に蒔絵を制作。米大統領に送る計画。(静岡2/13, 毎日静岡版2/13)
- 2/ 丹羽勝次個展於静岡吉見書店(-18)。(朝日駿遠版2/12, 静岡2/15)
- 2/14 広重浮世絵名作展於静岡田中屋(-18)。(毎日静岡, 遠州版2/1, 12, 13, 14, 15, 17, 静岡2/9, 15, 朝日静岡版2/14, 中日駿遠版2/16)
- 2/15 前田守一「愚展苦伝」(静岡2/15)
- 2/15 広野殷生「パリー三景」(遠州2/15)
- 2/ 滝沢清個展於静岡アオバペーカーリー(-28)。(静岡1/18, 2/22, 朝日駿遠版2/19)
- 2/ 松永美津男個展於静岡吉見書店(-24)。(静岡2/22)
- 2/18 式場隆三郎美術講演会於県民会館。(静岡2/7)
- 2/19 山下清展於静岡松坂屋(-24)、於浜松松菱(3/3-10)。山下清来静。(静岡1/31, 2/5, 15, 18, 19, 21, 3/3, 朝日静岡版2/12, 17, 19, 20, 21, 読売静岡版2/3, 17, 毎日静岡版2/17, 20, 中日遠州版2/12, 21, 3/3, 遠州2/11 18, 3/2, 4, 5, 6, 12)
- 2/20 現代アメリカプリント原画展於静岡日米文化センター(-3/6)。(静岡2/22, 毎日静岡版2/22)
- 2/23 「私のイメージ」吉村敏雄、小池覚、川久保浩、広本森雄、鈴木七郎、青島三郎、中村博、犬塚友吉、生崎好映、寺中作雄、斉藤磐。(中日遠州版2/23, 3/4, 9, 18, 25, 4/2, 8, 15, 6/18, 10/8)
- 2/23 北川民次・須田国太郎展於神奈川県立近代美術館(-3/31)。(東京夕3/7, 産経夕3/15, 毎日3/17, みづゑ no.621)
- 2/24 和田金剛《女人像》於沼津芝浦機械健保体育館前。(沼津朝日2/9, 黎明2/9, 毎日静岡版2/10\*)
- 2/25 第9回読売アンデパンダン展於東京都美術館(-3/12)。飯田昭二出品。
- 2/25 烏声会第4回展於静岡吉見書店(-3/3)。(毎日静岡版2/24, 朝日駿遠版2/26, 静岡3/1)
- 3/ 正正会日本画展於静岡吉見書店(-10)。(読売静岡B版3/7, 静岡3/8)
- 3/ 鈴木福富展於静岡アオバペーカーリー(-13)。(毎日静岡版3/7)
- 3/10 川久保浩・佐藤徹展於磐田市公民館(-12)。(遠州3/7, 静岡3/8, 毎日静岡版3/9)
- 3/13 水野欣三郎《林幸一胸像》除幕於三ヶ日高校。(静岡S31.11/6, 毎日静岡版S31.12/20, S32.3/14\*, 中日遠州版3/14, 遠州3/14\*, 朝日駿遠, 駿豆版3/16)
- 3/14 第33回白日会展於東京都美術館(-27)。入選者。(静岡3/15)
- 3/14 第9回三軌会展於東京都美術館(-27)。入選者。(朝日駿遠版3/12)
- 3/15 野田好子個展於東京フォルム画廊(-20)。(朝日3/18, 美術手帖5月号, アトリエ no.363)
- 3/ 八木清次個展於静岡吉見書店(-24)。(静岡3/22)
- 3/ 鈴木明・幾雄二人展於静岡アオバペーカーリー(-3/31)。(静岡3/22)
- 3/20 SAN元会第4回展於県民会館(-24)。(読売静岡B版3/20, 朝日駿豆版3/21, 静岡3/22)
- 3/21 岡藤園日本画展於静岡松坂屋(-24)。(静岡3/15, 20, 22)
- 3/21 青空美術連盟青空展於焼津東小学校西(-23)。(静岡3/7, 読売静岡B版3/19)
- 3/24 沼津美術同好会講演会於沼津真楽寺。講師：吉田耕三。(沼津朝日3/21, 黎明3/22)
- 3/30 第43回光風会展於東京都美術館(-4/15)。藤本東一良《南仏風景》島戸繁《室内秋色》《雨後》
- 4/ 1 第7回新興美術院展於東京都美術館(-13)。上田臥牛《雪路》(美術年鑑S.33)
- 4/ 1 杉本三男水彩小品展於静岡アオバペーカーリー(-10)。(静岡4/5)
- 4/ 1 滝沢清個展於掛川平喜(-8)。(掛川4/14)
- 4/ 市川正三、東海大学第一中学校に赴任。
- 4/ 板谷房個展於島田温知洞(-10)。(静岡4/10)
- 4/ 2 円山応挙展於熱海美術館(-30)。(朝日静岡版3/30, 遠州3/30)
- 4/ 2 浜松アンデパンダン第3回展於浜松松菱(-7)。(遠州3/7, 30, 4/2, 3, 17)
- 4/ 5 竹内久一《平和観音像》50周年記念式典(-8)。(郷土2/3, 24, 4/14, 中日遠州版2/6\*, 静岡3/29, 毎日遠州版2/8, 3/23, 4/6, 11, 遠州3/2, 朝日駿遠版3/8)
- 4/ GG会展於静岡吉見書店(-14)。(静岡4/12)
- 4/ 8 菊池一雄《内山竹蔵胸像》除幕式於浜名郡佐浜公民館前。(遠州4/6, 毎日遠州版4/10)

- 4/9 六灯会第1回展於浜松松菱(-14)。  
(遠州2/23, 4/10, 13, 毎日遠州版4/5, 中日遠州版4/9)
- 4/11 一陽会展於県民会館(-15)。(静岡4/12)
- 4/11 八木昌一個展於静岡アオバペーカー(-20)。  
(静岡4/12, 19)
- 4/ 竹内久一《西行法師》(毎日遠州版4/14)
- 4/14 丹下健三構成による中村岳陵と勅使河原蒼風総合展於東京上野松坂屋(-24)。(読売静岡B版4/13, 読売4/16, 朝日4/18)
- 4/ 武者小路実篤展於静岡松坂屋(-21)。  
(朝日静岡版4/14)
- 4/15 島戸繁近江風景油絵展於東京日本橋小伝馬町滋賀ビル(-17)。
- 4/15 新草会第1回展於静岡吉見書店(-21)。  
(朝日静岡版4/14, 読売静岡版4/16, 静岡4/19)
- 4/15 《小沢義助胸像》再建除幕式於二俣町城山公園。  
(遠州S31.7/21, 12/12, 中日4/14, 17)
- 4/16 福沢一郎近作小品展於浜松松菱(-21)。  
(遠州4/1, 9, 13, 毎日遠州版4/6, 中日遠州版4/7)
- 4/16 黒潮会小品展於浜松松菱(-18)。(遠州4/16, 18)
- 4/17 創型会彫塑展於県民会館(-21)。(静岡4/17)
- 4/17 井川の村を描く会美術展於県民会館(-21)。  
(静岡4/17, 19, 読売静岡B版4/20)
- 4/17 第5回日本彫会展於東京都美術館(-5/6)。  
浅井行雄《裸婦》澤田政廣《荊冠》和田金剛《獅子》  
飛岡文一《大久保はる女史》《Alexandra Danilova》  
(出品目録)
- 4/18 リュブリアナ国際版画展(-9/15)。  
山口源《牧場》入賞。(毎日静岡版9/8)
- 4/18 第31回国画会展於東京都美術館(-5/4)。  
柏木俊一《七福神》曾宮一念《南岳爆発》野田好子  
《風景》\*《へび使い座》山口泉《五月》\*\* 伊藤勉《圏  
外の夜》《十代》《祈りの時間》栗山茂《作品57-no.6  
動物誌》中川雄太郎《温情》《歌手》山口源《うまれ  
てる・ほろんでる》《こわれた思想》芹沢銈介《型染  
窯場模様縮緬着物》《型染草木模様の夏着》《型染  
紙飛の字額》(毎日静岡版3/16, 読売静岡版4/16,  
中日駿遠版4/16, 遠州4/14, 24\*\*, 朝日4/18, 美術  
年鑑S.33\*)
- 4/18 第34回春陽会展於東京都美術館(-5/4)。  
井上重生《海辺》《パンの静物》《魚市場》広野殷生  
《コーローニュの裏街》《古き家》《協会のある風景》  
《パリーの専売局》他入選者。(中日駿遠版4/17, 毎  
日静岡版4/17, 読売静岡B版4/17)
- 4/18 第25回日本版画協会展於東京都美術館(-5/4)  
山口源《戯論》《架空の期待》《風化の過程》出品。
- 4/22 多々良勝博油絵展於静岡吉見書店(-28)。  
(静岡4/19, 22, 26, 朝日静岡版4/18, 5/22)
- 4/23 中川雄太郎展於静岡アオバペーカー(-30)。  
(朝日駿遠版4/23)
- 4/27 クロード岡本巡回展於静岡駒形小、安東小、大里小、  
三番町小他(-5/10)。(静岡4/26)
- 4/29 橋立章展於三島大社(-5/5)。(静岡4/6, 中日駿遠版  
5/1, 朝日静岡版S30.6/1, 読売静岡B版S30.12/27  
毎日静岡版S30.12/27, S31.4/6)
- 5/ 1 杉山泰雅作品展於県民会館・吉見書店(-5)。  
(静岡4/26, 5/3, 読売静岡B版5/1)
- 5/ 増田大罌個展於静岡アオバペーカー(-10)。  
(静岡5/3)
- 5/ 2 「木下恵介ロマンチスト」(朝日静岡版5/2)
- 5/ 2 斉藤素巖《山下秀索胸像》《高橋正三胸像》除幕式  
於清水フジ製糖。(静岡5/3)
- 5/ 三岸節子・近岡善次郎二人展於清水戸田書店(-5)。  
(静岡5/3, 読売静岡B版5/3)
- 5/ 4 曾宮一念による美術教室「初歩 風景画の制作」於  
浜松市立図書館。(遠州5/2, 14, 15, 16, 17, 18, 20,  
21, 中日遠州版5/3)
- 5/ 奎星会同人展於静岡吉見書店(-12)。(静岡5/10)
- 5/ 7 北川民次・須田国太郎展於名古屋丸栄百貨店(-14)。
- 5/ 7 文芸春秋漫画展於浜松松菱(-12)。  
(毎日遠州版5/1, 8, 遠州5/9)
- 5/ 8 形象派静岡支部第5回展於県民会館(-12)。  
(静岡5/8, 10, 朝日静岡版5/9)
- 5/ 9 静流会スケッチ展於沼津マルサン書店(-15)。  
(沼津朝日5/10)
- 5/10 山下清プリント服地抽選会於浜松。(静岡5/12)
- 5/14 広野殷生展於浜松松菱(-19)。  
(遠州1/30, 2/15, 5/13, 16)
- 5/16 近代フランス巨匠展於浜松商工会館(-18)。(毎日  
遠州版5/10, 18, 遠州5/15, 16, 17, 中日遠州版  
5/16, 静岡5/18)
- 5/16 壮炎会第12回展於浜松市立図書館(-19)。

- (遠州5/16, 18, 中日遠州版5/16)
- 5/20 二科春季展於東京文春画廊(-29)。北川民次《花》出品。
- 5/21 山口源「この春のこと」(沼津朝日5/21)
- 5/ 河西賢太郎個展於静岡アオババーカリー(-31)。(静岡5/24)
- 5/22 志水知治洋画個展於沼津富士屋デパート(-25)。(沼津朝日5/19, 朝日駿豆版5/22)
- 5/22 現代集団絵画第2回展於県民会館(-26)。飯田昭二、丹羽勝次、伊藤勉、牧野重信、吉崎京一他。(静岡5/24, 朝日駿遠, 駿豆版5/24, 毎日静岡版5/26)
- 5/22 名宝刀剣展於静岡田中屋(-27)。(毎日静岡, 遠州版5/21, 22, 23, 24, 25, 26, 27)
- 5/22 遠州美術会展第1回展於浜松松菱(-26)。(遠州3/14, 4/12, 5/22, 23, S33.1/9, 中日遠州版4/14, 21, 5/17, 21, 22, 静岡5/16)
- 5/ 静岡フォトアイ写真展於県民会館(-26)。(静岡5/24)
- 5/23 第4回日本国際美術展於東京都美術館(-6/16)。秋野不矩《裸婦》北川民次《はなよめ》佐野繁次郎《人間》曾宮一念《入笠山》(毎日静岡3/16)
- 5/23 スロンチウム90展於浜松市立図書館(-26)。(中日遠州版5/23, 遠州5/22, 24, S33.4/2)
- 5/23 鈴木三朝展於浜松松菱(-26)。(遠州2/25)
- 5/24 月見里茂《作品「ム」》(シカゴ展出品)(静岡5/24)
- 5/24 熱海クラブ作品展於熱海観光ホール(-26)。(朝日駿豆版5/22)
- 5/27 クレパス画展於静岡日米文化センター(-6/1)。(毎日静岡版5/29)
- 5/28 山内泉個展於浜松松菱(-30)。(遠州5/23, 24, 29, 中日遠州版5/28)
- 5/30 「賤機焼の窯元 青島さん一家」(中日駿遠版5/30)
- 5/30 県写真サロン第2回展於沼津富士屋(-6/3), 静岡田中屋(6/5-11), 浜松松菱(25-30)。(朝日静岡版4/29, 5/21, 22, 24, 25, 28, 29, 30, 31, 6/6)
- 6/ 1 伊藤勉個展於静岡トノイケアートルーム(-15)。
- 6/ 1 塚口武夫小品展於静岡アオババーカリー(-10)。(静岡6/7)
- 6/ 備前焼名工展於静岡松坂屋(-9)。(静岡6/7)
- 6/ ヘレナ会第3回展於静岡吉見書店(-9)。(静岡6/7)
- 6/ 4 静岡肖像画製作研究会展於静岡松坂屋(-6)。
- 於
- 島田温知洞(14-16)。(静岡6/4, 9, 読売静岡版6/1)
- 6/ 6 「国宝文化財をたずねて」(毎日静岡版6/6, 7, 8, 11, 12, 14, 15, 18, 19, 21, 22, 23, 25, 26, 28, 29, 7/2, 3, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 28, 30, 31, 8/1)
- 6/ 6 稲葉治夫油絵展於沼津マルサン書店(-25)。(沼津朝日6/1)
- 6/ 7 鈴木彦次近況。(朝日駿豆, 駿遠版6/7)
- 6/ 7 高瀬陽子・津浦ケイ子・野間奈々子三人展於東京丸善(-11)。(読売静岡B版6/8)
- 6/ 8 沼津西武開店。(沼津朝日5/10, 6/7, 毎日静岡版5/11, 6/4, 7, 8, 静岡5/24, 朝日静岡版6/7, 黎明6/7, 9)
- 6/ 仲安銀蔵・岩崎彰吾展於静岡吉見書店(-16)。(静岡6/14)
- 6/11 水彩連盟静岡支部展於県民会館(-16)。(静岡6/7, 14, 毎日遠州版6/11)
- 6/15 第1回東京版画ビエンナーレ於東京国立近代美術館(-7/14)。山口源《現代人・プロパガンダリスト》《現代人・無宿者》《現代人・セールスマン》前田守一出品。(沼津朝日5/17)
- 6/ 広野殷生滞欧作品展於静岡田中屋(-22)。(朝日駿遠版6/21, 静岡6/22, 毎日静岡版6/22)
- 6/21 平井俊男「井川ダム」(静岡6/21)
- 6/21 鴨志田厚子、国体ポスター一等入選。(朝日静岡版6/22, 静岡6/22, 毎日静岡版6/22)
- 6/2 丹羽勝次個展於静岡アオババーカリー(-30)。(毎日静岡版6/22, 静岡6/28)
- 6/ 羊雲会第4回展於県民会館(-30)。(静岡6/28)
- 6/25 現代日本陶芸展於静岡松坂屋(-30)。(朝日静岡版6/22, 26, 静岡6/28)
- 6/25 内山牛松かっぱ展於浜松松菱(-30)。(遠州6/22, 29, 中日遠州版6/25)
- 6/26 静活会館開館。(毎日静岡版6/9, 静岡6/25, 26)
- 6/28 森田晃弘個展於浜松市立図書館(-30)。(遠州6/17, 25, 29)
- 7/ 1 近藤浩一路展於東京上野松坂屋(-7)。
- 7/ 1 創型会第6回展於東京都美術館(-10)。
- 太田重範《空》中森泰吉《少女》中森五三九《軍鶏》望月政男《手》岡村豊治《自像》出品。望月秋雄《節皿》鈴木武司《裸婦》原川秀男《習作》入選。(静岡7/5\*)

- 7/ 1 第11回旺玄会展於東京都美術館(-11)。  
入選者。(静岡7/5)
- 7/ 1 たなばた小品展於静岡吉見書店(-7)。(静岡7/5)
- 7/ 堤達男《沢村久右衛門胸像》(毎日静岡版7/5)
- 7/ 中村弘・中村綾子展於静岡アオバベーカーリー(-10)。  
(静岡7/5)
- 7/ 3 エコール・ド・ゾーン絵画展於県民会館(-7)。  
(沼津朝日6/1, 静岡7/5)
- 7/ 平山礼一郎写真展於沼津蘭契社(-8)。(静岡7/4)
- 7/ 平井俊男油絵小品展於清水戸田書店(-7)。  
(静岡7/5)
- 7/ 5 世界観光ポスター展於静岡正野眼鏡店(-11)。  
(静岡7/4, 8)
- 7/ 5 青爽会日本画第4回展於浜松松菱(-7)。  
(遠州7/4, 6, 毎日遠州版7/4)
- 7/ 8 平山礼一郎・岡田イサオ・下山径男写真展於沼津  
蘭契社(-14)。(黎明7/11)
- 7/10 白扇会うちわ展於静岡アオバベーカーリー(-20)。  
(静岡7/12)
- 7/10 澤野太郎展於浜松市立図書館(-14)。(遠州6/29,  
7/11)
- 7/ 八木昌一・池田正司・杉本三男三人展於静岡正野  
眼鏡店(-22)。(静岡7/12)
- 7/12 名士余技第1回展於浜松松菱(-28)。  
(遠州6/22, 7/9, 26, 30, 中日遠州版7/9)
- 7/13 静岡長谷通蜂蜜屋、ギャラリーオープン。(静岡7/19)
- 7/14 野田好子個展於大阪フォルム画廊(-20)。
- 7/15 中野勇雄写真展於沼津蘭契社(-21)。(黎明7/11)
- 7/15 清水日本画協会小品展於清水戸田書店(-21)。  
(読売静岡版6/21, 静岡7/14, 毎日静岡版7/17)
- 7/17 「北蓮蔵の思い出」(遠州7/17)
- 7/17 現代美術十年の傑作展於東京渋谷東横百貨店(-25)。  
秋野不矩《少年群像》中村岳陵《狭霧霽れゆく》北  
川民次《メキシコ市場の隅[メキシコ市場の一隅]》  
佐野繁次郎《海の生物》澤田政廣《五木之精》芹沢  
銈介《春夏秋冬型絵染屏風》
- 7/ 藤野嘉市個展於静岡アオバベーカーリー(-31)。  
(静岡7/26)
- 7/21 松浦仲智《足利紫山胸像》完成。(中日遠州版5/26,  
駿遠版6/2, 遠州7/22, 毎日遠州版8/7)
- 7/22 清川泰次新作展於東京トキワ画廊(-27)。  
(遠州7/19)
- 7/23 県朝日写真展第4回展於静岡田中屋(-28)。  
(朝日静岡版7/1)
- 7/24 カルチュ・プレッソン写真展於静岡田中屋(-29)。(毎  
日静岡版7/11, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 29, 静岡7/26)
- 7/24 金田諒一・村井養作・漆工二人展於静岡蜂蜜屋  
(-31)。(静岡7/26)
- 7/27 郷土先賢遺墨展於清水青少年会館(-28)。  
(朝日静岡版7/25, 読売静岡B版7/25)
- 7/27 水野欣三郎《国体記念像》設置於浜松市役所前。  
(毎日遠州版7/23, 静岡7/29, 中日遠州版8/3\*)
- 7/28 ロード美術展於静岡松坂屋(-30)。塙賢三、伊賀勇  
高、来静。(静岡7/29, 朝日静岡版7/29)
- 7/30 二十代の絵画書道展[無名作家展]於浜松松菱  
(-8/4)。(遠州5/31, 7/30, 31, 8/3, 6, 中日遠州版7/10,  
8/1, 毎日遠州版8/1)
- 8/ 1 日本芸術院恩賜賞受賞作家作品展於静岡松坂屋  
(-8)。(毎日静岡版8/1, 読売静岡版8/1, 朝日駿豆版8/6)
- 8/ 1 青島秋果・ふるとし・たかし・汐丘得三三人展於静  
岡蜂蜜屋(-10)。(静岡8/2)
- 8/ 2 月見里茂《求めても得られぬ願い》(静岡8/2)
- 8/ 木梨素彦個展於吉見書店(-11)。(静岡8/9)
- 8/ 9 ヒューマンフォトグループ第4回展於静岡松坂屋  
(-14)。(静岡8/9)
- 8/11 かつば展於静岡アオバベーカーリー(-20)。  
(静岡8/9)
- 8/ 青島秋果陶展於静岡蜂蜜屋(-20)。(静岡8/16)
- 8/ 梶山・下山田・永田三人展於静岡吉見書店(-18)。  
(静岡8/16)
- 8/15 県水彩画協会第7回展於県民会館(-18)。  
(静岡8/9, 15, 16)
- 8/16 八木王虎追悼展於相良大興寺。(静岡8/10, 18, 読  
売静岡版8/14)
- 8/17 現代洋画大家展於静岡松坂屋(-23)。  
(静岡8/16, 毎日静岡版8/21)
- 8/18 彩友会洋画講習会於富士宮久保小学校(-20)。講  
師：曾宮一念、渋谷栄志、井上重生。(静岡7/19, 読  
売静岡版7/28)
- 8/18 静流会第13回展於沼津マルサン書店、富士屋(-23)。  
(沼津朝日8/3, 黎明8/13, 朝日駿豆版8/13)
- 8/21 らばん会美術展於県民会館(-25)。(静岡8/23)



- 8/21 中川雄太郎・大熊正邦カップ二人展於静岡蜂蜜屋(-31)。(静岡8/23)
- 8/ 森茂雄・伊藤克三・名倉秀一三人展於静岡疋野眼鏡店(-26)。(静岡8/23)
- 8/ 伏見重雄個展於静岡アオバベーカーリー(-31)。(静岡8/23, 毎日静岡版8/24)
- 8/ 八木清次個展於静岡吉見書店(-8)。(静岡8/30)
- 8/29 築地六郎創作工芸展於県民会館(-9/3)。(静岡8/23, 読売静岡B版8/31, 毎日静岡版9/3)
- 9/ 1 第42回二科展於東京都美術館(-19)。  
北川民次《寺院の前の人たち》(美術年鑑S.33)
- 9/ 1 第42回院展於東京都美術館(-20)。  
中島多茂都《当麻磨子山》小栗正《暮色の人物》鈴木三朝《遊魚》鈴木太麻《泉》青木英夫《朝》桜井宗鳩《積雲峽の秋》後藤和信《構内》(読売静岡B版8/31)
- 9/ 1 第12回行動美術協会展於東京都美術館(-19)。  
芹沢晋吾《機械》出品。会友推挙。(朝日静岡版8/31)初入選。(静岡8/30, 読売静岡B版8/30, 中日遠州版8/30, 朝日駿遠版8/30, 遠州8/30)
- 9/ 1 奥田八重子個展於静岡アオバベーカーリー(-10)。(静岡9/6)
- 9/ 小谷和夫個展於静岡蜂蜜屋(-10)。(静岡9/6)
- 9/ 2 大沢富子にかわ絵個展於静岡吉見書店(-8)。(静岡9/1,6)
- 9/ 福田義之助、富士宮に滞在。(毎日静岡版9/12)
- 9/10 池田正司「母と子を描く」(中日駿遠版9/10)
- 9/10 井上市三郎第1回作品展於浜松松菱(-15)。(遠州8/12, 28, 9/12, 静岡9/6)
- 9/11 毎日写真第4回展於静岡田中屋(-16)。(毎日静岡, 遠州版7/21, 8/18, 9/10, 11, 12, 15, 静岡版9/15, 17)
- 9/11 曾根春雄個展於静岡アオバベーカーリー(-17)。(静岡9/13)
- 9/13 彩紅会展於県民会館(-17)。(中日遠州版9/11)
- 9/15 静岡画人追悼会於静岡崇福寺。(静岡9/10, 中日駿遠版9/11, 毎日静岡版9/11)
- 9/18 佐藤昌胤作品展於静岡松坂屋(-22)。(読売静岡B版9/18, 毎日静岡版9/18, 朝日駿遠版9/19, 静岡9/20)
- 9/ 黄色い仲間第1回展於県民会館(-24)。(静岡9/20)
- 9/ 静岡百点表紙画展於静岡吉見書店(-22)。(静岡9/20)
- 9/20 平井俊男個展於静岡アオバベーカーリー(-31)。(静岡9/20)
- 9/20 形象派美術展於浜松市立図書館(-22)。(中日遠州版9/7, 20)
- 9/24 山口源版画展於東京養清堂(-28)。
- 9/24 伊藤勉・巻白二人展於東京文房堂(-28)。11月にポストン・プリントメーカー展出品。(読売静岡B版9/19)
- 9/ 清川泰次、美術文化協会退会。(遠州9/27, 10/4, 11/27)
- 9/25 第21回新制作展於東京都美術館(-10/7)。  
秋野不矩《男の像》《女の像》出品。  
船越三郎、鴨志田厚子、小寺節夫《寝台》掛井五郎《受胎告知》新作家賞受賞。(朝日駿豆, 駿遠版9/27)
- 丹羽勝次、掛井五郎、船越三郎、鴨志田厚子、小寺節夫、入選。(静岡9/25)
- 9/25 写実派協会第16回展於県民会館(-29)。(静岡9/27)
- 9/25 松田江畔・平岡朴斎・太田京子展於島田温知洞(-10)。(静岡9/5)
- 9/26 《銀座大仏》遷座開眼式於伊東。(毎日静岡版9/10, 28, 朝日駿豆, 駿遠版9/28)
- 9/27 第19回一水会展於東京都美術館(-10/6)。  
入選者(毎日静岡, 遠州版9/26)。
- 10/ 1 杉山青樹路個展於静岡アオバベーカーリー(-11)。(静岡10/4)
- 10/ 1 パーミリオンの夢展於静岡吉見書店(-6)。(静岡10/4)
- 10/ 3 第9回静岡県版画協会展於県民会館(-6)。(静岡10/4)
- 10/ 4 松本長三郎個展於浜松市立図書館(-6)。(遠州10/2, 5, 毎日遠州版10/1)
- 10/ 和田金剛《勝利》三島南高校に寄贈される。(静岡10/5, 毎日静岡, 遠州版S33.2/25)
- 10/ 9 日写連静岡支部写真第3回展於静岡田中屋(-13)。(毎日静岡版10/1, 朝日駿遠版10/3, 14)
- 10/ 9 木下霽久小品展於浜松松菱(-13)。(中日遠州版10/9, 遠州10/12)
- 10/ 高島文子、国体バレーポスター原画改作に抗議。(朝日駿豆, 駿遠版10/10, 毎日静岡版10/10, 静岡10/10)
- 10/10 第25回独立展於東京都美術館(-26)。

- 市川正三入選。(読売静岡B版10/8)  
 沢村美佐子《樹間A》《樹間B》入選。  
 (中日遠州版10/9)
- 10/10 第11回二紀会展於東京都美術館(-27)。  
 佐野繁次郎《作品[生活]》水野欣三郎《裸女》  
 《臥》同人努力賞(美術年鑑S.33)  
 入選者。(毎日静岡, 遠州版10/6)
- 10/10 第25回自由美術展於東京都美術館(-26)。  
 伊藤隆史《作品》入選。(朝日静岡版10/6, 7, 10, 毎日遠州版10/6, 遠州10/8)
- 10/15 水野欣三郎《金原明善胸像》除幕式於浜松和田小学校。(静岡3/15\*, 毎日遠州版10/13, 中日遠州版10/13, 12/10, 遠州10/14)
- 10/16 坂井大栄個展於沼津マルサン書店(-21)。  
 (沼津朝日10/15, 17)
- 10/16 堤達男《富士を呼ぶ》\* 杉本宗一、水野欣三郎《やり投げ》\*\*、大村政夫《ちから》\*\*\*、山口益他除幕於県営草薙運動場。(朝日静岡版3/10, 5/28\*, 静岡5/26\*, 8/2\*, 読売静岡B版8/3\*, 10/17\*\*\*, 毎日静岡版7/28\*\*, 8/3\*, 10/17, 黎明8/31, 県民だより no.16)
- 10/17 浮世絵美人版画展於浜松商工会館(-18)。(遠州10/15, 18, 中日遠州版10/12, 16, 17, 毎日遠州版10/18)
- 10/18 青木達弥「インド舞踊の印象」(読売静岡B版10/18)
- 10/18 大内枝翠南画個展於清水戸田書店(-20)。  
 (静岡10/11, 18, 毎日静岡版10/15)
- 10/18 三行舎第9回展於浜松市立図書館(-20)。  
 (遠州10/5, 16, 19, 毎日遠州版10/18)
- 10/21 清恒好油絵貼り絵個展於静岡アオバペーカーリー(-31)。(静岡10/25, 朝日静岡版10/26)
- 10/23 県名宝展於静岡田中屋(-28)。(毎日静岡版10/22, 23, 24, 25, 28, 毎日遠州版10/18, 静岡10/25)
- 10/25 国体協賛スポーツ芸術展於県民会館(-11/1)。  
 審査員: 藤井浩祐、東山魁夷、中村研一、山崎覚太郎、岡田朝陽、金丸重嶺。(静岡9/18, 29, 10/25, 毎日遠州版8/8, 10/23, 毎日静岡版10/23, 朝日駿豆, 駿遠版10/24, 遠州10/24, 25)  
 池田正司《タックル》愛媛県山本家に寄贈される。  
 (静岡11/6, 読売静岡B版11/6, 毎日静岡版11/6, 朝日駿豆, 駿遠版11/6)
- 10/ リュブリアナ国際版画ビエンナーレで山口源《芝生》優秀賞。(朝日静岡版10/24)
- 10/27 青木達弥「競技の目」  
 (読売静岡版10/27, 28, 29, 30, 31)
- 10/29 上田臥牛スケッチ展於沼津マルサン書店(-11/4)。  
 (朝日駿豆版11/2, 沼津朝日10/30, 31)
- 11/ 1 第13回日展於東京都美術館(-12/2)。  
 近藤浩一路《堤》野島青茲《裸》池田正司《夕もや》漆畑廣作《技芸天》島田四郎《楽器を持つ青年》藤野嘉市《卓上》二重作龍夫《裸婦と二匹の仔犬》松木壽雄《ひよどり毘》水野以文《石神井池》村松茂男《船》森正一《造船所》和田清《風景》池邊瑠璃子《磯をゆく》大村政夫《静立》澤田政廣《くにたち》杉本宗一《青年》館野親光[弘青]《少女》堤達男《青い焰》平野富山《青年 M》藤井浩祐《鏡の前》山家初枝《青年》和田金剛《駘蕩》新敷孝弘《衝立「花」》下田聖比古《素銅花瓶》杉本儀八《噴水「塔」》中野謙二《黄蜀葵》二橋美衡《壁面裝飾獅子文》平野利太郎《刺繍額「鶏頭」》(美術年鑑S.35, 毎日静岡版10/25, 27, 中日遠州版10/25, 読売静岡B版10/12, 25, 26, 遠州10/26)  
 山崎大抱特選。(読売静岡版10/27, 11/13)  
 松木壽雄入選。(朝日駿豆版10/24, 毎日静岡版10/25)
- 11//1 曾宮一念近作油絵展於東京兜屋画廊(-7)。  
 (東京夕刊7/2)
- 11/ 1 新草会第2回展於静岡アオバペーカーリー(-10)。  
 (静岡11/1, 朝日駿遠版11/8, 毎日静岡版10/20)
- 11/ 1 瀬戸陶匠会第1回陶芸展於静岡田中屋(-11)。(静岡10/31, 11/1, 毎日静岡, 遠州版11/1, 中日駿遠版10/31, 遠州11/1)
- 11/ 1 松岡圭三郎、県文化功労者表彰。  
 (静岡10/22, 毎日静岡, 遠州版10/22, 読売静岡B版10/22)
- 11/ 1 《村松春太郎胸像》除幕式於愛媛県果樹試験場玉津分室。(朝日駿豆, 駿遠10/16)
- 11/ 3 丹下健三設計《駿府会館》完成。(静岡2/15, 8/27, 10/16, 23, 11/1, 3, S33.12/27, 読売静岡B版2/15, 4/11, 10/21, 23, 朝日静岡版9/6, 毎日静岡版2/15, 8/6, 10/22, 11/28, S34.12/19, 中日4/16)
- 11/ 3 「近藤重三郎 染色版画五十三次」  
 (毎日静岡, 遠州版11/3)
- 11/ 4 蒼丘会第5回展於静岡吉見書店(-10)。  
 (毎日静岡版11/6, 朝日駿遠版11/8, 静岡11/8)

- 11/ 5 渡辺功油絵個展於沼津マルサン書店(-11)。  
(沼津朝日10/25, 静岡10/27, 11/1, 朝日駿豆版11/2)
- 11/ 6 現代諸大家展於浜松商工会議所(-8)。  
(遠州11/5, 7)
- 11/ 8 広野殷生滞欧作品展於東京銀座松坂屋(-11)。
- 11/10 杉本宗一《青島藤次郎胸像》除幕式於静岡田中屋。(静岡11/10)
- 11/11 柳田華紅・水野錦七日本画小品二人展於静岡アオババーカー(-20)。(静岡11/8, 13, 15, 朝日駿遠版11/14)
- 11/11 珊瑚会小品展於静岡吉見書店(-17)。  
(毎日静岡版11/10, 朝日駿遠版11/12, 読売静岡版11/12, 静岡11/15)
- 11/15 長谷川彰一「絵の話」(静岡11/15)
- 11/15 藤本東一良個展於東京松屋(-20)。  
《ヨットハーバー》(美術年鑑S.33)
- 11/15 太田聰雨展於東京銀座松坂屋(-20)。
- 11/15 マダークラブ第2回展於浜松市立図書館(-17)。  
(遠州11/14, 16, 中日遠州版11/15, 毎日遠州版11/1)
- 11/15 ノイエ・グラフィッカー展於浜松イシバシヤ(-19)。  
(遠州11/14, 18, 中日遠州版10/16)
- 11/16 今村紫紅展於沼津真楽寺(-17)。(朝日駿豆版11/16)
- 11/18 上田臥牛個展於東京中央公論社画廊(-22)。
- 11/18 長谷川彰一個展於静岡吉見書店(-24)。(朝日駿遠版11/13, 毎日静岡版11/13, 19, 読売静岡B版11/14, 静岡11/15, 22)
- 11/20 北川民次ガラス絵展於名古屋豊田ビル画廊(-26)。
- 11/20 第11回静岡県美術展於県民会館・静岡松坂屋・田中屋(-24)。審査員:高山辰雄、永井正御、寺平誠介、島春湖、斎藤与里、川口軌外、澤田政廣、内藤春治。(静岡11/19, 朝日駿遠, 駿豆版11/5, 19, 読売静岡B版11/15, 17, 19, 22, 23, 25, 毎日静岡版, 遠州版9/18, 11/9, 18, 19, 20, 中日遠州版11/19, 遠州11/18, 20)
- 11/20 水野欣三郎《西川熊三郎胸像》除幕式。  
(遠州11/12, 26)
- 11/ 江崎金彦写真展於静岡クラウン(-12/3)。  
(静岡11/22, 29)
- 11/ 伊沢久次個展於静岡アオババーカー(-)。  
(静岡11/22)
- 11/23 『名工森田鶴堂翁伝』出版記念会於静岡報土寺。  
(毎日静岡11/23)
- 11/24 岡田常治個展於沼津マルサン書店(-30)。  
(沼津朝日11/13, 28)
- 11/26 日本民芸展於静岡松坂屋(-12/1)。(読売静岡B版11/26, 毎日静岡, 遠州版11/26, 朝日駿遠, 駿豆版11/26)
- 11/26 吉野勝彦個展於静岡吉見書店(-12/1)。  
(毎日静岡版11/28, 静岡11/29)
- 11/28 静流会展於於沼津富士屋(-12/4)。(沼津朝日10/30)
- 11/28 伊藤隆史・伊藤詩朗油絵展於清水戸田書店(-12/2)。  
(毎日静岡版11/29)
- 11/30 三行舎第3回展於県民会館(-12/1)。  
(遠州11/26, 読売静岡B版11/27, 静岡11/29)
- 12/ 1 「見直される郷土の陶器」(郷土12/1, 8, 15, 22)
- 12/ 1 現代高僧墨蹟展於清水市立図書館(-3)。  
(静岡11/30)
- 12/ 和田金剛《犬》頒布。(沼津朝日12/1)
- 12/ 静友会三人展於静岡吉見書店(-8)。(静岡12/6)
- 12/ 佐藤義郎個展於静岡アオババーカー(-10)。  
(静岡12/6)
- 12/ 5 堤達男《海女の像》除幕式於下田グランドホテル。  
(静岡12/1)
- 12/ 5 内山牛松個展於浜松松菱(-8)。  
(遠州11/29, 中日遠州版12/5)
- 12/ 6 えとわる絵画第1回展於浜松市立図書館(-8)。  
(遠州12/3, 5, 6, 7, 毎日遠州版12/1)
- 12/ 8 勤労者美術展第10回展於東京都美術館(-19)。月見里茂《生への希望を謳う》(朝日駿豆, 駿遠版12/10)
- 12/ 9 水野欣三郎《金原明善胸像》原型、浜松市へ寄贈される。(中日遠州版12/10)
- 12/ 9 山内泉・鈴木繁男赤絵磁器二人展於浜松商工会館(-11)。(遠州12/6, 10, 11, 中日遠州版12/8)
- 12/10 武者小路実篤画集展於沼津マルサン書店(-18)。  
(沼津朝日11/13, 12, 3, 静岡12/4, 朝日駿豆版12/6)
- 12/11 柴田俊展於静岡アオババーカー(-22)。  
(静岡12/13)
- 12/ 井出孝デッサン展於静岡クラウン(-24)。  
(静岡12/6)
- 12/13 鈴木日華展於浜松松菱(-15)。(遠州12/14)
- 12/16 中村宏・尾藤豊二人展於東京サトウ画廊(-21)。
- 12/16 大石久志個展於静岡吉見書店(-22)。

- (毎日静岡, 遠州版12/8, 静岡12/20)
- 12/18 川本浩三洋画個展於静岡アオバペーカーリー(-23)。(静岡12/20)
- 12/20 吉村敏雄・青島三郎・服部義昭三人展於浜松伊勢屋文具店(-26)。(中日遠州版12/20, 毎日遠州版12/20)
- 12/25 中川雄太郎近作版画小品展於静岡クラウン(-S33.1/4)。(毎日静岡版12/26, 静岡12/27)
- 12/26 「昭和32年 さよならメモ」(毎日静岡版12/26)
- 12/27 大塚衛司個展於浜松松菱(-30)。(遠州12//21, 29, S33.1/10, 中日遠州版12/27)
- / 堤達男《原爆地獄》下田長楽寺。(毎日静岡, 遠州版S32.12/26)
- 1958 昭和33年**
- 1/ 1 野島清茲《犬》(静岡1/1)
- 1/ 1 日本写真展於島田知新(-23)。(静岡S32.12/28)
- 1/ 2 山口源版画展於沼津マルサン書店(-6)。(沼津朝日S32.12/27, 朝日駿豆版S32.12/28)
- 1/ 4 篆刻家バンリーク近況。(静岡1/4)
- 1/ 5 第9回選抜秀作美術展於東京日本橋三越(-19)。秋野不矩《裸婦》中村岳陵《雪晴れ》北川民次《寺院の前の人々》佐野繁次郎《作品》
- 1/ 7 私のコレクション展於静岡松坂屋(-12)。(朝日静岡版1/5)
- 1/ 8 郷土画家遺作名品展於県民会館(-12)。(毎日静岡, 遠州版S32.12/26, S33.1/5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 静岡1/7, 読売静岡B版1/9)
- 1/10 藤枝静男「民芸館」(読売静岡B版1/10)
- 1/10 板谷房「パリ通信」(静岡1/1/10, 14, 24, 2/7, 28, 4/18, 6/6, 10/3, S34.1/30, 3/6, 4/3, 5/22, 6/9, 8/19, S35.1/6, 3/2, 5/18)
- 1/11 チャーチル会第1回展於静岡田中屋(-13)。(毎日静岡版S32.12/24, 26, S33.1/8, 11, 12, 静岡1/9, 朝日静岡版1/10)
- 1/11 水彩画連盟浜松支部展於浜松谷島屋(-15)。(遠州S32.12/20, S33.1/13)
- 1/14 小川龍彦「唐草染」(読売静岡B版1/14)
- 1/15 六鳥会第1回展於浜松松菱(-19)。曾宮一念、寺内万次郎、高間惣七、鈴木保徳、耳野卯三郎、石橋武治。(遠州S32.1/26, 10/8, 28, S33.1/11, 14, 17, 18, 20, 21, 毎日遠州版1/17)
- 1/ 黄嘴会第4回展於清水戸田書店(-19)。(毎日静岡版1/15)
- 1/ 中出隆二個展於沼津マルサン書店(-20)。(静岡1/21)
- 1/18 遠江に関する広重版画展於浜松商工会館(-19)。(遠州1/18, 21, 2/1, 中日遠州版1/18)
- 1/21 ヨーロッパ巡回日本現代絵画展国内展示会於東京日本橋高島屋(-26)。近藤浩一路《月》《道》《雪》
- 1/21 パーミロン同人第2回展於静岡アオバペーカーリー(-31)。(静岡1/24, 朝日駿遠版1/22)
- 1/ 武者小路実篤額皿展於静岡松坂屋(-)。 (静岡1/25)
- 1/27 井出孝「信州かけある記」(静岡1/27)
- 1/28 前衛芸術35人展於浜松松菱(-2/2)。清川泰次来浜。(遠州1/25, 31, 中日遠州版1/29, 浜松民報S34.1/19)
- 1/ 大沢富子個展於静岡吉見書店(-2/2)。(読売静岡B版1/29, 静岡1/31)
- 1/ 小川龍彦文楽人形スケッチ展於静岡クラウン(-2/4)。(静岡1/31)
- 1/30 大場祐輔個展於浜松伊勢屋文具店(-2/2)。(遠州1/22, 25, 2/1 中日遠州版1/29)
- / グループ「白」結成。
- / 清川泰次・石井好子「パリの裏街」刊行。(遠州2/3)
- 2/ 日本画小品展於静岡アオバペーカーリー(-11)。(静岡2/4)
- 2/ 4 「水野欣三郎 人と生活」(中日遠州版2/4)
- 2/ 4 硯友会第1回書道展於浜松松菱(-9)。(遠州2/3, 6)
- 2/ 4 遠州美術会小品展於浜松みゆき(-9)。(遠州1/3, 5, 9, 22, 2/3, 5)
- 2/ 佐藤・岸本二人展於静岡吉見書店(-9)。(静岡2/7)
- 2/ 5 三軌会水彩画小品展於浜松伊勢屋文具店(-9)。(遠州1/30, 2/7)
- 2/ 7 山口源と山口益の記録映画の公開於沼津東高校。(沼津朝日2/9)
- 2/ 八木・山本二人展於静岡吉見書店(-16)。(静岡2/14)
- 2/15 野田好子絵画作品展於東京風月堂(-28)。

- 2/15 内島北朗陶器展於浜松鴨江寺(-16)。  
(遠州1/28, 2/17, 21)
- 2/16 前田千寸「二つのこと」(沼津朝日2/16)
- 2/16 山下清展於熱海やまき。2/17 山下清、式場隆三郎  
来熱。(朝日駿豆版2/16, 毎日静岡版2/18)
- 2/ 竹内正順展於静岡吉見書店(-23)。  
(読売静岡版2/18, 静岡2/21)
- 2/18 佐藤蕪堂書作展於浜松伊勢屋文具店(-23)。  
(遠州2/8, 19)
- 2/22 塚口武夫形象展於東京榎画廊(-28)。  
(静岡2/28, 中日駿遠版3/1)
- 2/22 池田龍雄作品展於清水戸田書店(-3/1)。座談会  
於鈴与。(静岡2/22, 28, 朝日駿遠版2/23, 毎日静岡,  
遠州版2/25)
- 2/25 長谷川路可来浜。(遠州2/17)
- 2/25 古田晴久展於浜松伊勢屋文具店(-3/2)。  
(遠州2/20, 26, 毎日静岡, 遠州版2/21, 中日遠州版  
2/26)
- 2/ 望月康男作品展於静岡吉見書店(-3/5)。  
(静岡2/28)
- 3/ 伊藤勉一家展於静岡アオバベーカーリー(-10)。  
(静岡3/7)
- 3/ 2 太田聰雨逝去。61歳。(美術年鑑S.34)
- 3/ 5 池田正司水彩作品展於静岡クラウン(-25)。  
(静岡3/7)
- 3/ 6 北野熊雄個展於浜松伊勢屋文具店(-9)。  
(遠州3/4, 8)
- 3/ 水野欣三郎《母子像》於浜松聖心高校。  
(中日遠州版3/12)
- 3/12 第10回読売アンデパンダン展於東京都美術館(-27)。  
飯田昭二、前田守一、丹羽勝次出品。
- 3/12 木梨素彦・川本浩三二人展於静岡田中屋(-17)。  
(静岡3/14)
- 3/13 近岡善次郎滞欧作品展於静岡田中屋(-17)。  
(静岡3/14, 毎日静岡, 遠州版3/13)
- 3/13 現代フランスポスター展於静岡田中屋(-17)。  
(毎日静岡, 遠州版3/13)
- 3/14 佐々木松次郎洋画展於浜松市立図書館(-16)。  
(毎日遠州版3/1, 中日遠州版3/14, 遠州3/12, 15)
- 3/ 望月利八戯面展於静岡アオバベーカーリー(-20)。  
(静岡3/14)
- 3/ ウエルテエル同人展於静岡蜂蜜屋(-4/7)。  
(静岡3/14)
- 3/17 堤達男《人魚》設置於新下田橋。(静岡1/18, 毎日  
静岡版3/19)
- 3/17 松下正爾日本画小品展於静岡吉見書店(-23)。  
(静岡3/5, 毎日静岡版3/6, 読売静岡B版3/12)
- 3/21 静光会洋画展於県民会館(-24)。  
(読売静岡B版3/12, 静岡3/21)
- 3/ 藤野嘉市個展於静岡アオバベーカーリー(-31)。  
(静岡3/28)
- 3/26 岡田紅陽映写会於御殿場。(毎日静岡版3/31)
- 3/26 SAN元会第5回展於県民会館(-30)。  
(静岡3/21, 28, 朝日駿遠, 駿豆版3/30)
- 3/27 福山すすむ展於県民会館(-30)。  
(静岡3/26, 28, 読売静岡B版2/21, 3/29)
- 3/29 植村鷹千代を囲む会於県民会館。  
(読売静岡B版3/29)
- 3/ 寺平誠介日本画小品展於静岡クラウン(-4/15)。  
(静岡3/28, 31)
- 3/ 太田重範《キューピットの像》《母子像》他設置於駿  
府公園。(毎日静岡版S32.10/16)
- 4/ 1 横山大観を偲ぶ 現代大家展於熱海美術館(-18)。
- 4/ 1 阿々土会第1回展於浜松松菱(-3)。青爽会改名。  
(遠州2/24, 4/2)
- 4/ 1 色紙13人展於浜松伊勢屋文具店(-6)。  
(遠州4/2, 3)
- 4/ 2 静岡県美術家協会第1回展於県民会館(-6)。  
(静岡3/14, 28, 4/4, 読売静岡B版3/29, 朝日駿豆  
版4/2, 県民会館館報no.5)
- 4/ 望月利八展於清水戸田書店(-7)。(静岡4/5)
- 4/ 3 第5回ルガノ国際版画ビエンナーレ展(-6/15)。  
山口源《能役者》グランプリ受賞。(毎日静岡版2/8,  
4/3, 朝日駿豆版4/3, 沼津朝日5/4, 12/19, 30)
- 4/ 6 第34回白日会展於東京都美術館(-23)。  
入賞者。(静岡4/11, 読売静岡B版4/11)
- 4/ 6 第8回モダンアート協会展於東京都美術館(-24)。  
土橋鉦造、会員推挙他。(静岡4/11, 18, 読売静岡  
B版4/11, 遠州4/12)
- 4/ 6 第44回光風会展於東京都美術館(-24)。  
入選者。(中日遠州版4/5, 遠州4/7)
- 4/ 7 水野欣三郎《少年とハトの像》除幕式於浜松聾学

- 校。(毎日遠州版4/8)
- 4/ 7 森田晃弘逝去。49歳。(遠州4/12)
- 4/ 8 第13回春季院展於東京日本橋三越(-13)。  
入選者。(静岡4/9)
- 4/ 8 中部美術文化浜松展於浜松松菱(-13)。  
(遠州4/7, 9, 中日遠州版4/8)
- 4/ 8 三行舎小品展於浜松松菱(-13)。  
(遠州4/3, 10, 中日遠州版4/9)
- 4/ 佐野和夫水彩展於清水戸田書店(-13)。  
(静岡4/11)
- 4/11 新制作春季展於京都市美術館(-17)。  
秋野不矩《猫》出品。
- 4/12 北川民次展於東京画廊(-26), 於大阪フォルム画廊  
(5/19-24), 於名古屋豊田ビル画廊(5/28-6/3)。
- 4/13 第6回日彫展於東京都美術館(-5/5)。  
澤田政廣《南無太子》飛岡文一《第十一代佐渡ヶ  
嶽像》平野敬吉《少年》藤井浩祐《浴女洗髪》和田  
金剛《隅田川》(出品目録, 静岡4/25)
- 4/15 福沢一郎を囲む小品展於浜松松菱(-20)。  
(遠州3/12, 4/16, 5/22, 中日遠州版4/17)
- 4/16 井上市三郎個展於東京村松画廊(-21)。  
(遠州S32.11/29, S33.1/7)
- 4/16 一陽会静岡支部展於県民会館(-20)。(静岡4/18)
- 4/16 中森彫塑展於県民会館(-20)。(静岡4/18)
- 4/16 熱海美術館日本美術名品展於静岡田中屋(-23)。  
(毎日静岡, 遠州版4/14, 16, 17, 18, 19, 静岡4/16)
- 4/21 山口源、静岡郵便局一日局長。  
(静岡4/17, 22, 朝日駿豆版4/22)
- 4/ 北川民次展於東京画廊(-26)。
- 4/22 「虫」による詩画展於戸田書店(-27)。
- 4/22 日本洋画代表作家展於県民会館(-27)。(静岡4/18,  
21, 22, 読売静岡B版4/22, 県民会館館報no.5)
- 4/22 遠州美術第2回展於浜松松菱(-27)。  
(遠州4/8, 21, 22, 24, 毎日遠州版4/22, 23, 24, 30)
- 4/24 蒼丘会第6回展於静岡吉見書店(-5/4)。  
(毎日静岡版4/22, 静岡5/2)
- 4/25 壮炎会第13回展於浜松伊勢屋文具店(-29)。  
(毎日遠州版4/25, 遠州4/26)
- 4/26 第17回水彩連盟展於東京都美術館(-5/12)。  
入選者。(静岡5/2, 4)
- 4/26 第24回東光会展於東京都美術館(-5/13)。  
入選者。(静岡4/25)
- 4/27 第26回日本版画協会展於東京都美術館(-5/13)。  
入選者他。(朝日駿豆版4/26, 読売静岡B版5/4,  
静岡5/9)
- 4/27 第32回国画会展於東京都美術館(-5/13)。  
曾宮一念《にえもん島》柏木俊一《十六羅漢》野田  
好子《海と空》《夜の動物園》後藤清吉郎《剥製の  
鳥》芹沢銈介《漁船文附下紅形ちりめん着尺》《漁  
具文藍型麻の部屋着》《笥文黄茶地型染麻の部屋  
着》東克己《春の岩船山(夕ばえ)》《庭から掘り出さ  
れた石》渋川栄志《鏡の前に憩ふ》山口源《許容》  
伊藤勉《化粧》《旅の記》中川雄太郎《道祖神》《野  
の花》山口泉《貝殻》\* 出品。  
栗山茂、中川雄太郎、国画会会員推挙。  
(静岡4/25, 朝日静岡版4/28, 遠州4/24, 26\*)
- 4/27 第35回春陽会展於東京都美術館(-5/13)。  
小栗哲郎《山中夕色》井上重生《静物》《湘南風景》  
《山村》
- 4/28 沢村美佐子個展於県民会館(-5/2)。  
(静岡4/28, 5/2, 朝日静岡版4/28)
- 5/ 1 能勢海旭小品展於浜松伊勢屋文具店(-8)。  
(遠州5/7)
- 5/ 増田大罇個展於静岡アオバペーパー(-5/10)。  
(静岡5/2, 読売静岡B版5/2)
- 5/ 2 呉林俊個展於熱海市観光会館(-5)。  
(読売静岡B版5/3)
- 5/ 3 彩友会展於富士宮公民館(-5)。  
(読売静岡B版4/24)
- 5/ 3 中村良七郎近作油絵展於浜松松菱(-6)。  
(遠州4/21, 5/1, 2, 中日遠州版5/3, 毎日遠州版5/3)
- 5/ 3 野末兆光・桃古[野末貞次]個展於浜名郡浜名中  
学校(-5)。(静岡5/2, 中日5/3)
- 5/ 5 アジアオリンピック大会美術展於国立競技場(-6/)。  
尾形礼正《作戦》江崎金彦《ラグビー》金賞受賞。  
(朝日静岡版6/2)
- 松浦仲知《友和》入選。(中日遠州版5/3)
- 5/ 5 珊瑚会第5回小品展於静岡吉見書店(-11)。  
(毎日静岡版4/22, 静岡5/9, 朝日静岡版5/9)
- 5/ 志水知治掛絵小品展於静岡アオバペーパー(-21)。  
(静岡5/16)
- 5/11 山口源受賞祝賀会於沼津大倉別荘。

- (沼津朝日5/8, 10, 静岡5/9)
- 5/ 望月利八展於静岡吉見書店(-18)。(静岡5/16)
- 5/13 求軌会美術展於浜松松菱(-13)。(毎日遠州版5/1)
- 5/14 現代美術即売会於静岡田中屋(-16)。  
(中日駿遠版5/11)
- 5/14 黒潮会日本画小品展於浜松松菱(-16)。  
(遠州5/9, 12, 13)
- 5/15 第3回現代日本美術展於東京都美術館(-6/2)。  
北川民次《ファンタンゴⅠ》佐野繁次郎《生物》  
曾宮一念《波》《麦》近藤浩一路《風景》澤田政廣  
《天宇受売命》(美術年鑑S.34)
- 5/17 川上嘉市作品展於浜松商工会館(-19)。  
(遠州5/15, 19, 20, 中日遠州版5/18)
- 5/19 北川民次展於大阪フォルム画廊(-24)。
- 5/19 寺平誠介作品展於静岡松竹劇場(-6/)。  
(静岡5/21)
- 5/20 澤田政廣作品展於東京日本橋高島屋(-25)。
- 5/21 松永美津男展於静岡アオバペーカー(-30)。  
(静岡5/28)
- 5/21 六鳥会新作小品展於東京八重洲画廊(-25)。  
曾宮一念出品。(遠州5/24)
- 5/ 大橋豊久染色小品展於静岡クラウン(-6/1)。  
(静岡5/23)
- 5/23 らばん会展於県民会館(-26)。  
(毎日新聞版5/1, 静岡5/16, 23, 読売静岡B版5/23)
- 5/23 巨匠四人展於浜松商工会館(-25)。(遠州5/22, 24)
- 5/23 鈴木三朝個展於浜松市立図書館(-26)。  
(遠州4/16, 5/22, 26, 中日遠州版5/22)
- 5/24 静流会第14回展於沼津西武(-26)。  
(朝日駿豆版5/14, 静岡4/20, 沼津朝日5/2, 23, 25)
- 5/ ひまわり会第1回展於伊東市役所(-27)。(静岡5/28)
- 5/ パーミリオン展於静岡吉見書店(-6/1)。(静岡5/30)
- 5/27 島田四郎個展於県民会館(-30)。(静岡5/23, 26)
- 6/ 曾宮一念『海辺の溶岩』刊行。(遠州6/26)
- 6/1 第46回日本水彩画会展於東京都美術館(-13)。  
入選者。(毎日静岡版5/30)
- 6/ 2 クロダ・フジオ漫画展於静岡吉見書店(-8)。  
(静岡5/30)
- 6/ 3 白隠禪師遺墨展於静岡松坂屋(-8)。(朝日駿豆, 駿遠  
版2/1, 静岡5/28, 29, 30, 31, 6/1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 黎明  
5/18, 毎日静岡版6/1, 沼津毎日6/1, 沼津朝日6/5)
- 6/4 第18回美術文化協会展於東京都美術館(-16)。  
入選者。(静岡6/6, 遠州6/4, 6)
- 6/ 5 県写真サロン第3回展於静岡田中屋(-9), 於沼津  
(13-18), 於浜松松菱(8/)。(朝日駿遠, 駿豆版3/16,  
4/12, 6/1, 6, 7, 8, 9, 10, 11)
- 6/ 6 白鳥金次郎「三島龍沢寺と名工長八」(静岡6/6)
- 6/ 7 栗原誠画業五十年展於沼津イナノ文房具(-11)。  
(沼津朝日6/7, 朝日静岡版6/9)
- 6/8 第7回創型会展於東京都美術館(-22)。  
同人:太田重範、会員:中森泰吉。岡村豊治、小長井  
隆、前田元之、入選。中森泰吉、中森五三九、努力賞。  
(静岡6/13)
- 6/11 備前焼名工作品展於静岡松坂屋(-15)。  
(読売静岡版6/10)
- 6/12 山下充個展於東京文藝春秋画廊(-16)。
- 6/14 東京チャールズ会・静岡チャールズ会交歓会於静岡、  
島田(-15)。(静岡6/8, 15, 26, 7/9, 毎日静岡版6/16,  
朝日静岡版6/16)
- 6/15 第3回新世紀展於東京都美術館(-27)。  
入選者。(静岡6/20)
- 6/17 大橋香汀作品展於福田中央公民館。  
(中日遠州版6/17)
- 6/18 第7回現代日本陶芸展於静岡松坂屋(-22)。  
(静岡6/16, 朝日駿豆, 駿遠版6/13, 18)
- 6/20 松島達太郎個展於浜松伊勢屋文具店(-22)。  
(遠州6/23)
- 6/24 浜松アンデパンダン第4回展於浜松松菱(-29)。  
(遠州4/30, 6/24, 27, 28)
- 6/27 井出孝「港と高原」(静岡6/27)
- 6/27 形象派静岡支部展於県民会館(-7/1)。(静岡6/27)
- 6/27 芹沢銈介展於那覇沖縄タイムス社(-29)。
- 6/29 「三枝基 かくしゃく」(郷土6/29)
- 7/ 1 六灯会第2回展於浜松松菱(-6)。  
(遠州4/24, 6/30, 7/4)
- 7/ 1 内山牛松河童絵展於浜松松菱(-6)。(遠州6/27)
- 7/ 3 土佐光一作品展於県民会館(-7)。(毎日静岡, 遠州  
版4/7, 静岡5/9, 6/17, 7/3, 朝日駿遠, 駿豆版7/3)
- 7/ 4 武者小路実篤・松本長三郎展於浜松市図書館(-6)。  
(遠州7/2, 5)
- 7/ 谷崎潤一郎原稿挿絵展於静岡吉見書店(-10)。  
(朝日静岡版7/3, 静岡7/4)

- 7/ 8 現代洋画壇大家作品展於浜松松菱(-13)。  
(遠州6/11, 7/4, 11, 12, 中日遠州版7/8)
- 7/10 坂井大樂展於浜松市立図書館(-13)。(遠州6/27, 7/12)
- 7/11 高木吉武「山室の亭主」(静岡7/11)
- 7/11 平子聖竜名作展於熱海市観光会館(-13)。  
(静岡7/10)
- 7/11 チャーチル会スケッチ展於静岡谷島屋(-15)、於島田市図書館(18-21)。(中日遠州版7/9, 毎日静岡版7/11)
- 7/12 水彩連盟静岡支部展於県民会館(-14)。  
(静岡7/11, 中日遠州版7/11, 遠州7/15)
- 7/12 静岡独立展於県民会館(-15)。  
(静岡7/11, 中日遠州版7/11)
- 7/13 第24回旺玄会展於東京都美術館(-24)。  
入選者。(読売静岡B版7/18)
- 7/15 藤井浩佑、熱海の自宅にて逝去。75歳。  
(読売静岡B版7/17, 美術年鑑S.34)
- 7/ 大内枝翠・望月祥堂二人展於静岡谷島屋(-20)。  
(静岡7/18)
- 7/ 宮崎万平個展於県民会館(-27)。(静岡7/18)
- 7/22 第1回新象展於東京小原会館(-31)。  
(遠州6/7, 16, 7/19, 24, 28, 8/14)
- 7/22 二十代絵画書道展第2回展於浜松松菱(-27)。  
(遠州7/18, 24, 25, 毎日遠州版7/23, 中日遠州版7/22)
- 7/22 創元会三人小品展於浜松松菱(-27)。  
(遠州4/20, 7/22, 24)
- 7/23 県毎日写真第5回展於静岡田中屋(-28)。  
(毎日静岡, 遠州版4/8, 6/1, 7/1, 18, 22, 25)
- 7/24 羊雲会展於県民会館(-27)。(静岡7/18, 25)
- 7/28 ユーモア・クラブ展於浜松松菱(-8/3), 於静岡田中屋(8/9-18)。(遠州7/21, 8/2, 中日遠州版7/27, 29, 静岡7/29, 8/8, 毎日遠州版7/31)
- 7/30 中国写真芸術展於静岡田中屋(-8/4)。  
(毎日静岡版7/29, 31, 8/1)
- 7/31 中川雄太郎 かつば展於静岡クラウン(-31)。  
(静岡8/8)
- 8/ 1 第10回毎日書道展於東京都美術館(-9)。大井碧水、佐藤蕪堂、毎日賞受賞(毎日静岡, 遠州版7/30)
- 8/ 1 静流会美術展於沼津イナノ文房具店(-9)。  
(沼津朝日7/9, 静岡7/10, 朝日駿豆版8/1)
- 8/ 5 県かつば祭第1回展於県民会館(-10)。(静岡8/1, 9, 読売静岡B版8/7, 県民会館館報no.5)
- 8/ 漫画三人展於静岡吉見書店(-10)。(静岡8/8)
- 8/ 7 森田晃光油絵遺作展於浜松伊勢屋文具店(-9)。  
(遠州8/2, 8, 中日遠州版8/9)
- 8/ 8 松浦伸知《友和》設置於浜松元城プール。  
(毎日遠州版7/19, 遠州8/11)
- 8/10 前田千寸近況。(沼津朝日8/10)
- 8/12 志賀旦山「石」(沼津朝日8/12)
- 8/19 高木吉武「浅間山と華厳の滝」(静岡8/29)
- 8/19 宮崎万平個展於大阪白鳳画廊(-24)。
- 8/19 六人の作家展於浜松松菱(-24)。  
(遠州7/30, 8/12, 21, 23)
- 8/20 北川民次リトグラフとエッチング展於名古屋豊田ビル画廊(-26)。
- 8/20 水野欣三郎《大野篁二胸像》除幕式於浜松聖愛園。(遠州8/4\*, 15, 22, 23, 中日遠州版8/22)
- 8/21 和田金剛《愛の像》除幕式於沼津駅前。(沼津朝日6/8, 7/9, 8/13, 12/30, 静岡6/8\*, 7/26\*, 8/21\*, 沼津毎日6/25, 毎日静岡版7/15\*, 8/21, 朝日駿豆版8/21, 22, 読売静岡B版8/21)
- 8/ 森正一個展於静岡谷島屋書店(-25)。(静岡8/22)
- 8/24 第6回形象展於愛知県美術館(-31)。  
(中日駿遠版8/24, 毎日静岡, 遠州版8/26)
- 8/31 新海竹太郎《市川紀元二像》移転除幕式於静岡護国神社。(静岡S32.9/23\*, S33.7/4\*, 8/29\*, 9/1, 毎日静岡版7/4\*, 9/1, 読売静岡B版7/4, 8/30)
- 9/ 1 日本アンデパンダン静岡選抜展於清水市青少年会館(-14)。(静岡8/17, 9/5, 12, 毎日静岡, 遠州版9/1)
- 9/ 1 第43回二科展於東京都美術館(-20)。  
北川民次《ファンタンゴ [II]》出品。  
新入選。(朝日駿遠, 駿豆版8/30, 読売静岡B版8/30)
- 9/ 1 第43回院展於東京都美術館(-20)。  
小栗正、院友推薦。(朝日駿遠版9/4)
- 9/ 1 鈴木三朝《柿》中島多茂都《杉》(遠州7/31)
- 9/ 1 第13回行動美術展於東京都美術館(-20)。  
新入選者。(朝日駿遠版8/29, 遠州9/1)
- 9/ 4 オーストラリア・ニュージーランド巡回日本美術展於東京国立近代美術館(-10)。秋野不矩《坐す》出品。
- 9/ 4 静岡県水彩画協会第8回展於県民会館(-7)。(毎日静岡版9/1, 静岡9/4, 5, 朝日駿遠, 駿豆版9/4,



- 遠州9/6)
- 9/ 5 小川龍彦静岡風景スケッチ展於静岡クラウン(-30)。  
(毎日静岡版9/5)
- 9/ 6 美術文化協会展於愛知県文化会館(-14)。  
入賞者。(静岡9/12)
- 9/ 9 形象派第6回展浜松展於浜松松菱(-16)。  
(中日遠州版9/9, 10, 遠州9/10, 13)
- 9/10 山内泉近作展於浜松伊勢屋文具店(-14)。  
(遠州9/5, 9, 12)
- 9/12 古代ローマ展於静岡田中屋(-28)。  
(読売静岡B版9/9, 10, 13, 17, 18, 21, 25, 28)
- 9/17 青木達弥「ローマ展を見て」(読売静岡B版9/17)
- 9/20 志賀旦山個展於沼津イナノ文房具店(-29)。  
(静岡9/20, 毎日静岡版9/21, 朝日駿豆版9/21)
- 9/20 美窓会第1回展於伊東市役所(-23)。(静岡9/19)
- 9/21 長谷川彰一展於東京画廊(-30)。
- 9/22 第20回一水会展於東京都美術館(-10/10)。  
新入選者。(朝日駿遠, 駿豆版9/23)
- 9/22 第22回新制作展於東京都美術館(-10/10)。  
秋野不矩《風景》《静物》出品。  
新入選者。(朝日駿遠, 駿豆版9/23, 遠州9/25)
- 9/22 第4回一陽会展於東京都美術館(-10/10)。  
新入選者。(読売静岡B版9/20, 毎日静岡版9/20,  
朝日駿遠, 駿豆版9/23)
- 9/24 写実派協会展於県民会館(-28)。(静岡9/19)
- 9/25 大村政夫「ローマ展を見て」(読売静岡B版9/25)
- 9/ マダークラブ第3回展於浜松市立図書館(-)。  
(毎日遠州版10/31)
- 10/ 1 鳥羽清一逝去。享年73。  
(静岡10/2, 毎日静岡版10/2, 読売静岡B版10/3)
- 10/ 2 小栗正個展於浜松伊勢屋文具店(-7)。  
(遠州9/22, 毎日遠州版9/30)
- 10/ 創作版画風呂敷展於静岡田中屋(-)。  
(朝日駿遠, 駿豆版10/4)
- 10/ 6 中村宏・尾藤豊二人展於東京サトウ画廊(-11)。
- 10/ 7 三行舎十周年記念展於浜松松菱(-12)。  
(浜松民報10/6, 中日遠州版10/7)
- 10/ 8 入江長八追善供養会於松崎町浄感寺。(静岡9/25)
- 10/ 堀内天嶺《釈迦一代記画集》構想。(静岡10/10)
- 10/11 瀬戸水明作品鑑賞会於沼津田中温古堂。  
(沼津朝日10/9)
- 10/12 第26回独立展於東京都美術館(-30)。  
山道栄助《満潮》《憩》《積木》  
入選者。(読売静岡B版10/9)
- 10/12 第12回二紀会展於東京都美術館(-30)。  
新入選者。(毎日静岡, 遠州版10/8, 中日遠州版10/8)
- 10/12 第22回自由美術展於東京都美術館(-30)。  
新入選者。(朝日静岡, 遠州版10/8, 11, 静岡10/11)
- 10/14 伊藤勉・巻白版画二人展於東京文房堂(-18)。
- 10/15 増田大罇個展於静岡谷島屋書店(-19)。(静岡10/10)
- 10/17 七彩会第1回展於浜松松菱(-19)。  
(浜松民報10/16, 18)
- 10/21 志賀旦山「よろめき人生」(沼津朝日10/21)
- 10/22 犬塚友吉 TOMO 近作小品展於浜松松菱(-26)。  
(遠州7/23, 浜松民報10/16, 18, 中日遠州版10/19,  
静岡10/21)
- 10/23 山口源版画個展於東京養清堂画廊(-28)。
- 10/23 山本喜明遺作展於沼津マルサン書店(-28)。  
(静岡10/23, 26, 沼津朝日10/23, 毎日静岡版10/24)
- 10/24 明窓会展於県民会館(-26)。(静岡10/17)
- 10/25 朝倉文夫《加藤ふち胸像》除幕式於沼津女子商業  
高校。(静岡10/26)
- 10/29 グループ「白」シリーズ第1回展早川実・前田守一  
二人展於戸田書店(-11/2)。
- 10/ 和田金剛《亥》頒布。(沼津朝日10/29, 11/13, 26,  
12/20)
- 10/ 沖六鵬《宝鏡三昧》日本書道バンコック展へ出品。  
(毎日静岡版9/27, 中日遠州版9/27)
- 11/ 1 河合広個展於静岡幸文堂(-9)。(静岡11/3)
- 11/ 1 山下清来浜。(毎日遠州版10/25, 静岡11/1, 中日遠  
州版11/2, 浜松民報11/1)
- 11/ 2 第1回日展於東京都美術館(-12/8)。  
青島淑雄《ひととき》近藤浩一路《澄》漆畑廣作《内  
陣》島戸繁《真昼の漁港》中津川敬《闘牛》藤本東  
一良《陸にあがったヨット》二重作龍夫《晨朝》浅井  
行雄《裸婦立像》池辺瑠璃《待つ》大村政夫《セロを  
持つ女》澤田政廣《レダ》杉本宗一《裸婦》館野弘  
青《裸婦立像》堤達男《青雲(天稚彦による)》平野  
富山《若い眸》藤井浩佑《裸婦》和田金剛《黄昏》  
(日展史)
- 石ヶ谷富三、中津川敬、新入選。(静岡10/26, 読売  
静岡版10/26, 毎日遠州版10/27,)

- 11/ 2 石田一馬近況。(静岡11/2)
- 11/ 池田正司水彩小品展於静岡クラウン(-30)。(静岡11/7)
- 11/ 5 河村家正個展於浜松松菱(-9)。(中日遠州版11/2)
- 11/ 6 稲葉治夫油絵個展於沼津イナノ紙店(-9)。(沼津毎日11/2, 沼津朝日11/5, 朝日駿豆版11/6, 黎明11/9)
- 11/ 8 志水知治「私のキップ」(沼津朝日11/8)
- 11/ 8 熱海市民美術展於熱海観光会館(-10)。  
藤井浩祐《鏡の前》和田清《熱海風景》《しゃくしゃく》  
平野利太郎《鶏頭》池辺るり子《裸婦の像》他出品。  
(中日駿遠版11/10)
- 11/ 8 静岡県版画協会第10回展於県民会館(-10)。  
(毎日静岡版11/1)
- 11/10 伊藤勉黄個展於静岡幸文堂(-17)。
- 11/11 一土会展80回記念展於静岡谷島屋書店(-16)。  
(静岡10/31, 11/7, 朝日駿遠版11/6, 毎日静岡版11/9)
- 11/11 三行舎第4回展於県民会館(-12)。  
(静岡11/7, 浜松民報11/11)
- 11/15 洋画人気作家佳作展於浜松商工会館(-17)。  
(浜松民報10/25, 11/19, 中日遠州版11/12)
- 11/17 静岡三年クラブ展於静岡谷島屋書店(-21)。  
(静岡10/31)
- 11/19 静岡県美術展第12回展於県民会館・静岡松坂屋・田中屋(-23)。  
審査員:脇田和、野間仁根、荻野康児、山口源、澤田政廣、橋本明治、宮下孝雄。  
(県民会館館報no.5, 静岡11/1, 18, 21, 朝日駿遠, 駿豆版11/19, 毎日静岡, 遠州版11/1, 18, 19, 読売静岡B版11/1, 16, 19, 中日遠州版10/8, 11/19, 浜松民報11/18, 19)
- 11/21 長谷川彰一「アメリカの前衛画家たち」(静岡11/21)
- 11/22 近代工芸作家協会展於静岡谷島屋書店(-29)。  
(静岡10/31, 読売静岡B版11/22)
- 11/23 堤達男《動員学徒やすらぎの塔》除幕式於静岡市駿府公園。(静岡6/12\*, 8/23\*, 29, 9/2, 10/21\*, 26, 11/23\*, S35.10/18, 朝日静岡版3/12, 11/20, 24\*, 毎日静岡, 遠州版1/19, 6/20, 25, 9/6, 10/20\*, 11/20\*, 24\*, 読売静岡B版11/20, 24, 中日遠州版6/20, 11/7, 24\*)
- 11/23 前田千寸復元古代染布内覧会於沼津東高校。  
(沼津朝日11/21)
- 11/23 中国芸術写真展於浜松市立図書館(-25)。  
(浜松民報11/13)
- 11/28 長谷川彰一個展於県民会館(-12/2)。  
(毎日静岡版11/30, 静岡11/28)
- 11/30 太田聰雨回顧展於神奈川県立近代美術館(-S34.1/8)
- 12/ 1 志水知治個人展於沼津マルサン書店(-7)。  
(静岡11/27)
- 12/ 2 日本民芸展於静岡松坂屋(-7)。  
(毎日静岡版12/1, 静岡12/3, 4, 5)
- 12/ 5 石井漢「人間釈迦」公演於静岡市公会堂。  
(静岡11/28, 12/4)
- 12/ 7 『グループ白』No.1 刊行。
- 12/ 山内泉《榛屋松竹ビル壁画》完成。(浜松民報12/9)
- 12/ 9 内山牛松個展於浜松松菱(-14)。  
(中日遠州版12/9, 浜松民報12/10)
- 12/10 県美術家協会年末助けあい色紙展於県民会館(-14)。(静岡12/10, 18, 朝日駿豆版12/11, 県民会館館報no.5)
- 12/ 杉山有油絵個展於静岡谷島屋書店(-15)。  
(朝日駿遠版12/11, 静岡12/12)
- 12/ 静岡チャーチル会分裂。(毎日静岡版12/13)
- 12/13 ヒューマン・フォトグループ展於静岡江崎書店(-23)。  
(静岡12/12)
- 12/17 板垣隆文・杉山栄一・高梨吉勝展於沼津イナノ文具店(-21)。(沼津朝日12/17)
- 12/19 山口源近況。(沼津朝日12/19)
- 12/19 日吉守近況。(浜松民報12/19)
- 12/ 寺平誠介作品展於静岡クラウン(-12末)。  
(静岡12/19)
- 12/20 大村政夫《セロを持つ女人像》除幕式於県民会館前。  
(県民会館館報no.5, 静岡12/21, 毎日静岡版12/21\*)
- 1959 昭和34年**
- 1/ 1 山口源《窓》(沼津朝日1/1)
- 1/ 1 小川龍彦「ふるさとの春」  
(毎日静岡, 遠州版1/1, 5, 7)
- 1/ 3 和田英作逝去。享年85。(静岡1/4, 9, 3/17, 美術手帖no.154, みづゑno.645, 日本美術年鑑S.35)
- 1/ 3 油絵四人展於沼津イナノ文具店(-8)。  
(静岡S33.12/28)
- 1/ 4 吉原美術協会設立。(静岡1/5)
- 1/ 中国書画展於県民会館(-11)。(静岡1/9)

- 1/ 鈴木七郎個展於浜松松菱(-11)。(浜松民報1/9)
- 1/ 5 内藤十郎・水野瑛郎・吉崎京一展於浜松伊勢屋文具店(-11)。(浜松民報1/8)
- 1/ 6 第10回秀作美術展於東京日本橋三越(-18)。  
北川民次《鬼ヶ城(八幡平公園風景)[八幡平・鬼ヶ城]》佐野繁次郎《生物》山口源《許容》
- 1/13 『グループ白』No.2 刊行。
- 1/16 高木吉武「脛にきずもつ正月」(静岡1/16)
- 1/19 斎藤真一作品頒布会於県民会館(-22)。(読売静岡B版S33.12/10, 毎日静岡版S33.12/3, 静岡1/16, 20, 23)
- 1/21 吉村正治写真展於静岡田中屋(-23)。  
(毎日静岡, 遠州版S33.12/30, 31, S34.1/16, 21, 22, 23)
- 1/21 ラ・ジャン展於静岡谷島屋書店(-27)。(静岡1/16)
- 1/23 戦後の秀作展於東京国立近代美術館(-3/1)。  
中村岳陵《雪晴れ》北川民次《メキシコ市場の一隅》出品。
- 1/25 前衛35人第2回展於浜松松菱(-31)。  
(浜松民報1/19)
- 1/30 県東部美術連盟版画指導研究会於沼津静浦小学校。講師:山口源。(沼津朝日1/30)
- 2/ 1 第8回奎星会展於東京都美術館(-8)。  
大井碧水、山本翠城、入賞。(静岡2/6)
- 2/ 1 グループ白小品展於静岡幸文堂(-10)。(静岡2/3)
- 2/ 島田四郎個展於静岡安心堂(-7)。(静岡2/6)
- 2/ 5 西崎順二個展於静岡谷島屋書店(-8)。(静岡1/30)
- 2/ 7 斎木錠一洋画展於島田知新(-13)。(静岡2/6)
- 2/ 飯田昭二油絵展於静岡谷島屋書店(-15)。  
(静岡2/13)
- 2/ 洋画第2回展於沼津西武(-15)。(静岡2/13)
- 2/16 青木達弥個展於静岡谷島屋書店(-22)。  
(毎日静岡版1/14, 静岡2/20)
- 2/17 中島扶久子個展於県民会館(-21)。  
(静岡2/20, 毎日遠州版4/15)
- 2/17 曾宮一念展於県民会館(-22)。(浜松民報2/12, 16, 毎日静岡版2/13, 読売静岡B版2/14, 朝日駿遠版2/14, 静岡2/27, 県民会館館報no.5)
- 2/17 梅田画廊主催現代洋画大家小品展於浜松松菱(-22)。  
(浜松民報1/14, 2/12, 18)
- 2/18 第12回日本アンデパンダン展於東京都美術館(-3/1)。  
中村宏、鈴木慶則、伊藤隆史、伊藤詩朗、前田守一、早川実、伊藤勉、小林幹於、大沢富子出品。
- 2/22 鈴木静邨近況。(朝日駿豆, 駿遠版2/22)
- 2/26 全日本写真サロン展於静岡田中屋(-3/2)。  
(朝日駿豆, 駿遠版2/25, 27)
- 3/ 3 米田一夫詩画展於浜松伊勢屋文具店(-8)。  
(浜松民報3/2)
- 3/ 青野裕彦個展於静岡谷島屋書店(-8)。(静岡3/5.6)
- 3/ 4 第2回グループ「白」シリーズ展伊藤隆史・早川実二人展於静岡幸文堂(-10)。
- 3/5 丹羽勝次個展於静岡江崎書店(-8)。  
(毎日静岡版3/5, 静岡3/6, 朝日駿遠版3/6)
- 3/ 8 『グループ白』No.3 刊行。
- 3/15 太田昭個展於静岡吉見書店(-20)。
- 3/16 長江録弥《友愛の像》除幕式於伊豆長岡町小学校。  
(静岡3/17, 読売静岡B版3/17\*, 朝日駿遠版3/17)
- 3/17 第19回美術文化会展於東京都美術館(-31)。  
猪飼重明《帛・散華》《汚された旗》猪飼重明、会員努力賞。中島広視、会友推挙。(静岡3/20, 浜松民報3/17, 20, 日本美術年鑑S.35\*)
- 3/17 山内泉・中村良七郎展於浜松松菱(-22)。  
(浜松民報3/12, 17, 20)
- 3/17 浜松アンデパンダン第5回展於浜松松菱(-22)。  
(浜松民報3/17, 19)
- 3/18 彩友会小品展於富士宮吉永書店(-22)。(静岡3/11)
- 3/18 第18回水彩連盟展於東京都美術館(-31)。  
入選者。(静岡3/20)
- 3/ 増田大罌・大津皓陽 富士山展於静岡安心堂(-26)。  
(静岡3/20)
- 3/21 山口源版画展於沼津マルサン書店(-26)。  
(沼津朝日3/21, 静岡3/21)
- 3/21 浜松地方洋画コレクション第2回展於浜松商工会館(-23)。(浜松民報3/25)
- 3/26 堤達男《狩野のみどり子》除幕式於田方郡大仁小学校。(静岡2/17, 3/26, 読売静岡B版3/23, 毎日静岡版3/27\*, 9/15\*, 朝日静岡版3/27, 駿豆, 駿遠版9/17)
- 3/28 SAN元会展於県民会館(-4/1)。(静岡3/27, 4/3)
- 3/ 長沢幸夫《地藏尊》完成於原松蔭寺。  
(静岡3/25, 朝日駿豆版3/25)
- 4/ のびゆく静岡展於静岡田中屋(-6)。  
徳川慶喜他。

- (静岡4/4, 6)
- 4/ 2 第45回光風会展於東京都美術館(-19)。藤本東一良《回想》出品。
- 4/ 2 杉本英一近作油絵個展於沼津マルサン書店(-7)。(沼津朝日3/31, 朝日静岡版4/1)
- 4/ 2 肖像画展於県民会館(-5)。(静岡3/27)
- 4/ 3 第27回日本版画協会展於東京都美術館(-19)。山口源《萌芽季》《追念》栗山茂《或る痴像A》《或る痴像B》中川雄太郎《海神》《農夫》西貝和子《壺》《漂う》(日本美術年鑑S.35)
- 4/ 3 第5回サンパウロ・ビエンナーレ日本側出品作国内展於東京国立近代美術館(-12)。山口源《Ballad A》《Ballad B》《Ballad C》《Narcissism》《A Solar Eclipse》《A Commandment》《A Solar Eclipse》《Comedy》《Transmigration》《Emptiness》他。(美術年鑑S.35)
- 4/ 4 現代高僧墨蹟展於清水港木材会館(-6)。(静岡4/3)
- 4/ 7 県美術家協会第2回展於県民会館(-12)。(毎日静岡版4/1)
- 4/ 7 新象派作家協会浜松支部展於浜松松菱(-)。(浜松民報3/20, 4/1, 11)
- 4/14 二重作龍夫展於東京日本橋三越(-19)。
- 4/15 第7回日彫展於東京都美術館(-5/5)。飛岡文一《犬》平野敬吉《K子頭像》(出品目録)
- 4/16 創型会彫刻展於県民会館(-20)。(毎日静岡版4/1, 静岡4/17)
- 4/18 中島伏久子展於磐田公民館(-20)。(毎日遠州版4/15)
- 4/ 美術文化協会作家グループ小品展於浜松松菱(-25)。(静岡4/17, 浜松民報4/27)
- 4/ 大内枝翠・望月祥堂展於静岡谷島屋書店(-26)。(静岡4/24)
- 4/22 新草会展於県民会館(-26)。(毎日静岡版4/1, 静岡4/24)
- 4/22 第33回国画会展於東京都美術館(-5/8)。曾宮一念《聖福寺土塀》野田好子《へびつかい座と花》《丘》渋川栄志《暁》《静物》山口源《離》《再顧》栗山茂《鳥》《麦秋の季節》中川雄太郎《酔歩》《彫像》芹沢銈介《布文部屋着(黒地)》出品。伊藤勉《作品・翔》《作品・景》出品、会員推挙。(静岡4/24)
- 山内泉《月明り》(静岡4/24, 浜松民報4/29\*)
- 4/27 紅人会展於静岡谷島屋書店(-30)。秋野不矩、賛助出品。(静岡4/26, 5/1)
- 4/28 斎藤真一渡仏。(静岡4/27, 毎日静岡版S33.12/3, 読売静岡B版S33.12/10, 中日遠州版S33.12/4)
- 4/ 第5回サンパウロ・ビエンナーレ。
- 山口源《日蝕》《火渡り》《虚》《芝生》出品。《芝生》受賞。
- 4/ 新制作春季展於京都市美術館(-)。
- 秋野不矩《猫と花》
- 5/1 近江工芸作家協会第2回展於静岡谷島屋書店(-7)。(毎日静岡版4/30, 5/1)
- 5/ 2 堤達男《栄西禪師像》除幕式於金谷。(静岡1/21, 3/10, S35.4/20, 7/17, S36.4/21, 27, 5/3, S37.4/21, 毎日静岡版4/20, 読売静岡B版S33.13, 31, S34.4/23)
- 5/ 3 高木圭祐展於県民会館(-6)。(静岡5/1)
- 5/ 3 田中修個展於浜松松菱(-7)。(浜松民報4/27)
- 5/ 4 山本海野日本画展於県民会館(-7)。(浜松民報4/27, 静岡5/1, 朝日駿遠版5/5)
- 5/ 9 第5回日本国際美術展於東京都美術館(-6/3)。北川民次《砂の工場》曾宮一念《海》秋野不矩《花と猫》澤田政廣《海に立つ弟橘比売》出品。
- 5/10 「日本ブームの版画国際選手山口源氏」(沼津朝日5/10)
- 5/12 光明寺磐松《龍女神像》(毎日静岡版5/14)
- 5/12 久能房子個展於県民会館(-14)。(静岡5/8)
- 5/12 水島裕個展於静岡松坂屋(-17)。(静岡5/12, 15)
- 5/12 三水会展於浜松松菱(-17)。(4/29, 5/16)
- 5/15 一陽会静岡支部展於県民会館(-17)。(静岡5/15)
- 5/15 第7回日彫展於東京都美術館(-5/5)。澤田政廣《騎馬像》和田金剛《支那服の女》浅井行雄《裸婦》藤井浩祐《小品》(遺作)(出品目録)
- 5/ 吉野不二太郎個展於静岡谷島屋書店(-22)。(静岡5/18)
- 5/17 水野欣三郎《足利紫山師胸像》除幕於引佐方広寺。(静岡2/27, 5/18, 朝日駿遠版5/17\*)
- 5/19 水野欣三郎《学徒動員慰霊像》除幕式於浜松西遠女子学園。(中日遠州版S33.10/22, 毎日遠州版3/31, 静岡, 遠州版5/14, 遠州版5/20, 西部版S37.5/19, 朝日駿遠版5/16, 静岡S35.5/13, 20)

- 5/19 遠州美術会第3回展於浜松松菱(-24)。  
(静岡4/17, 毎日遠州版5/1, 21, 浜松民報3/9, 4/9, 5/22)
- 5/20 前田千寸, 県教育功労者表彰。(読売静岡B版5/15)
- 5/23 「大橋豊久 この人」(毎日静岡, 遠州版5/23)
- 5/20 松島達太郎作品展於浜松松菱(-31)。  
(毎日遠州版5/1, 浜松民報5/26)
- 5/29 志賀旦山「天狗のはなし」(沼津朝日5/29)
- 5/ 東彩会第1回日本画展於静岡谷島屋書店(-30)。  
(静岡5/29, 毎日静岡版6/4)
- 6/ 1 静岡県版画グループ第1回展於江崎書店(-10)。  
(静岡6/5)
- 6/ 1 郷土作家絵画と工芸二十人展於静岡扇子屋(-30)。  
(静岡6/5, 8/5)
- 6/ 岡田紅陽富士原画展於沼津マルサン書店(-13)。  
(沼津朝日6/6)
- 6/ 斎藤清版画展於静岡すみや(-15)。(静岡6/5)
- 6/ 曾宮一念, エッセイストクラブ賞受賞。  
(朝日駿豆版6/7, 静岡6/12, 7/11)
- 6/11 藤野嘉市個展於静岡江崎書店(-20)。  
(毎日静岡版6/9, 静岡6/12)
- 6/16 美術文化協会浜松展於浜松松菱(-21)。  
(読売静岡B版6/1, 7/7, 浜松民報3/17, 6/15, 17)
- 6/ パーミリオンの会展於静岡谷島屋書店(-20)。  
(静岡6/12)
- 6/18 志賀旦山「沼津の文化施設」(沼津朝日6/18)
- 6/23 安田竹醉展於浜松松菱(-28)。  
(浜松民報6/16, 18, 19, 25, 27)
- 6/26 石野きよじ個展於静岡幸文堂(-29)。  
(静岡6/23, 朝日駿遠版6/25)
- 6/26 志づはた焼展於静岡谷島屋書店(-30)。  
(静岡6/26)
- 6/ 水彩連盟静岡支部第9回展於県民会館(-29)。  
(静岡6/26)
- 6/29 成川勝巳個展於沼津マルサン書店(-7/5)。  
(沼津朝日6/24, 朝日駿豆版6/26, 毎日静岡版6/30, 黎明7/1)
- 6/ リュブリアナ国際展。山口源《蘇生》《同棲》《沈黙》
- 7/ 1 中川雄太郎個展於谷島屋書店(-5)。(毎日静岡版6/30)
- 7/ 5 北川民次《名古屋CBC会館外壁モザイク壁画》設置。
- 7/ 5 吉野不二太郎個展於清水戸田書店(-9)。  
(静岡7/3, 朝日静岡版7/4)
- 7/ 7 美術文化協会作品展於米ニューヨーク・セシルギャラリー(-28)他。(浜松民報7/8)
- 7/ 7 内山牛松作品展於浜松松菱(-12)。  
(静岡7/3, 浜松民報7/8, 9)
- 7/11 北野熊雄展於浜松伊勢屋文具店(-15)。  
(浜松民報7/10, 15)
- 7/12 静流会第15回展於沼津マルサン書店(-19)。  
(沼津朝日7/17)
- 7/14 田中修滞欧作品展於浜松松菱(-19)。  
(浜松民報7/17)
- 7/17 山下充展於東京文藝春秋画廊(-21)。
- 7/20 花崎伊平油絵展於静岡谷島屋書店(-26)。  
(静岡7/17, 朝日駿遠版7/17)
- 7/ えいとくらぶ合同展於静岡クラウン(-8/15)。  
(静岡7/26)
- 7/23 北沢映月・秋野不矩二人展於東京渋谷東横(-28)。
- 7/23 羊雲会第6回展於県民会館(-25)。  
(静岡7/16, 24, 朝日静岡版7/24)
- 7/25 西原藤水ブラジル風物展於静岡日米文化センター(-8/14)。(毎日静岡版7/25)
- 7/26 清川泰次油絵展於東京日本橋三越(-8/2)。  
(毎日7/31, 東京8/1, みづゑno.653, 美術手帖no.163, 芸術新潮10-9, アトリエno.291)
- 7/28 第18回現代日本陶芸展於静岡松坂屋(-8/3)。  
(静岡7/10, 沼津毎日7/24, 朝日静岡版7/28)
- 7/28 二十代作家絵画書道第3回展於浜松松菱(-8/2)。  
(浜松民報4/27, 7/17, 8/15, 毎日遠州版7/1, 中日遠州版7/29)
- 8/ 4 梅村洋一遺作展於沼津マルサン書店(-12)。  
(沼津毎日7/24, 沼津朝日7/26)
- 8/5 早川実版画展於静岡江崎書店(-10)。  
(静岡8/5, 毎日静岡版8/5, 朝日駿遠版8/5)
- 8/ 7 山口源版画展於東京銀座松屋(-12)。  
(沼津朝日8/5, 東京8/9, 朝日8/10, 毎日8/12, みづゑno.654, 三彩no.118, 120, 芸術新潮10-10)
- 8/ 7 かつば第7回展於県民会館(-10)。(静岡7/31, 8/1, 8, 19, 毎日静岡版8/5, 8, 浜松民報8/6, 朝日静岡版8/8)

- 8/9 松方コレクション写真展於静岡谷島屋書店(-16)。(静岡8/5)
- 8/ 清川泰次『絵と言葉』美術出版社。(静岡8/12)
- 8/10 前田守一個展於東京養清堂画廊(-15)。
- 8/11 森田安次逝去。46歳。
- 8/16 らばん会絵画展於県民会館(-20)。(毎日静岡版8/18, 静岡8/12)
- 8/ 岡田紅陽「富士」写真展於静岡谷島屋書店(-23)。(毎日静岡版8/18, 静岡8/19)
- 8/ 野口三四郎人形、世界展に出品。(静岡8/25)
- / 形象派展於名古屋。入選者発表。(静岡8/24)
- 8/24 「えとぶん」連載(-9/30)。吉井忠、栗原信、建島覚造、高橋忠弥、田中忠雄、(静岡8/24, 9/2, 16, 25, 30)
- 9/1 第44回二科展於東京都美術館(-20)。  
北川民次《蝗のむれ[いなごの群れ]》《陶器を作る》  
出品。(美術年鑑S.35)  
新入選者。(朝日駿遠版8/29, 毎日遠州版8/29)
- 9/1 第44回院展於東京都美術館(-20)。  
中島多茂都《淵》
- 9/1 第14回行動美術展於東京都美術館(-20)。  
入選者。(朝日駿豆, 駿遠版8/29, 黎明8/30)
- 9/1 丸子次郎個展於沼津マルサン書店(-6)。(黎明9/1, 沼津朝日9/2, 朝日駿豆版9/3)
- 9/1 早川実版画展於清水戸田書店(-6)。(毎日静岡版9/1, 静岡9/2, 朝日駿遠版9/3)
- 9/1 増田大罌北海道風景展於静岡安心堂(-10)。(静岡9/2, 朝日駿遠版9/2)
- 9/ ナカムラ画廊オープン。(中日遠州版10/23, 浜松民報S35.1/1)
- 9/ 曾宮一念「浜松百選」表紙と絵。(浜松民報9/9)
- 9/5 北川民次《瀬戸市民会館タイル・モザイク壁画》設置。
- 9/ 谷内六郎展於清水戸田書店(-13)。(静岡9/9, 朝日駿遠版9/10)
- 9/6 桂川寛・尾藤豊・中村宏三人展於東京村松画廊(-10)。(藝術新潮10-11)
- 9/8 六灯会第3回展於浜松松菱(-13)。(浜松民報9/9, 10)
- 9/10 静岡県水彩画協会第9回展於県民会館(-13)。(静岡8/24, 9/9, 毎日静岡版9/10, 朝日駿遠版9/11)
- 9/ 杉村一勝写真小品展於静岡クラウン(-30)。(静岡9/12)
- 9/20 若山牧水遺墨展於沼津田中温古堂。(静岡9/20)
- 9/21 野田好子展於東京フォルム画廊(-26)。(東京9/23, みづゑno.655, 三彩no.120, アトリエno.393)
- 9/22 第23回新制作協会展於東京都美術館(-10/10)。  
秋野不矩《州(洲)》出品。  
入選者。(毎日静岡版9/12)
- 9/26 写実派協会第18回展於県民会館(-30)。(静岡9/23, 朝日駿遠版9/26)
- 9/27 沖六鵬、日展会員祝賀会於静岡八洲園。(静岡9/26)
- 9/28 山口源版画個展於東京養清堂(-10/3)。(沼津朝日9/27, 朝日駿豆版10/1)
- 10/1 今村晴子個展於静岡江崎書店(-7)。(静岡9/30, 毎日静岡版10/2)
- 10/1 近代工芸作家協会第3回展於静岡谷島屋書店(-7)。(静岡9/30, 毎日静岡版10/2, 4)
- 10/3 「池田哲二 この人」(毎日静岡版10/2)
- 10/8 柴田隆二写真展於静岡谷島屋(-12)。(郷土10/4, 18, 11/8, 静岡10/7)
- 10/12 第27回独立展於東京都美術館(-30)。  
山道栄助《川辺》《海辺》高島達四郎《熱海》児島善三郎《熱海》小島善太郎《南伊豆風景B》出品。
- 10/12 第13回二紀会展於東京都美術館(-30)。  
佐野繁次郎《市街》《馬の夫人》《死んだ画家》《ドメスティック》水野欣三郎《演若達多(おのが面をさがす)》。(美術年鑑S.35)
- 10/ 新槐樹社静岡支部展於静岡谷島屋書店(-18)。(朝日駿遠版10/13, 静岡10/14, 21)
- 10/15 静岡県版画協会第11回展於県民会館(-18)。(毎日静岡版10/8, 静岡10/19)
- 10/16 七彩会第2回展於浜松松菱(-18)。(浜松民報10/20)
- 10/17 山内泉上絵磁器展於浜松商工会館。(浜松民報10/21)
- 10/20 新象浜松グループ展於浜松松菱(-25)。(浜松民報10/23)
- 10/20 北川民次彩色陶額展於名古屋豊田ビル画廊(-26)。(芸術新潮10-9)
- 10/21 海野光弘版画展於静岡江崎書店(-27)。(朝日駿遠版10/13, 静岡10/14, 21)

- 10/ 池田正司展於静岡クラウン(-31)。(静岡10/21)
- 10/28 大竹省二写真展於東京富士フォート・サロン(-11/3)。
- 11/ 1 第2回日展於東京都美術館(-12/6)。  
青島淑雄《浴後》近藤浩一路《山ねむる》野島青茲  
《団欒》漆畑廣作《十一面観音》河西賢太郎《久能山  
麓》佐伯喜三郎《土手の道》藤本東一良《ヨット浮  
ぶ》二重作龍夫《草莢》村松茂男《稲取風景》浅井  
行雄《裸婦立像》大村政夫《踊子》澤田政廣《曼珠  
沙華》\* 杉本宗一《風》館野弘青《夏》堤達男《土器  
と少女》\*\* 平野敬吉《裸婦》和田金剛《哭》平野利太  
郎《刺繍パネル萌春》(美術年鑑S.35\*, 静岡10/25,  
朝日駿豆, 駿遠版10/25, 毎日静岡版10/25, 読売静  
岡B版10/29\*\*, 日展史)
- 11/ 3 彩友会小品展於富士宮吉沢文具店(-5)。  
(読売静岡版11/3)
- 11/ 3 古田晴久・佐藤蕪堂二人展於浜松松菱(-8)。  
(毎日遠州版11/1, 浜松民報11/2)
- 11/ 6 山下清作品展於沼津西武(-11)。  
(沼津朝日10/11, 11/1, 8, 黎明10/30, 11/7, 10, 朝  
日駿豆版11/1, 沼津毎日11/5, 静岡11/5)
- 11/ 8 「柴田隆二 まっぴらごめん」(郷土11/8)
- 11/8 ヒューマン・フォト・グループ展於静岡江崎書店(-14)。  
(毎日駿豆版11/10, 静岡11/11)
- / 太田重範の作品於静岡市役所・老人ホーム。  
(静岡11/13)
- 11/ 堤達男《平岡市三郎胸像》(静岡12/1)
- 11/10 土味川独甫展於浜松松菱(-15)。(毎日遠州版11/1)
- 11/ 静岡県美術家協会主催三代名作展於県民会館。
- 11/15 前衛クラブ、松菱との会場借用問題で紛糾。  
(浜松民報11/16)
- 11/18 静岡県美術展第13回展於県民会館・静岡松坂屋・  
田中屋(-22)。審査員：森田沙伊、野口弥太郎、北川  
民次、不破章、山口源、雨宮謙治郎、佐治正。(毎日  
静岡版7/6, 11/15, 17, 静岡, 遠州版11/17, 18, 朝  
日駿豆, 駿遠版11/18, 静岡11/17, 読売静岡B版  
11/18, 中日遠州版11/19, 21, 23)  
審査員に北村西望、山崎覚太郎の予定。(静岡9/23)  
入選者発表。(静岡11/17)
- 11/20 『北川民次の壁画』刊行。
- 11/21 水野欣三郎《中村春治郎胸像》除幕式於浜松信  
愛学園。(浜松民報11/21)
- 11/25 第2回双杉会展於東京兼素洞(-28)。野島青茲《海  
老》《菊》(日本美術年鑑S.35, 市井展の全貌)
- 11/25 江崎金彦写真展於静岡江崎書店(-)。  
(朝日駿遠版11/26)
- 11/ 小堀稜威雄・志賀旦山・上田臥牛展於沼津マルサ  
ン書店(-29)。(朝日駿豆版11/25)
- 11/ 加藤大象日本画展於県民会館(-12/3)。  
(毎日静岡版12/2)
- 12/ 1 増田大罾展於静岡谷島屋書店(-6)。(毎日静岡版12/2)
- 12/ 2 滝沢清「馬籠」写生展於静岡幸文堂(-14)。  
(静岡12/3)
- 12/ 7 宮脇愛子展於東京養清堂画廊(-19)。
- 12/ 9 新井弘・窪田幸一二人展於沼津マルサン書店(-18)。  
(黎明12/10, 沼津朝日12/10)
- 12/12 静岡市産業会館落成。(静岡S33.7/16, S34.12/12,  
13, 読売静岡B版6/20, 7/27, 31, 9/6, 23, 26, 10/10,  
11/28, 12/20, 27, 毎日静岡版S32.12/28, S34.6/20,  
28, 7/10, 31, 12/5, 13, 朝日駿遠版S33.7/20, 8/19,  
駿豆版9/23, S34.6/21, 7/7)
- 12/15 加賀孝一郎展於浜松松菱(-20)。(中日遠州版12/11)
- 12/17 歳末助けあい色紙展於浜松伊勢屋文具店(-19), 沼  
津マルサン書店(17-26)。(毎日遠州版12/19, 沼津  
朝日12/5, 15, 23, 沼津毎日12/12)
- 12/22 広本モリオ工芸染色展於浜松松菱(-27)。  
(浜松民報12/25)
- / 和田金剛《ねずみ張子》  
(沼津朝日11/27, 12/1, 5, 24, 27)





# 富士市立博物館から富士山かぐや姫ミュージアムへ

## ～リニューアルオープンの経緯と特徴～

富士山かぐや姫ミュージアム(富士市立博物館) 学芸員 井上卓哉

### はじめに

「富士山に帰るかぐや姫の物語を展示する世界でただひとつのミュージアム」

この言葉をキャッチフレーズに、平成28年4月29日、富士市立博物館は、富士山かぐや姫ミュージアムとしてリニューアルオープンの日を迎えた。今回のリニューアルは、本格的な事業の始動から約5年の月日を費やしたもので、施設の耐震補強工事とともに、当初の施設の用途変更、展示内容の刷新等を含む大きな事業であった。

本稿では、リニューアルオープンを迎えるまでの経緯と、富士山かぐや姫ミュージアムとして整備された当館の特徴を中心に取り上げるとともに、開館を経て見えてきた今後の展望や課題について述べていきたい。

### リニューアル事業に至るまで

富士山を背後に抱き、駿河湾に面した富士市には、富士山および愛鷹山の火山活動によって発達した山地や扇状地、富士川・潤井川などの沖積作用によって形成された平野、浮島ヶ原低地、海岸砂丘といった多様な自然環境が存在している。旧石器時代からこの地域で生活してきた多くの先人たちは、この自然に適応し、利用し、厳しく闘い、その歴史の中で、富士山を中心とする文化や、製紙業をはじめとする地域独特の産業が生み出されてきた。

当館は、これらの歴史・文化・産業にかかわる資料を収集し、調査・研究を踏まえた、展示・教育普及活動をおこなうことを目的に、昭和56年4月に開館した。

展示活動については、「富士に生きる～紙のまちの歴史と文化」を大テーマに掲げ、本館において富士地域の歴史や文化、基幹産業の一つである製紙に関する常設展示をおこなうとともに、調査研究活動の成果を反映した企画展等を展開してきた。また、当館の附属施設として、実習室や工芸室を整備し、手漉き和紙や陶芸、染色などの各種体験事業を実施し、多くの人々が地域の文化に触れ、楽しむことができる機会を提供している。

平成6年には、分館である歴史民俗資料館とその附属収蔵庫を新設したほか、開館以来、隣接する広見公園内には、樋代官長屋門および旧松永家住宅の移築・復原を契機として、屋外展示施設の拡充を図ってきた。平成20年に移築復原した旧稲垣家住宅(静岡県指定有形文化財)をもって、11棟(県指定1棟、市指定6棟、その他4棟)を数えている。これらの屋外展示施設がある区域は、広見公園ふるさと村歴史ゾーンとして、市民のみならず、市外の方々にも親しまれている。

しかしながら、開館して30年になろうとする中で、以下の課題を抱えているというような状況でもあった。

#### (1) 本館の耐震強度不足と施設・設備の老朽化

耐震診断の結果、博物館本館については耐震強度の不足が判明した。また、昭和55年に建設された本館は、耐震強度の不足だけでなく、空調や警備、防災など機器の老朽化が著しい状態であった。

#### (2) 本館の展示スペースの不足と古い展示手法

従来、常設展示については、第1展示室、第2展示室の2室、企画展示については、特別展示室にて展示活動を実施してきた。特に、特別展示室は、展示スペースの不足から、実物資料を十分に展示できず、さらに、特別展示室に入らない資料をロビーで展示するなど、良好な展示スペースの確保に苦慮してきた。

また、常設展示室については、過去に2回展示替えを実施しているものの、基本的には開館以来の展示構成を継続している状態であったため、展示手法も古く、複数回来館する利用者にとってはいつ来ても代わり映えしない展示のままであった。

#### (3) 教育普及事業に関わるスペースの不足

当館では、工芸室における陶芸体験や染色体験をはじめとして、「火起こし体験」や「勾玉作り」、「土器焼き」などの古代体験、「手漉き和紙体験」といった民具や農具を使った体験事業を展開してきた。しかしながら、施設が手狭なことから、体験事業をおこなうための十分なスペースが確保できず、一定人数以上の受け入れが困難であった。

また、講演会等のイベントについても、職員が利用する書籍が配架されている会議室において実施せざるを得ない状況であった。

#### (4) 入館者へのサービス機能不足

本館において、隣接する広見公園内のふるさと村歴史ゾーンや各施設を紹介するインフォメーションコーナーがなかったことに加え、本館と各施設をつなぐ導線が不十分であり、入館者に対するサービスや情報提供をおこなう機能が十分ではなかった。また、利用者が気軽に利用出来る図書コーナーやAV機器を利用したライブラリー機能も限られていた。

#### (5) 収蔵スペースの不足

当館では、考古・歴史・民俗等の資料約10万点を収蔵し、保管しているが、本館内の収蔵スペースは既に満杯であり、多くの資料をいくつかの施設に分散収蔵していた。特に、大型民具については、収蔵場所に苦慮している状態であった。また、資料が分散化することにより、管理にばらつきが見られ、利活用に時間と手間がかかってしまうなどの弊害が生まれていた。

こうした状況を踏まえて、平成16年度には「富士市立博物館新館構想」を策定したものの、事業は進展しなかった。また、平成19年には、館の内部にて新館を前提とした博物館の基本構想の検討を進めたものの、狙上には乗らず、翌年には「耐震補強工事の機会に増改築を実施し、手狭になっている展示スペース等の拡大、広見公園側の入口設置などを検討する」という方向性が示された。しかしながら、平成21年に示された本館耐震補強計画では、当初の想定より必要な耐震補強壁が減少したため、増築の必要性まではないことが判明することとなる。これを受けて、平成22年9月に、「外部に新収蔵庫を確保し、収蔵資料の再整理、資料の有効活用を含む本館のリニューアルを計画する」という方向性が示され、今回のリニューアル事業が動き出すこととなった。

#### リニューアル基本計画の策定

今回のリニューアル事業の端緒として、平成23年度にはリニューアル基本計画の策定作業を実施した。この計画策定にあたっては、博物館学の有識者や先進博物館の学芸員、市内の小中学校の教諭からなる「富士市立博物館展示リニューアル基本計画策定検討委員会」(会長は中村羊一郎氏(静岡産業大学))を組織し、指導・助言をいただいた。また、指名競争入札により、株式会社乃村工藝社へとコンサル

ティング業務を委託した。

その中で、以下の内容をリニューアルの基本計画の骨子として策定し、次年度以降の実施設計・詳細設計の準備を進めていった。

#### (1) 基本方針

従来、収蔵庫やバックヤードとして利用してきたスペースをできるだけ展示室として利用できるように整備をおこない、加えて、職員が利用してきたスペースについても、できるだけ来館者が自由に利用できるスペースへと変更することにより、来館者に「知的レクリエーションの場」を提供し、親しまれる博物館としていくことを基本的な考え方とする。

なお、このリニューアルに伴う用途変更に失われる現在の収蔵施設については、本館の外に求めることを基本的な考え方とする。

#### (2) 施設の整備

施設については、下記の項目を計画する。

- ・本館1階と2階の機能を見直し、来館者が利用しやすい施設に整備する。
- ・常設展示室を拡充し、新しいテーマ展示室を新設する。
- ・特別展示室の位置を見直し、展示スペースを拡大する。
- ・より開かれた施設として、2階出入口を新設し、隣接する広見公園との一体化を図る。
- ・来館者の知的要求を満たすため、ライブラリー機能を新設する。
- ・本館に総合的なインフォメーション機能を新設し、来館者に情報を発信する。
- ・多目的スペースを設け、体験学習、講座、会議等がおこなえる機能を拡充する。
- ・外部収蔵庫を整備し、資料を一括管理できる環境を整える。
- ・本館および隣接する広見公園ふるさと村歴史ゾーン、分館の歴史民俗資料館等の博物館施設について、それぞれの機能を整理し、これらの施設全体を博物館群と位置づけ、将来的な全体像をイメージ化する。

#### (3) 展示の整備

展示の整備については、下記の項目を計画する。

- ・富士市の歴史や文化を全国へ広く情報発信するため、知名度や注目度の高い竹取物語、富士山をテーマとした展示をおこなう。
- ・更新性のある展示テーマを設け、展示設備を追加できることを計画する。
- ・重要な文化財を安心して展示することができる災害に強い展示室と展示システムを整備する。

上記の基本計画の骨子をもとに、検討された本館施設の用途の変更を示したものが表1である。その結果、展示室数は3室から5室へと増加し、その面積は約1.7倍に増加することとなった。

【部屋の用途新旧対応表】

階	旧部屋名称	新部屋名称
1階	エントランス	コミュニティサロン ※1
	ホール	ライブラリー
	会議室	講座室
	調査研究室	学芸室
	工作室	工作室
	事務室	事務室およびインフォメーション・ショップ
	1階トイレ	1階トイレ
	和室	特別収蔵庫
	第2収蔵庫	演習倉庫
	北ピロティ	収納スペース
	2階	第1展示室
ロビー		ロビー
荷解室		2階エントランス
2階非常口		展示室2 - [紙] ※2
第2展示室		2階トイレ
2階トイレ		展示室3 - 富士山とかくや姫-
特別展示室		展示室4 テーマ展示-
特別収蔵庫		多目的室
播磨室		展示室5 - 特別展示室-
仮収蔵庫		
第1収蔵庫		

表1 新旧対応表

※1 後の設計業務の中で、ホール・ロビーに変更  
 ※2 後の設計業務の中で、富士山関連展示室に変更  
 この変更に伴い、紙関連の展示は分館の歴史民俗資料館2階へと集約すること。

### リニューアル実施設計・詳細設計

前述の基本計画の策定を受け、平成24年度、平成25年度には、より詳細な展示内容の検討および設計業務を実施した。この業務にあたっては、基本計画の策定の際に設置した「富士市立博物館展示リニューアル基本計画策定検討委員会」を発展させた形で、「富士市立博物館展示リニューアル検討委員会」を設け、引き続き外部の有識者からの指導助言をいただきながら業務を進めていった。また、設計業務については、指名競争入札によって株式会社乃村工藝社に委託をおこなった。(図1)

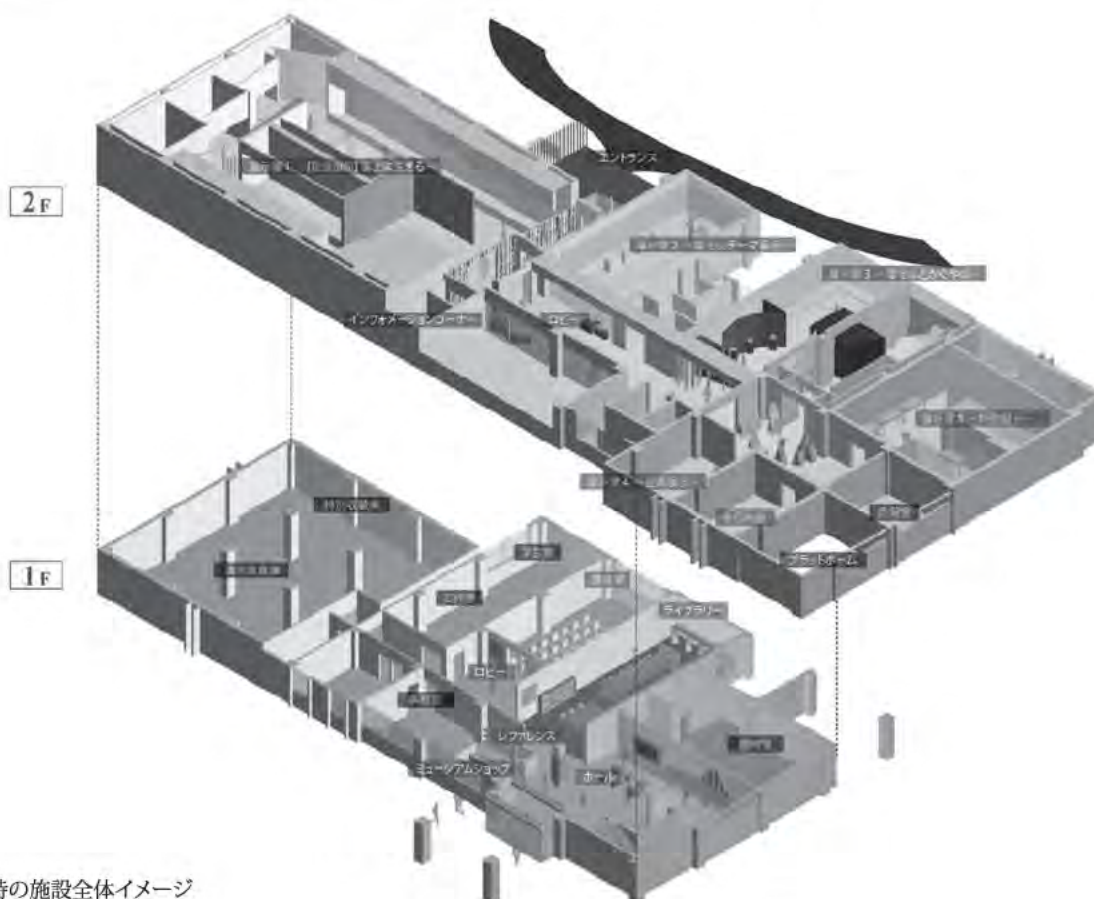


図1 設計時の施設全体イメージ

ここでは、設計業務の中でも、新設されることとなった展示コーナーであり、展示内容の詳細な検討がおこなわれた展示室3「富士山とかぐや姫」及び展示室1内の「富士川舟運と渡船」の部分について取り上げてみたい。

#### ◆展示室3「富士山とかぐや姫」

このコーナーは、従来、特別展示室と特別収蔵庫として用いられていた場所であり、リニューアルにあたって、「富士山とかぐや姫」と題する展示室へと変更が計画された。

##### ・展示のねらい

富士市に古くから伝わる「富士山に帰る」かぐや姫の物語を中心に、富士山とかぐや姫の関わりを紐解いていくとともに、富士市内に残るかぐや姫の物語にちなんだ地名など、地域との関わりも取り上げる展示とする。それとともに、竹取物語の関連資料を紹介し、富士市に伝わるかぐや姫の物語の独自性を広く紹介する展示とする。

また、富士山の祭神としてのかぐや姫とコノハナサクヤヒメの姿、富士山に対する信仰などについて取り上げ、信仰を介した富士山と地域との関わりについて紹介する展示とする。

##### ・展示の方法

かぐや姫の物語に入り込みながら、物語を概観できるような空間的な演出をおこなう。合わせて、館蔵資料が限られているパートについては、映像やレプリカ、写真等を用いて展示を構成し、実物資料を扱うにあたって、保存条件に配慮し、レプリカ等を併用する。

##### ・展示の構成

###### ①竹取物語へのいざない

展示室の導入部分となる展示として、ロビー壁面を使用して、一般的に知られている竹取物語のストーリーを奈良絵本や絵巻の画像から紹介する。

###### ②富士山のかぐや姫

「富士山大縁起」(館蔵)に記されたかぐや姫の物語を紹介する、この展示室のメインコーナー。来館者は竹取翁の視点でストーリーを追体験していくような展示構成とし、富士山の麓に伝わるかぐや姫の物語を際立たせる。

###### ③富士山の女神

かぐや姫は富士山に祀られる神の一つの形であり、ここでは、女神という点に着目し、様々な図像に表現された富士山の祭神を紹介する。

###### ④神仏と交わる場としての富士山

富士山の祭神としての浅間大神は、神仏集合の中で、時と

して大日如来に代表されるような仏の姿として現れ、信仰の対象となってきた。いわば、富士山中は神と仏と交わる場であり、それを実践してきた集団の一つが、村山の修験者たちであった。ここでは、当館に寄託されている村山修験の資料などから、富士山南麓の富士山に対する信仰の姿を明らかにする。あわせて、南麓に現在でも伝わる富士山に対する信仰に関わる行事である岩淵鳥居講についても取り上げる。

#### ◆展示室1内「富士川舟運と渡船」

このコーナーは従来、富士山信仰に関係する展示をおこなっていた場所であるが、その大部分が前述の展示室3に移動するにあたり、新たに富士川舟運と渡船について紹介するコーナーとして計画されたものである。

##### ・展示のねらい

平成20年に富士市と合併した旧富士川町は、間宿岩淵として、富士川の渡船と舟運によって発展してきた。そこで、かつての岩淵の河岸場の様子や、荷役の様子を通じて、渡船・舟運の成立から終焉までを伝える展示とする。

##### ・展示の方法

岩淵の河岸場の立体模型を軸として、古写真等を利用して河岸場の様子を伝えるとともに、渡船や舟運で使用した船の模型を使用し、立体感をもたせ、来館者に往時のイメージを知ってもらう。

##### ・展示の構成

###### ①富士川を渡る

ゾーンの導入となる展示コーナーとして位置付け、古代から中世の渡河の様子や、近世において臨時に設置された「船橋」の存在について提示、ゾーンテーマへのイメージを喚起する。

###### ②渡船場／河岸場としての岩淵

渡船場であり、河岸場でもあった岩淵の様子をジオラマで再現。富士川渡船と富士川舟運への理解を深めるための展示体験を提供する。(設計を進める中で、ジオラマから映像へと変更がおこなわれた。)

###### ③富士川舟運

角倉了以が開いた「富士川舟運」の歴史を概観する。舟運風景のジオラマ再現を展示展開の核と位置づけ、絵画資料の提示や説明を加えることでジオラマ情報を補完する。また、舟運の果たした流通について、米や塩の運送を強調して紹介する。

###### ④富士川渡船

富士川渡船が東海道の主要交通路として確立した近世に焦点を絞り、ジオラマ再現による渡船の風景を展示資料の核とする。また、関連文書や絵図資料を中心とする実物資料や、必要に応じて複製を制作する。

#### ⑤渡船・舟運の終焉

富士川渡船・舟運の終焉を促した富士川橋と身延線の開通に焦点を絞りつつ、渡船・船橋の終焉と近代交通の登場を古写真、映像等により紹介、コーナーのエピローグとする。

なお、この設計業務について株式会社乃村工藝社に委託した部分は、展示室1内の一部(富士川舟運と渡船コーナー)、展示室3(富士山とかぐや姫)、展示室5(特別展示室)、展示室4(テーマ展示)、2階ロビー、2階インフォメーションコーナー、1階ロビー、1階ライブラリー、1階ホール(ミュージアムショップ含む)等であり、それ以外の展示部分については、館の内部にて設計業務を進めていった。

また、この設計業務と合わせて、平成25年には、外部収蔵庫の実施設計業務、新設される本館2階エントランスへの接続を主要な目的とした、広見公園内のバリアフリー化された新園路整備にともなう実施設計業務が行われた。

### 耐震補強工事と展示物等制作設置業務

#### (1)平成26年度

本リニューアル事業は、本館施設の耐震補強工事を前提としたものであることから、平成27年度中に補強工事が終了することを目指して、平成26年度に補強工事の実施設計業務がおこなわれた。

並行して、展示に関しては、平成26年度および平成27年度の2カ年で展示物の制作並びに設置業務を進めていった。引き続き、この業務に関しても、「富士市立博物館展示リニューアル検討委員会」からの指導助言をいただいた。またこの業務についても、指名競争入札により、株式会社乃村工藝社に委託をおこなった。

なお、平成26年度は、設計段階から実際の施工に進む過程の中で、耐震補強工事の設計業務と調整をしながら、展示資料や展示手法の詳細な検討を実施し、修正を繰り返しながら施工に向けた準備が進められた。

同時に、従来よりも約2倍の面積を有し、温度湿度のコントロールが可能な特別収蔵庫の整備に関しては、施設や本館の周辺環境の状況を提示した上で、収蔵庫の整備を専門とするメーカーに効果的な手法の提案を依頼し、整備方針を決定した。

また、前年に設計業務を実施した外部収蔵庫の整備並びに広見公園内の園路整備については、年度内に完成をみた。

#### (2)平成27年度

これまでのリニューアル業務については、通常の業務を実施しながらおこなわれてきたが、耐震補強工事と展示物の制作・設置業務のために、平成27年5月をもって、本館は休館期間に入ることとなった。休館期間に入ると、まず、本館の事務機能の移転と、館内で収蔵している資料の移動を実施した。

その後、平成27年7月から12月にかけて、耐震補強工事が実施された。その間、展示に関しては、耐震補強工事の施工と調整しながら、工場での展示備品の製作を先行しつつ、各種映像機器のコンテンツ制作や壁面グラフィックの文章執筆等を進めていった(写真1・2)。

耐震補強工事の終了後、引き続き展示物等の設置業務(写真3)や特別収蔵庫の整備、事務機能の復旧等を経て、平成28年4月29日にリニューアルオープンを迎えたのである。



写真1 耐震補強工事



写真2 映像コンテンツの確認作業



写真3 整備中の展示室内

なお、休館期間中には、「富士かぐやモバイルミュージアム」と題して、富士川楽座、富士市立中央図書館、新富士駅、富士市文化会館(ロゼシアター)、富士市教育プラザ等で、新しい展示の一部を紹介する無料の出張展示を実施した。この際に、展示の見学者から、館の愛称を募集し、数点の候補に対する見学者による投票をおこない、「富士山かぐや姫ミュージアム」という名称を新しい館の愛称とすることと決定した(写真4)。



写真4 富士かぐやモバイルミュージアム(富士川楽座)

また、富士市立中央図書館での出張展示中である平成27年11月3日には、展示物の制作設置業務を委託した株式会社乃村工藝社にも協力していただき、ワークショップ「日常の中の富士山～市民と一緒に展示づくり」を実施した。これは、事前に募集した富士山と人物が写った写真を素材に、撮影者の思い出の聞き取り調査や展示キャプションを作るといった、学芸員の仕事を参加者に体験してもらうというものであった。ここでの成果物は、リニューアル後の館内にて実際に展示がおこなわれており、リニューアルを機に、これまでの館にはなかった、新しい市民参加型の展示の一つとなった(写真5)。



写真5 ワークショップ

さらに、平成27年11月14日には、「富士山とかぐや姫～そのつながりを探る」と題して、第一線の研究者を招いて、リニューアル記念プレシンポジウムを開催した。

ここで取り上げたような新しい展示に関する普及活動だけでなく、新しい館の運営についての検討も進めていった。その中でも最も大きな変更点は、より多くの人々にとって利用しやすい施設とするために、それまで有料であった観覧料を無料とするものであった。この点については、市内部での検討を進め、平成27年9月議会において、富士市立博物館条例・規則が改正され、リニューアルオープンと共に施行されることとなった(特別展観覧料は別に設定)。

## 施設の概要

ここまで述べてきたような経緯のもとで、富士市立博物館は「富士山かくや姫ミュージアム」としてリニューアルオープンの日を迎えた。以下では、新たに設けられた諸室を中心に、施設の概要について取り上げたい(図2)。

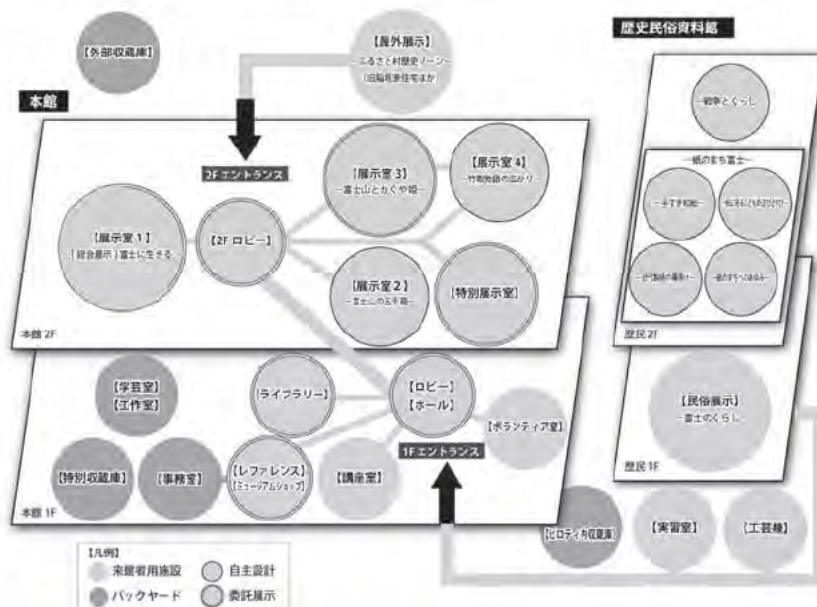


図2 各施設と展示内容

### 1階

#### ・レファレンス、ミュージアムショップ、ホール、ボランティア室

従来の事務所のスペースを縮小し、事務所と接続する形で、レファレンスとミュージアムショップを設けた。ミュージアムショップでは、従来取り扱っていた企画展の展示解説図録や報告書に加えて、館のオリジナルグッズ(ペーパークラフト、ビニール傘)のほか、富士市の観光に関する団体である富士山観光交流ビューローが取り扱っている富士山グッズ、市内の障害者就労支援施設等で製作されている富士山グッズを販売している(写真6)。

ホール壁面には、企画展や体験事業などのイベント情報、富士山のライブカメラなどを表示するデジタルサイネージ、体験事業の作品や、当館の利用団体の作品を紹介する可動棚を設置し、来館者に様々な情報を提供している(写真7)。

また、ホールに接続する場所に当館で活動する「富士博ボランティア」の方々が利用するボランティア室を新たに設けている。



写真6 レファレンスとミュージアムショップ



写真7 ホール

・ライブラリー

従来、会議室として利用していた場所を、ライブラリーとして整備した。このライブラリーでは、地域や展示に関する書籍や、他館との交流の中で集めた図録類を配架し、自由に閲覧できるスペースや、館蔵資料の一部やこれまで収集してきた映像を検索、視聴できるブースを設けている(写真8)。



写真8 ライブラリー

・講座室

従来、学芸員の調査研究室として利用していた場所を、講演会や体験事業、会議等で使用するための講座室として整備した(写真9)。



写真9 講座室

・特別収蔵庫

リニューアル前は民俗資料の収蔵庫であった場所の一部を、温度湿度をコントロールすることができる特別収蔵庫として整備した。面積は、従来の特別収蔵庫の約2倍となっている。前述したように、収蔵庫の整備を専門とするメーカーの技術提案をもとに整備された収蔵庫であり、温度についてはエアコン、湿度については除湿機と調湿機能を持つ建材をもとにコントロールができる設備となっている。

2階

・展示室1「富士に生きる」

従来の展示室と同様に、先史時代から近世にかけての富士地域の通史を中心に紹介する常設展示室。前述の「富士川舟運と渡船」のコーナーを新設したほか、それ以外の展示内容についても館の内部で見直しをおこない、新たに「富士の災害」などのテーマを設けている(写真10・11および図3)。

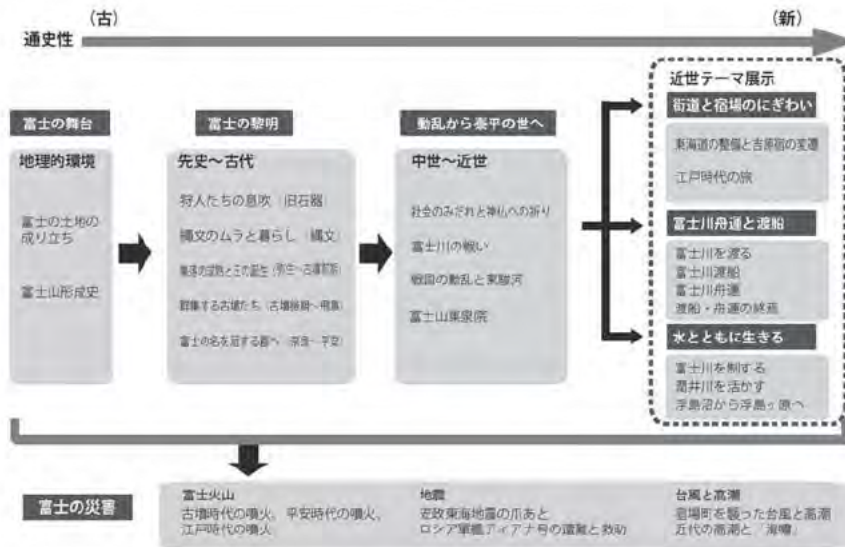


写真10 展示室1



写真11 展示室1





本館 2F【展示室1】—富士に生きる— 展示構成

図3 展示室1—富士に生きる—概念図

・ 展示室2「富士山の玉手箱」

開館以来、当館でこれまで収集してきた富士山関連資料について紹介する展示室。この展示室については、更新性の高い展示設備を導入しており、リニューアルオープン以降、約3ヶ月に一度展示替えを実施している(写真12)。

なお、従来の近代製紙に関する展示については、分館である歴史民俗資料館の2階へと移動し、手漉き和紙関連の展示と一体化を図り、手漉き和紙から紙のまちへと至る歴史を紹介している。



写真12 展示室2

・ 展示室3「富士山とかぐや姫」

リニューアルの目玉の一つであり、「富士山とかぐや姫」について紹介する常設展示室。影絵や映像を用いて富士山へと帰るかぐや姫の物語を体感してもらうことを目的とした展示のほか、富士山へと帰るかぐや姫のストーリーやゆかり

の場所を実物資料や画像で紹介している。合わせて、富士山に対する信仰の姿を絵図や実物資料、映像などで紹介している(写真13・14)。



写真13 展示室3



写真14 展示室3

・ 展示室4「世界遺産富士山と竹取物語の広がり」

平成25年に富士山は世界文化遺産として登録されたものの、そのことを紹介する常設の展示が県内にはないため、静岡県の世界遺産センター整備課と協力し、世界遺産としての富士山を紹介するコーナーとして整備した。合わせて、竹取物語の広がりとして、富士市だけではなく、全国各地の竹取物語ゆかりの地を紹介するコーナーも設けている(写真15)。

なお、平成29年度に予定されている(仮称)静岡県富士山世界遺産センターの完成に合わせて、展示内容を見直す予定である。



写真15 展示室4

・ 展示室5「特別展示室」

特定のテーマに基づいて構成される企画展等を開催する展示室。従来の特別展示室の約2倍の面積となっている。リニューアルに合わせて、エアタイトのウォールケース、ローケースを導入(写真16)。

リニューアルオープン以来、4回の展示を実施している(平成29年1月末時点)。

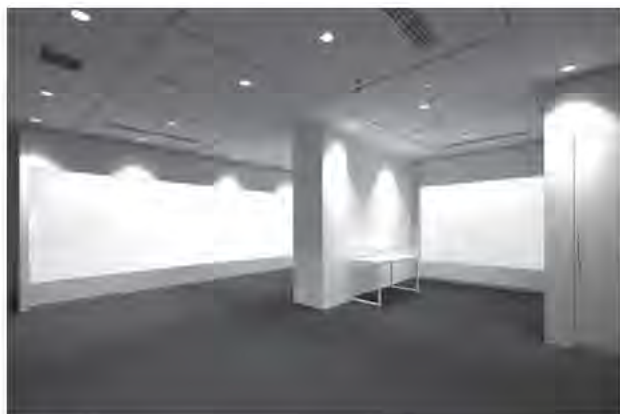


写真16 展示室5

・ 多目的室

展示室5における企画展に関連する展示等、多目的な用途に用いることが可能な部屋として整備。これまでに、答礼人形富士山三保子に関する展示や、かぐや姫の和紙人形、富士出身の画家・野田好子の作品等を展示している。

・ 2階エントランス

従来、非常口として用いられていた場所の周辺を、隣接する広見公園側のエントランスとして整備。また、2階からの入館・退館に対応するため、エントランス内側にもインフォメーションを設置している。このインフォメーションについては、地域の郷土史研究グループである「駿河郷土史研究会」へ、受付や簡単な案内、館内の巡視などの業務を委託している。

なお、平成28年11月には2階エントランス外側に、市内岩淵の集落の人々により組織される岩淵鳥居講により平成16年に富士山頂へと奉納され、平成28年の新たな鳥居の奉納に伴い麓へと下された鳥居を、屋外展示物の一つとして移築した。この鳥居は、世界文化遺産である富士山の重要な要素である信仰に関わる貴重な文化財であるとともに、館内で紹介している岩淵鳥居講に関する展示へと誘うための機能も有している(写真17)。



写真17 平成16年に富士山頂に奉納された鳥居と2階エントランス

## おわりに～課題と展望

これまで述べてきたように、富士市立博物館は、約5年をかけて富士山かぐや姫ミュージアムとして、展示はもとより、観覧料の在り方や運営方法を含めて大きくリニューアルした。現在のところ、来館者からは概ね好評をいただいている。また、県外から観光バスで富士山周辺に來訪する観光客のコースの中にも取り入れられたことから、当初の年間の来館者数の目標値（従来の来館者数の3倍）は、約半年でクリアし、順調にその数は伸びている。

ただし、大型バスの駐車スペースが限られているということや、駅から公共交通機関を用いて來館するには不便であるという問題も抱えており、より來館しやすい状況を整えていくことが今後の課題の一つであるといえよう。

合わせて、平成29年度にオープンが予定されている（仮称）静岡県富士山世界遺産センターとの連携を通じて、富士山に対する学習の場の一つとして利用できるための仕掛けづくりも重要であるといえる。

また、本館の展示内容が一新されたといえども、それを維持するだけではなく、ある程度のサイクルで展示内容の見直しを進めていく必要がある。そのためには、地道な調査研究の継続が必要不可欠だということは言うまでもない。さらに、分館である歴史民俗資料館については、2階の展示内容は新しくなったものの、1階の民俗分野の展示については、開館した平成6年に設けられた内容のままとなっている。現代において伝えるべき民俗とは何なのかということを検討しながら、展示内容の更新も計画していく必要がある。

それとともに、リニューアルの基本計画で掲げた本館・分館・屋外展示施設・付属施設を含めた博物館群としてのイメージを具体化し、より魅力ある施設として活動していくことがこれからの重要な使命である。

最後に、今回のリニューアルにあたっては、準備段階から県内外の博物館施設や検討委員会の委員を始めとする関係各位、地域の皆様から多大なるご協力やご支援をいただいた。この場を借りて、感謝の意を表するとともに、引き続きご指導、ご協力いただき、ぜひとも率直なご意見をたまわることができればと願っている。



## 平成28年度 静岡県博物館協会地域セミナー事例報告

### スペシャルミュージアムサロン「クラヴィコードって何?」

### ～ピアノでもチェンバロでもない、耳を澄まして聴く、素敵な鍵盤楽器～

浜松市楽器博物館 館長 嶋 和彦

日 時 平成28年8月6日(土)13:30～16:00

会 場 浜松市楽器博物館展示室

出 演 ミュージアムサロン

宮本とも子(フェリス女学院大学教授)

嶋和彦(浜松市楽器博物館館長)

古典鍵盤楽器ガイド

岩淵恵美子(チェンバロ奏者)

佐藤裕一(鍵盤楽器製作家)

参加者 のべ約500人



#### はじめに

浜松市楽器博物館は、平成7年4月にオープンした日本初の公立楽器博物館である。欧米には国立や公立、私立の立派な楽器博物館があり、アジアなどその他の地域にも国立博物館等に楽器を展示している例があるが、欧米では西洋楽器と非西洋楽器を同等に扱っていないことが多く、その他の地域では自国の楽器を誇り高く紹介するのみに留まっていることが多い。浜松市楽器博物館は、後発の楽器博物館として、そのどちらにも倣わず、すべての地域や民族の楽器に対して等距離に対応する姿勢を取っている。何億円もするパイプオルガンやヴァイオリンも、何千万円もするピアノも、また、たった何百円で手に入る竹の笛も、楽器という文化としては同じ価値を持つという考えのもと、「世界の楽器と音楽を偏りなく平等に扱う」というコンセプトを貫いてきた。展覧会やレクチャーコンサート、講座やワークショップなど、その活動はすべてこの原則に則っている。もちろん楽器の調達や演奏者の有無などから、すべての楽器や音楽を同じ回数、同じ時間で紹介する、ということは不可能であり、ヨーロッパの楽器や音楽のコンサートが多くなるのはやむを得ないが、西洋楽器を優位に置いているわけでは決してないのである。

西洋楽器についても、現代我々が簡単に触れられる楽器、つまり、ピアノやヴァイオリンやフルート、トランペットなどは、楽器店に行けばすぐに見られるし、コンサートも毎日のようにどこかで開催され音楽を楽しむことができる。しかしながら、西洋楽器にも長い歴史があり、その歴史の最新地点が今であり、今の楽器であるということで、例えばピアノは、ある日突然、黒い大きなグランドピアノが登場したのではない。ピアノが生まれたのはほんの300年ほど前のことであり、ベートーヴェンやシューベルト、ショパンなど、大作曲家、演奏家が当時使っていたピアノは、大きさも音量も今のピアノに比べればはるかに小さいもので、音色や響きも今のピアノとは全く違う。このことを人々はあまり意識しないで、今のピアノの演奏による200年前の曲の演奏の良し悪しを話題にするのだが、それはある意味では的はずれであろう。音を出す楽器が違うのだから、演奏において色々

と表現の仕方が変わってくることは想像できよう。例えば、高速走行安定性抜群のスポーツカーと一般向けの軽自動車を考えればいい。軽自動車でレーシングコースを時速200キロで走ればひっくりかえってしまうしエンジンも壊れるかもしれない。しかしスポーツカーは平気である。昔のピアノは軽自動車、今のグランドピアノはスポーツカーであると言えばお分かりいただけると思う。

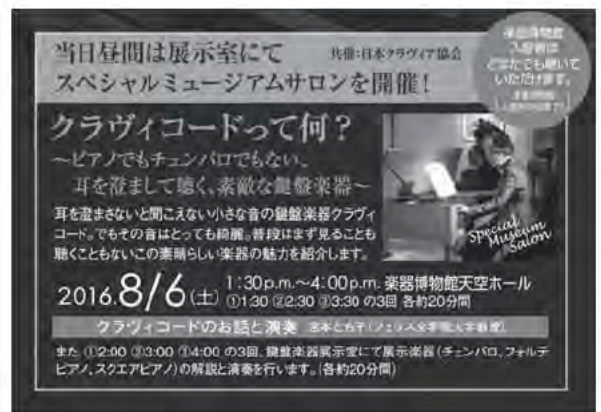
さて、今、鍵盤楽器の代表は?と尋ねた場合、ほとんどの人がピアノと答えるであろう。あるいは、パイプオルガン、と答えるかもしれない。パイプオルガンは紀元前からの歴史を持っているが、ピアノはたかだか300年の歴史しかない。ではパイプオルガンとピアノ出現との間に存在した鍵盤楽器は?となると、おそらくチェンバロ(チェンバロは伊語、英語でハープシコード、仏語でクラヴサン)と答える方が大半だろう。バッハやヘンデル、ヴィヴァルディが活躍したバロック時代の花形鍵盤楽器である。バロック音楽を含めた古楽愛好家にとっては憧れの鍵盤楽器でもある。同時代に、チェンバロと同じく弦をはじいて発音する鍵盤楽器にスピネットやヴァージナルがある。

オルガン、チェンバロ、スピネット、ヴァージナル、がピアノ出現以前の鍵盤楽器であることは事実だが、もうひとつ、非常に重要な鍵盤楽器がある。それがクラヴィコードなのだ。クラヴィアというドイツ語がある。よく勘違いされるが、クラヴィコードとクラヴィアは違う。クラヴィアは広義には鍵盤楽器全般を、狭義にはピアノを指す。よって、クラヴィコードはクラヴィアの中のひとつであるが、オルガンともチェンバロとも、スピネットともヴァージナルとも、ピアノとも違う全く別の楽器である。実物も演奏者も数少ないので、一般人が見たり聞いたりする機会はなかなかない。しかし、一度この楽器を聴いたり、演奏したことがある人は、その魅力の虜になってしまうほどの楽器である。

浜松市楽器博物館は、このクラヴィコードの名器1台(1788年ストックホルムP.リンドホルム製作)を所蔵しており、過去にコンサートを数回開催し、CDを1枚作った。今回、静岡県博物館協会の助成金を得て、開館時間内に入館者対象のミニ講座とコンサートを開催した。名付けてスペシャルミュージアムサロン「クラヴィコードって何?~ピアノでもチェンバロでもない、耳を澄まして聴く、素敵な鍵盤楽器」。本稿ではこの催しについて報告をする。なお、今回は、日本クラヴィア協会との共催部分も含まれている。(写真1)



写真1 イヴニングサロンコンサートのチラシでスペシャルミュージアムサロンをPR



スペシャルミュージアムサロン部分

### ミュージアムサロンとは

浜松市楽器博物館は、現在3,300点余の楽器を所蔵し、そのうち1,300点余を常時展示している。展示されている楽器は古いものであったり、希少なものであったりするの、見学者が自由に触れることはできない。しかし、楽器である以上、どんな音がするのか、どんな風に演奏するのかを知りたいというのが、人が持つ自然の欲求である。それに応えるために、ヘッドフォンや小型モニタ、液晶テレビ、個別ガイダンス端末、体験ルームなどを用意したり、所蔵楽器を演奏したCDも数多く制作販売している。しかし、やはり、生の演奏を聴くのが、その楽器を理解する最も良い方法であることは疑いがない。そこで、当館では、レクチャーコンサートやイブニングサロンコンサートを年に10数回開催しているのだが、それは閉館後の展示室か、あるいは開館中なら別会場で、入場料を取って希望者だけに開催しているものである。しかしそれではもともと興味のある人しか集まらない。ある楽器をまだ知らないがゆえに興味がない人も居るだろう。だから知らない人にこそ知ってもらい、それもなかば無理やりに知ってもらい、ということも博物館の大きな目的である。

その目的を遂行するために、不定期ではあるが、日曜日の開館時間中に、20～30分程度のミニコンサートを展示室で開催している。演奏と解説は、当館職員やゲストが担当する。博物館入館者は誰でも聴くことができるし、つまらないと思ったらその場を離ればいい。いわば、館内のストリートミュージシャン、大道芸人といったところだろう。このミュージアムサロンは、いつもよりは大規模で中身も濃いために、スペシャルミュージアムサロンとしたのである。

### クラヴィコードとは？

クラヴィコードとは14世紀頃に生まれ16～18世紀に広く使用された鍵盤楽器である。同時代にはもちろんオルガン(この言葉はヨーロッパではパイプオルガンを指す)やチェンバロ、スピネット、ヴァージナルという鍵盤楽器があった。オルガンは空気でパイプ=笛を鳴らす、チェンバロ、スピネット、ヴァージナルは、金属製の弦を、ピンセットの先のような小さなツメで下から上にはじいて鳴らす。ではクラヴィコードは？

その発音構造は独特である。キーを押下げると、キーの反対側が上がる。そこに付いているタンジェントと呼ぶマイナスドライバーの先端のような金属の部品が、弦を下から上に突き上げる。すると音が出るのである。そしてさらに驚くような工夫がある。弦は一方が布で防振されているので、普段は振動し

ないが、タンジェントで突き上げられている間は、タンジェントから防振布の無い方の弦が振動して、音が出るのだ。タンジェントは、弦を打ち鳴らすと同時に弦を支える駒の役割を担っている。従って、タンジェントが弦を押し上げている時にしか弦は振動しない。タンジェントが弦を離れると、防振布が機能して弦の振動が止まり音が止まる。(写真2)(写真3)



写真2 クラヴィコード



写真3 弦を突き上げているタンジェント

ということつまり、指でキーを押し下げている時にしか音は出ない。これはオルガンと同じである。そうなのだ。鍵盤楽器で最古の歴史と高いステイタスを持つオルガンとクラヴィコードは密接な関係があるのだ。オルガン奏者は、いつも大きなパイプオルガンで練習ができるとは限らない。だからこのクラヴィコードで、小さな部屋や私邸で練習をしたのである。

しかし、それは単なる練習にとどまるものではなかった。クラヴィコードの音はオルガンの大音響に比するものではない。

本当に小さな音である。極小の音響と言っていい。周囲が静かでない演奏者にも聞こえないほどの音量である。どのくらいの静けさが必要なのか。今回演奏してくれた宮本とも子さんは、かつてこのように言われた。「寒いドイツの夜に、氷を入れたカップに熱い紅茶を注ぐ時、氷がピシピシッと割れる。その音が聞こえるくらいの静けさ」。それほど静かな環境は、現代社会、特に都会では実現が難しい。自宅でも会社でも、空調の音、パソコンの音、コピー機の音がずっと聞こえている、そんな環境の中で人間の耳は麻痺してきていることは事実であろう。音楽も大音量を好む。しばらくすると慣れるから、もっと大きな音を電気の力を借りて鳴らす。ますますの悪循環になってしまう。大音量ばかりに接していると、物理的にも精神的にも、音に対する感性が鈍化していく。

一方、小さな音、それは人の耳を研ぎ澄ます。静かな環境で耳を澄ませば、川のせせらぎ、木の葉のささやきが聞こえる。カエルが水に飛び込む音も聞こえよう。人も愛を告白したり、大切なことを言う時は、小さな声になる。小さな音は人間の心と神経を鋭敏にする。繊細とか緻密という表現は、大音量では不可能である。加えて、小さな音の楽器は、人に聞かすものではない。自分の精神と向き合うためのものである。アジアにも七絃琴(しちげんきん)や一絃琴(いちげんきん)、二絃琴(にげんきん)という楽器があるが、これもまた自己修養の楽器である。

クラヴィコードの小さな音。その限られた音響のダイナミズムの中に、多くの音楽家たちは、単にオルガン曲を弾く練習をするというのではなく、自己の精神の修養をしたのだらう。オルガンは基督教のシンボルでもあるから、それは当然のことなのだらう。そして演奏者はおそらく神、天、宇宙からのメッセージを得たのではないだらうか。そして教会の巨大なオルガンで、人々に音楽を、神の世界を提示する。

静かな、しかし表情豊かな音に向き合うことは、現代社会ではめったになくなってしまった。これは由々しき問題である。クラヴィコードの演奏は大ホールではできない。小さな空間で、演奏者と聴衆が耳を澄ます。小さな音の中にこそ、大きな宇宙があるのだ。

#### スペシャルミュージアムサロンのプログラム

さて、本来はそのような、小さくて静かな空間で聴くべきクラヴィコードなのだが、博物館の展示室となるとそうはいかない。したがって、クラヴィコードの本当の魅力を味わうことは実はできないのだが、だからと言って人に紹介しないと変化する変化は起こらない。とにかくほとんどの人が知らない楽器だから、

知ってもらうためには紹介して演奏するしかないのだ。

クラヴィコードの解説と演奏は、8月6日(土)の午後1時30分、2時30分、3時30分の3回、各20分間ずつ、地下展示室の天空ホールのステージで行った。3回とも同じ内容である。プログラムは以下の手順で進められた。

#### 1. 楽器博物館館長嶋和彦による解説(約7分)

① 弦を鳴らす方法は3通りある。第1は、はじく。第2は、こする、第3は、たたく(打つ)。そしてもうひとつ、広い意味でのたたく、打つだが、突き上げる、押し上げる。それが楽器になると、はじくのは、ギター、マンドリン、三味線、琴、チェンバロなど。こするのは、ヴァイオリン、チェロ、ハーディ・ガーディ、胡弓、馬頭琴など。たたくのは、チター、サントウール、ツインバロン、ヤンチン、ピアノなど。突き上げるのは、クラヴィコード。

② 鍵盤楽器に限定して、弦をはじく、たたく、突き上げるを、模型を使って解説。この模型は、実際のピアノやチェンバロの内部の模型では細かくてわかりにくいので、楽器博物館で製作した、最も単純で、はじく、うつ、突き上げる、がわかる模型を使用。(写真4)



写真4 模型で弦の鳴らし方を説明



## 2. 演奏者宮本とも子による演奏と解説(約13分)

① チェンバロの演奏で、弦をはじく楽器の音色、音量、響きを実感してもらう。現代のピアノに比べて、いかに音が小さくて繊細かを実感してもらう。

② 同じ曲をクラヴィコードで演奏し、チェンバロよりもさらに小さな音であることを実感してもらう。使用楽器は、楽器博物館所蔵の1788年、ストックホルムで、名工リンドホルムによって製作されたもので、クラヴィコードとしては大型の名器。

③ クラヴィコードを愛した大作曲家カール・フィリップ・エマヌエル・バッハの「クラヴィコードに別れを告げるロンド」、ヨーゼフ・ハイドンの「ソナタ ハ長調 Hob. XVI:48」他を演奏。(写真5)



写真5 宮本とも子の演奏

## ④ 本日使用したクラヴィコードの紹介

以上3回の聴衆はおよそ250人弱であった。

### 古典鍵盤楽器ガイド

以上のクラヴィコード解説演奏の合間の時間である2時、3時、4時の3回、20分間づつ、楽器博物館鍵盤楽器ルームに展示中の古典鍵盤楽器の中から8台を選び、各回2~3台、岩淵恵美子さんのデモンストレーション演奏と佐藤裕一さんの楽器解説を行った。紹介した楽器は次の通り。

① 現存最古のピアノである、パルトロメオ・クリストフォーリが1720年に製作したピアノ(オリジナルはメトロポリタン博物館所蔵)を1995年に浜松の河合楽器製作所が製作した復元品。

② ロンドンのA&J.カークマンが1791年に製作したチェンバロ

③ ロンドンのS.キーンが18世紀初期に製作したスピネット

④ ロンドンのT.ラウドが1805年に製作したスクエア・ピアノ

⑤ ウィーンのA.ワルター&サンが1810年頃に製作したウィーン式アクションのピアノ

⑥ ウィーンのC.グラフが1819~20年頃に製作したと伝えられるウィーン式アクションのピアノ

⑦ ロンドンのJ.ブロードウッドが1802年に製作したイギリス式アクションのピアノ

⑧ バリのI.プレイエルが1830年に製作したイギリス式アクションのピアノ

以上3回の古典鍵盤楽器ガイドの参加者は、およそ250人であった。(写真6)



写真6 古典鍵盤楽器ガイド風景

なお、このスペシャルミュージアムサロンとは別イベントであるが、同日の夜6時30分より、博物館の企画として「名器リンドホルム・クラヴィコードの魅惑」と題して、宮本とも子演奏による有料のイヴニングサロンコンサートを同じ会場の天空ホールで開催した。聴衆は89人で、昼間とは違って大変静かな環境の中、クラヴィコードの極小の音響を楽しんでいた。(写真7)



写真7 イヴニングサロンコンサート

## おわりに

今回、静岡県博物館協会地域セミナーの補助金をいたがいて、このイベントを開催できたことに、改めて感謝を申しあげたい。音楽は演奏者や演奏される楽器も重要だが、演奏される場、環境というのも大切な要素である。その楽器が一番よく響く、あるいは輝く場で演奏しないと、その楽器の魅力は半減どころか、欠点ばかりが目立ってしまって、逆効果になる。しかし、本論でも述べたように、何もしないでいると、人に知られることのない楽器になってしまう。浜松市楽器博物館は、その点を留意しつつ、楽器というものの墓場にはならない、楽器の魅力が発信できるような、生きている博物館をこれからも目指して活動していきたい。

## 《参考》

浜松市楽器博物館イヴニングサロンコンサート

日本クラヴィア協会公開レクチャーコンサート

名器リンドホルム・クラヴィコードの魅惑～静寂の音響に潜む作曲家たちのインスピレーションを感じてみる～

2016. 8. 6(土) 18:30 楽器博物館天空ホール

自由席：一般 2000円 学生 1000円(24歳以下の学生)

演奏：宮本とも子

プログラム：

ディートリッヒ・ブクステフーデ

トッカータ BuxWV 164

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

《クラヴィアユーブング 第三部》より

カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ

ソナタ ハ長調 Wq65/41・H178

クラヴィコードに別れを告げるロンド

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン

ソナタ ハ長調 Hob. XVI: 48

ほか

浜松市楽器博物館が所蔵する「リンドホルム・クラヴィコード」は北欧ストックホルムで1788年に製作された名器です。現在、私たちの日常生活は様々な音に溢れています。そして、私たちの耳はしばしば、本能的に、音を遮断する方向に機能しなければならぬ状況に置かれています。その結果、積極的に、集中して音を聞く体験に疎くなっているのではないのでしょうか。そのような中で、クラヴィコードは、私達に備わっている「聴く力」を

驚くほどに呼び起こしてくれる楽器です。音楽作品は作曲家たちへのインスピレーションの賜物ですが、クラヴィコードではそのインスピレーションの息吹を体験できるような感触を得ます。今回は、クラヴィコードを手元楽器として愛した、皆様方にも馴染みある作曲家たちの作品を中心に、演奏させて頂きま。静かな音量のクラヴィコードに秘められたダイナミックな世界を、ご一緒に体験していただければ幸いです。(宮本とも子)

宮本とも子 プロフィール

米国で過ごした高校時代よりオルガンを専門的に学び、ジュリアード音楽院プレカレッジ、聖心女子大学を経て、ボストンのニューイングランド音楽院と同大学院のオルガン科を優等で卒業。後にオランダ政府給費生としてスウェーリンク・アムステルダム音楽院に学びオルガンのソリスト・ディプロマを得る。オルガンをA. パーニー、林佑子、H. フォーゲル、L. F. タリアヴィーニ、故K. ボルト氏に学ぶ。1980年以来、米国ミシガン州在住楽器作家キース・ヒルとのコラボレーションで日本にもクラヴィコードを広く紹介している。1995年イタリア・マニアーノで行われた第2回国際クラヴィコード・シンポジウムでの演奏は「世界中から集まったクラヴィコードの専門家たちの演奏は聴衆の心をとらえたが、その中でも特に、演奏全般における完璧さにおいて、宮本の聞こえないほどまでに小さな音にこめられた温かい響き、フォルテッシモの音量と音色の豊かさなど、極限までの繊細さは特に印象深かった」と地元紙に評される。近年、米国ワシントン大学、ワシントン州タコマAGO主催マスタークラス、北ドイツオルガン・アカデミーなどでクラヴィコードの指導を行い、クラヴィコードからオルガニスト、チェンバリスト、ピアニスト達へ「新しい気づき」を促すことに力を入れている。2013年9月には国際クラヴィコード・シンポジウムに参加し演奏と講演を行う。講演内容は論文集De Clavicordio XI (ISBN 978-88-907624-2-0)の中にA Practical Introduction to the Clavichordとして出版された。2014年夏にはプレーメン音楽祭主催第3回Arp Schnitgerオルガン・コンクールの審査員を務めた。現在、つくば市(一財)「バッハの森」で聖書学者石田友雄氏よりドイツ・コラル文学がバッハの音楽作品に如何に深く関わっているかを学び、演奏と教育に生かすよう心がけている。フェリス女学院大学音楽学部及び同大学院音楽研究科教授。

# 静岡県博物館協会研究紀要目録(第1号~39号)

号	刊行年度	ページ	執筆者名	所属・職名	題名
1	1977 (昭和52)年度	p.1	松浦国男	静岡県博物館協会会長	会長のあいさつ
		pp.3-7	角田力松	富士美術館館長	新古今の一断面
		pp.9-16	金原宏行	浜松市美術館学芸員	浜松における初期民芸運動
		pp.17-23	清水 実	久能山東照宮博物館学芸員	修験道本山派の組織化について
2	1978 (昭和53)年度	p.1	松浦国男	静岡県博物館協会会長	会長のあいさつ
		pp.2-14	中村武久	熱川バナナ・ワニ園研究主任	植物園の生きた文化財＝第一回文化講演会より＝
		pp.15-24	杉村 斉	三島市郷土資料館学芸員	「日本の暦」展報告＝三島暦関係資料から＝
3	1979 (昭和54)年度	pp.1-6	鈴木克美	東海大学海洋科学博物館管理部次長	博物館的水族館の資料収集・保管と研究
		pp.7-14	井出 孝	井出コレクション代表	道中記考
		pp.15-25	金原宏行	浜松市美術館学芸員	明治・大正期南画の再検討ー山下青崖を中心にー
		pp.26-44	渡邊妙子	佐野美術館副館長	後藤家十四代揃金具について
4	1980 (昭和55)年度	pp.1-9	森本 豊	堂ヶ島洋らんセンター	バブア・ニューギニア旅行
		pp.10-22	大村和男	登呂博物館学芸員	登呂博物館の教育効果について ー展示ストーリー「登呂のむら」の作成導入案ー
		pp.23-32	金原宏行	浜松市美術館学芸員	明治の石版画ーその作家と美術史的位置ー
		pp.33-42	高倉達夫	富士美術館学芸員	錦絵 水野年方筆「三十六佳撰」について
5	1981 (昭和56)年度	pp.1-10	大村和男	登呂博物館学芸員	登呂博物館の教育効果について(承前) ー展示ストーリー「登呂のむら」の作成導入案ー
		pp.11-18	金原宏行	浜松市美術館学芸員	松崎懐堂年譜(未定稿)
		pp.19-45	小野真一	加藤学園考古学研究所々長	神道考古学上から見た静岡県
6	1982 (昭和57)年度	pp.1-10	齋藤 新	浜松市博物館学芸員	地域の歴史博物館における「地域性」の課題ーとくに歴史叙述の方法について
		pp.11-19	金原宏行	浜松市美術館学芸員	静岡県美術風土記補遺
7	1983 (昭和58)年度	pp.1-10	藤浦正行	MOA 美術館学芸員	出雲地方の平安仏について
		pp.11-14	堀沢光栄	富士美術館学芸員	「重美・鹿秋草蔭絵硯箱」の一考察
		pp.15-27	清水 実	久能山東照宮博物館学芸員	近世久能山東照宮の祭祀施設について
8	1984 (昭和59)年度	pp.1-32	中野 宥	静岡市登呂博物館	静岡市域の古墳の分布について(前)
		pp.33-42	藤浦正行	MOA 美術館	伝右佐又兵衛筆物語絵巻についてー浄瑠璃物語絵巻の構成と作者ー
		pp.43-44	斉藤秀治	伊豆シャボテン公園	伊豆半島のウミウ
		pp.45-72	日比野秀男	静岡県立美術館準備室	アメリカ大陸美術館紀行ーサンフランシスコからボストンへー
		p.73	小木 香	浜松市博物館	浜松市博物館における入館者について
		p.74	金原宏行	浜松市美術館	本郷新彫刻展(59年7月)を開催して
		p.75	山下善也	静岡県立美術館準備室	静岡県蔵 狩野山雪「富士三保松原図屏風」六曲一双について ……表現内容を中心に……
		p.76	藤浦正行	MOA 美術館	又兵衛筆歌仙絵をめぐって ーその独創的表現と「又兵衛様式」の成立についてー
9	1985 (昭和60)年度	pp.1-48	中野 宥	静岡市登呂博物館	静岡市域の古墳の分布について(後)
		pp.49-64	樋口雄彦	沼津市明治史料館学芸員	「沼津版」覚え書
		pp.65-70	安達めぐみ	ベルナル・ビュフェ美術館	ベルナル・ビュフェー初期作品を中心にしてー
		pp.71-102	日比野秀男	静岡県立美術館準備室	続 アメリカ大陸美術館紀行ーニューヨークからロサンゼルスへー
10	1986 (昭和61)年度	pp.1-19	佐藤由紀男	浜松市博物館	静岡市丸子セイゾウ山・佐渡遺跡 出土土器の再検討
		pp.20-30	金原宏行	浜松市美術館	ガラス絵ー中国・日本における展開
		pp.31-38	立花義彰	静岡県立美術館準備室	水彩画家 石川欽一郎
		pp.39-40			静岡県博物館協会 学芸職員研究紀要 No.1~9 の内容
11	1987 (昭和62)年度	pp.1-23	志村 博	富士市立博物館	後期古墳に於ける特異な石室構造について 富士市域を中心として
		pp.24-34	樋口雄彦	沼津市明治史料館学芸員	「沼津版」覚え書・補遺
		pp.35-42	堀沢光栄	富士美術館	私の見たソ連・韓国の博物館
12	1988 (昭和63)年度	pp.1-14	飯田孝子	佐野美術館	松田家本 五秘密曼荼羅図について
		pp.15-29	藤田洋子	佐野美術館	『北斎漫画』の奥付ー浦上コレクションによるー
		pp.30-45	宮下知良	浜松市博物館	市町の祭りー浜松市笠井町春日神社の祭礼に関して
13	1989 (平成元)年度	pp.1-6	土屋泰久	下田海中水族館	タッチング型式の展示について
		pp.7-19	蛭田 密	マリンワールド海の中道	
		pp.20-28	白根敏昭	富士美術館	米原雲海と近代日本木彫Iー米原雲海とその作品ー
		pp.29-40	瀨川裕市郎	沼津市歴史民俗資料館	堅魚木筒の集成
14	1990 (平成2)年度	pp.1-6	藤浦正行	MOA 美術館	機織図屏風をめぐってー職人尽絵と婦女風俗図の間ー
		pp.11-17	柴 正博	東海大学自然史博物館	東海大学自然史博物館のサマースクールについて
		pp.18-24	中村則江	東海大学海洋科学博物館	東海大学海洋科学博物館に於ける作文コンクール願末記
		pp.26(19)-44(1)	小川雅弘	浜松市博物館	博物館における教育活動

号	刊行年度	ページ	執筆者名	所属・職名	題名
15	1991 (平成3)年度	pp.1-9	斎藤秀治	伊豆シャボテン公園	東海・関東の漂着信仰の形態
		pp.10-21	藤田洋子	佐野美術館	北山寒巖についてのレポート
		pp.22-29	木村博	城ヶ崎文化資料館 顧問	伊豆における「信州石工」の諸問題
		pp.30-45	白根敏昭	富士美術館	米原雲海と近代日本木彫Ⅱ—近代日本木彫の伝統と革新—
		pp.52(1)-47(6)	大山卓司	東海大学海洋科学博物館	マグロ類の長距離輸送
16	1992 (平成4)年度	pp.1-13	渡谷昌彦 / 置塩 甲	島田市博物館	森鷗外と置塩園との交流について
		pp.14-24	山本義孝	浅羽町郷土資料館	浅羽町岡山山の神祭り考
		pp.25-29	小木 香	浜松市博物館	〈仮称〉浜松市楽器博物館について
		pp.40(1)-30(11)	柴 正博	東海大学自然史博物館	東海大学自然史博物館の一九九二年度展示改修の経緯について
17	1993 (平成5)年度	pp.1-13	山本義孝	浅羽町郷土資料館	遠江国浅羽荘の荘園鎮守社とその祭祀
		pp.14-20	中村邦明	浜松市美術館学芸員	水野以文と近代日本の水彩画
		pp.21-24	日置勝三	東海大学海洋科学博物館	ロシアへ行った「海を知らないクマノミ」
		pp.25-31	西野和豊	フェルケール博物館	リニューアルオープン三年を経て
18	1994 (平成6)年度	pp.1-8	大村和男	静岡市立登呂博物館学芸員	登呂博物館における常設展示の更新 —「参加体験型ミュージアム」の導入とその評価をめぐって—
		pp.9-21	渡邊妙子	佐野美術館副館長	ある美術館の選択
		pp.22-46	玉蟲玲子	静岡県立美術館学芸員	今日の「博物館実習」を考える—当館の場合を出発点として—
		pp.60(1)-47(14)	山本義孝	浅羽町郷土資料館	行者道を通して見た遠江の修験霊山 —光明山・本宮山の事例を中心として—
19	1995 (平成7)年度	pp.1-8	手島英真	東海道広重美術館館長	東海道広重美術館について
		pp.9-26	白根敏昭	富士美術館学芸課長	一九〇〇年・パリ万国博覧会と明治の工芸 —富士美術館所蔵赤塚自得作「菊時絵文台・硯箱」を中心に—
		pp.41(22)-27(36)	山本義孝	浅羽町郷土資料館学芸員	里修験寺院の形態—遠江の事例を中心として—
		pp.49(14)-42(21)	杉村 斉	三島市郷土資料館館長	提案・「博物館の連携と地域」
		pp.62(1)-50(13)	山本六三	静岡県立美術館	「ID&V美術館構想」 〜データとビジョンの重視による静岡県立美術館の研究
20	1996 (平成8)年度	pp.1-13	杉村 斉	三島市郷土資料館館長	三島層研究・調査報告—三島層の弘暦について—
		pp.29(32)-14(47)	山本義孝	浅羽町郷土資料館学芸員	遠江における山岳修験の成立(上)
		pp.38(23)-31(30)	萩原宗一	下田海中水族館イルカ担当マネージャー	イルカを使用したふれあい展示について
		pp.50(11)-39(22)	栗原雅也	細江教育委員会社会教育課	「わが町にふさわしい博物館」運営の試み …1996年度細江町立歴史民俗資料館講座の紹介…
		pp.60(1)-51(10)	柴 正博 / 石橋忠信	東海大学社会教育センター	東海大学社会教育センターにおけるホームページの開設
21	1997 (平成9)年度	pp.1-10	安達めぐみ	ビュフェ美術館参事	ビュフェ美術館の版画館について
		pp.11-21	柴 正博 / 石橋忠信	東海大学社会教育センター学芸文化室博物館学芸員	博物館におけるホームページの活用と展開
		pp.22-33	小木 香 嶋 和彦 村瀬正巳	浜松市楽器博物館学芸員	普及尺八をめぐる一連の取り組みと考察
		pp.34-64	山本義孝	浅羽郷土資料館学芸員	遠江における山岳修験の成立(下)
22	1998 (平成10)年度	pp.2-21	白根敏昭	富士美術館学芸課長	太田曉雨の画業 —伊豆下田時代を中心に
		pp.22-31	久野 彰	掛川市二の丸美術館副館長	掛川市二の丸美術館について
		pp.65(2)-32(35)	山本義孝	浅羽郷土資料館主任	遠江国十一院内の比定
23	1999 (平成11)年度	pp.2-15	荻野裕子	富士市立博物館学芸員	富士・沼津・三島3市博物館共同企画展のあゆみ
		pp.16-31	飯田 正	豊田町香りの博物館館長	気構えず気軽に立ち寄れる夢ある博物館を目指して
24	2000 (平成12)年度	pp.2-12	切池 融	新居町役場・主査、元新居関所史料館・職員	近世の今切湊—出入廻船の動向を中心に—
		pp.23(2)-14(11)	柴 正博 / 石橋忠信 泰井 良	東海大学社会教育センター学芸員 静岡県立美術館・学芸員	静岡県博物館協会インターネット活用研究会の活動
25	2001 (平成13)年度	pp.2-10	戸塚和美	掛川市二の丸美術館・学芸員	青木達弥について—「青木達弥展」の作品から
		pp.11-19	堀切正人	静岡県立美術館・学芸員	宮芳平《椿》について
26	2002 (平成14)年度	pp.2-32	白鳥誠一郎	静岡市立芹沢銈介美術館学芸員	農林省積雪地方農村経済調査書と芹沢銈介
		pp.33-46	内田昌宏	富士市立大淵小学校教諭・ 前富士市立博物館指導主事	市民参加型写真展『20世紀写真のなかの富士—学び舎のあの日—』 をふりかえって—博物館と学校との連携を視野にいれながら
		pp.47-54	日比野秀男 友田千恵 / 山口職太郎	常葉学園大学・常葉美術館 山口墨仁堂	NPO法人「文化財を守る会」の設立を目指して —災害時における博物館のネットワーク作り—
		pp.55-66	村上 敬	静岡県立美術館学芸員	志賀重昂『日本風景論』と明治二十年代の油画について
27	2003 (平成15)年度	pp.2-8	二村 悟 小松知子	金谷町お茶の郷博物館主事 金谷町お茶の郷博物館学芸員	金谷町お茶の郷博物館のイベント参加を通じた 茶の葉普及啓蒙活動について
		pp.9-17	二村 悟 小松知子	金谷町お茶の郷博物館 主事 金谷町お茶の郷博物館学芸員	子供向け企画展「ばくもわたしもお茶博士 世界のお茶を放しよう」を ふりかえって
		pp.18-24	日比野秀男	常葉学園大学教授・常葉美術館長	博物館の災害時における対策研究事業について —災害発生時の県内ネットワーク—
		pp.26-29	三浦定俊	東京文化財研究所協力調整官	災害から文化財を守る

号	刊行年度	ページ	執筆者名	所属・職名	題名		
28	2004 (平成16)年度	pp. 2-10	日比野秀男	静岡県博物館協会 災害対策ワーキンググループ代表	災害対策チェックシートの作成を終えて		
		p. 2	清水秀男	熱川バナナワ二園	1、地震対策ワーキンググループのスタンスについて		
		p. 3	荻原美広	奇石博物館	2、災害対策ワーキンググループ感想		
		p. 3	田中之博	MOA 美術館	3、災害対策ワーキンググループに参加して		
		p. 4	今田 徹	浜松市美術館	4、災害対策ワーキンググループに参加して		
		p. 5	飯田 真	静岡県立美術館	5、災害対策ワーキンググループ今後の方向性		
		p. 5	友田千恵	NPO文化財を守る会	6、災害対策ワーキンググループの感想		
		p. 7-10				地震対応 自己診断チェックシート	
		pp. 11-18	友田千恵	NPO文化財を守る会		災害における文化財被害の実際と救済活動について —福井・伊豆の文化財被災報告	
pp. 43(1)-20(24)	松井一明	袋井市教育委員会	遠江西・中部地域の中世石塔の出現と展開				
			太田好治	浜松市博物館	—静岡県下における中世石塔の研究 1—		
			木村弘之	掛川市教育委員会			
29	2005 (平成17)年度	pp. 2-11	山本義孝	袋井市立浅羽郷土資料館	勝間田院内(修験者・陰陽師)とその資料		
		pp. 33(47)-12(68)	立花義彰		静岡近代美術年表 稿 大正編		
		pp. 43(37)-34(46)	特定非営利活動法人 NPO文化財を守る会		紙プログラム報告 ～和紙を通して文化財の保存を学ぶ		
		pp. 79(1)-44(36)	松井一明	袋井市教育委員会／浅羽郷土資料館	遠江中・東部地域の中世石塔の出現と展開		
pp. 79(1)-44(36)	木村弘之	磐田市教育委員会／見付学校教育資料館	—静岡県下における中世石塔の研究 2—				
			溝口彰啓	牧之原市教育委員会			
30	2006 (平成18)年度	pp. 2-21	山本義孝	袋井市立浅羽郷土資料館	天竜院内(修験者・陰陽師)とその資料		
		pp. 55(23)-22(56)	松井一明	袋井市教育委員会／浅羽郷土資料館	駿河中・西部地域の中世石塔の出現と展開		
			木村弘之	磐田市教育委員会／見付学校教育資料館	—静岡県下における中世石塔の研究 3—		
			溝口彰啓	牧之原市教育委員会			
			篠ヶ谷路人	島田市教育委員会／島田市博物館			
			椿原靖弘	藤枝市教育委員会／藤枝市郷土博物館			
		pp. 77(1)-56(22)	立花義彰		静岡近代美術年表 稿 明治編(下)		
31	2007 (平成19)年度	pp. 2-29	松井一明	袋井市教育委員会／浅羽郷土資料館	駿河中部地域の中世石塔の出現と展開		
			木村弘之	磐田市教育委員会／見付学校教育資料館	—静岡県下における中世石塔の研究 4—		
			溝口彰啓	牧之原市教育委員会			
		pp. 30-39	立花義彰		静岡近代美術年表 稿 明治編(上)		
		p. 40	渡邊妙子	(財)佐野美術館館長	文官石像		
		p. 40	山田一幸	東海大学海洋科学博物館学芸員	クマノミ水族館リング水槽		
		p. 41	西野和豊	フェルケール博物館館長	模型船「神奈川丸」		
		p. 41	田島 整	上原仏教美術館学芸員	紺紙金銀字交書阿毘達磨俱舍論卷 第二十六(中尊経)		
		pp. 42-47	日比野秀男	常葉美術館	朝鮮通信使展への道		
		pp. 48-51	海野一徳	藤枝市郷土博物館	藤枝市郷土博物館 第75回企画展『藤枝宿と朝鮮通信使』		
		pp. 52-53	森谷紗世	静岡アートギャラリー学芸員	—「クリエイティブメッセージ」の取り組み—		
		32	2008 (平成20)年度	pp. 2-23	松井一明	袋井市立浅羽郷土資料館	遠江・駿河地域の中世石塔の出現と展開
					木村弘之	見付学校教育資料館	—静岡県下における中世石塔の研究 5—
	溝口彰啓			(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所			
pp. 24-29	稲森幹大			静岡市立登呂博物館	歴史系博物館における体験学習活動の在り方 —体験指導員としての活動を通じて—		
pp. 30-31	中井喜子			NPO文化財を守る会	【報告】NPO文化財を守る会の活動報告		
pp. 32-35	高林晶子			富士市立博物館学芸員	【報告】富士・沼津・三島三市博物館共同企画展の歩み、 並びに朝鮮通信使 400 周年記念展について		
p. 36(13)	嶋 和彦			浜松市楽器博物館館長	ブランシェのチェンバロ		
p. 36(13)	土森智典			上原近代美術館学芸員	アンリ・マティス《赤い屋根のある風景》		
p. 37(12)	田島 整			上原仏教美術館学芸員	阿弥陀如来立像(鎌倉時代)		
p. 37(12)	荻原美広			石の博物館(奇石博物館)学芸員	キャニオン・デアプロ隕石		
p. 47(2)-38(11)	山本義孝	袋井市立浅羽郷土資料館	当山派修験 遠州中泉組 月光山神護寺とその資料				

号	刊行年度	ページ	執筆者名	所属・職名	題名
33	2009 (平成21)年度 創立40周年記念号	pp. 2-3	宮治 昭	静岡県立美術館館長・静岡県博物館協会会長	文化財の宝庫(富士の国、静岡)-静岡県博物館協会40周年を迎えて-
		pp. 4-11	向坂鋼二	元浜松市博物館館長	静岡県博物館協会 創立40周年記念講演会 講演録(抄)
			西源二郎	元東海大学海洋科学博物館館長	これまでの博物館、これからの博物館
			渡邊妙子	佐野美術館館長	
			日比野秀男	常葉学園大学造形学部長	
		pp. 12-17	金原宏行	常葉学園大学教授	美術館で働くということ-共感の力を磨く
		pp. 18-23	西野和豊	フェルケール博物館館長・学芸員	民俗博物館の展示を少し魅力的にするための一考察
		pp. 24-29	嶋 和彦	浜松市楽器博物館館長	原点回帰～ミュージアの館に戻りたい
		pp. 30-35	清水秀男	熱川バナナ・フニ園研究室学芸員	博物館としての熱川バナナ・フニ園
		pp. 36-39	荻原美広	奇石博物館管理本部長	博物館の担えること
		pp. 40-45	相磯 浩	熱海市立澤田政廣記念美術館館長	公立個人顕彰美術館の今後について
		pp. 46-51	田島 整	上原仏教美術館学芸員	今後の美術館・博物館の役割について
		pp. 52-57	日比野秀男	常葉学園大学造形学部長	平成20年度第3回講習会報告 博物館における「連携」
pp. 58-63	田中之博	三島市郷土資料館学芸員	文政九年住吉浦唐船漂着に関する県東部に残る新資料について		
pp. 64-66			静岡県博物館協会研究紀要目録		
pp. 67-71			静岡県博物館協会年表		
34	2010 (平成22)年度	pp. 2-30	日比野秀男	常葉学園大学造形学部長	【記録】山岡鉄舟と明治の群像展
		pp. 30-45	立花義彰		静岡近代美術年表稿 昭和戦前編 1
		pp. 46-51	西野和豊	フェルケール博物館学芸部長	特別展「近代を彩った鹿児島的美術家たち」顧末 平成22年10月9日(土)～11月14日(日)
		pp. 52-57	井上卓哉	富士市立博物館学芸員	「報告」博物館間の交流-富士山ネットワーク推進委員会の試み
		pp. 58-65	松崎なつひ	大岡信ことば館学芸員	詩人の軌跡-大岡信ことば館収蔵品から-
		pp. 66-69	稲森幹大	静岡市立登呂博物館主任主事	静岡市立登呂博物館リニューアル・オープン
		pp. 70-77	以倉 新	静岡市美術館学芸課長	静岡市美術館の新規開館について
		pp. 2-11	日比野秀男	常葉学園大学造形学部長	特集:「まちと博物館」I 博物館のメタモルフォーゼ
		pp. 12-17	里見親幸	丹青研究所研究顧問	特集:「まちと博物館」II 地域を活かすエコミュージアム
pp. 18-27	窪田雅之	松本市立博物館館長	特集:「まちと博物館」III 松本まるごと博物館の歩みと実践活動から		
pp. 28-35	可児光生	美濃加茂市民ミュージアム	特集:「まちと博物館」IV 学校と地域博物館の「連携」から生まれるもの		
pp. 36-59	鈴木雅道	静岡県立美術館学芸課主査	学校と美術館の連携について～鑑賞教育指導者研修会の実践報告～		
pp. 60-75	立花義彰		静岡近代美術年表稿 昭和戦前編 2		
pp. 76(6)-81(1)	椿原靖弘	財団法人清水港湾博物館	城景茂肖像画について		
36	2012 (平成24)年度	pp. 2-9	西源二郎	東京都葛西臨海水族園園長	水族館における海洋生物飼育技術の発展
		pp. 10-17	柴 正博	東海大学自然史博物館	静岡県に県立自然史博物館を!
		pp. 18-31	日比野秀男	常葉学園大学教授	「自然災害」と博物館
		pp. 32-53	立花義彰		静岡近代美術年表稿 昭和戦前編 3
		pp. 54-61	齊藤陽介	上原近代美術館学芸員	須田国太郎のセザンヌ論に関する一考察
		pp. 62-63	荻原美広	奇石博物館本部長	石ころクラフト講座 石ころペインティング
		pp. 64-71	松崎なつひ	大岡信ことば館学芸員	平成23年度静岡県博物館協会地域セミナー 詩作ワークショップ「ことばを人生の味方に」
		pp. 72-74	前田一成	浜松市美術館学芸員(指導主事)	平成23年度静岡県博物館協会地域セミナー事例報告 アートルネサンス in はままつ「子どもワークショップ」の取り組み
37	2013 (平成25)年度	pp. 2-21	立花義彰		静岡近代美術年表稿 昭和戦前編 4
		pp. 22-31	井上卓哉	富士市立博物館	収蔵品紹介 木版手彩色「富士山禪定圖」にみる富士山南麓の信仰空間
		pp. 32-35	高畑裕美	磐田市教育委員会文化財課	平成25年度静岡県博物館協会地域セミナー事例報告 磐田市旧見附学校「昔の授業体験」
		pp. 36-39	松井沙代子	公益財団法人平野美術館	平成25年度静岡県博物館協会地域セミナー事例報告 学校と美術館の連携-浜松市中学校美術部夏の写生大会を例に-
		pp. 40-43	藤村 翔	富士市立博物館	富士山ネットワーク20周年記念事業の成果と展望
38	2014 (平成26)年度	pp. 2-19	立花義彰		静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 1
		pp. 20-25	鈴木理市	賀茂真淵記念館	平成26年度静岡県博物館協会地域セミナー事例報告 変化に対応し、市民のニーズに応える賀茂真淵記念館の夏期講座
		pp. 26-29	久野正博	浜松市博物館学芸員	平成26年度静岡県博物館協会地域セミナー事例報告 シンポジウム 灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開
39	2015 (平成27)年度	pp. 2-19	立花義彰		静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 II
		pp. 20-35	山本義孝	袋井歴史文化館	遠江の役行者信仰-「建立150年前浜行者堂と役行者信仰展」からの知見-
		pp. 36-41	栗原雅也	浜松市博物館	平成27年度静岡県博物館協会地域セミナー事例報告 テーマ展 浜松のイグサ栽培と畳表・ミシロ織り

# 静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

## 1. 投稿を受け付ける原稿

### (1) 内容規定

加盟館園職員が従事している職務(展示・調査研究・保存、教育普及・その他)に関する論文、報告、事例紹介、収蔵品紹介等  
※専門分野に関するものに限りません。学芸職員以外の投稿も歓迎します。

### (2) 執筆者規定

加盟館園職員一人もしくは複数人の執筆によるものとします。複数人による場合、全執筆者の1/3が加盟館園職員であることを条件とします。

## 2. 入稿規定

### (1) 原稿の種類

日本語による原稿を基本とします。

### (2) 入稿の方法

デジタルデータと印字原稿、必要なら図版(ポジ、印画紙写真、デジタルデータ、図面等)等を併せて提出して下さい。  
デジタルデータはOSを問いませんが、必ずテキストデータを添付して下さい。図版のデジタルデータはJPEGに統一して下さい。  
※万一の場合に備え、原稿提出の際には必ず手元に控えを残しておいて下さい。

### (3) 分量

ページ数目安(1ページ当たり)	事例報告等(1~4ページ分程度)	事例報告等(1/2ページ分)
論文 縦書き 写真無しの場合 2,000字	縦書き 写真無しの場合 2,000字	縦書き 写真無しの場合 1,100字
写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 900字
横書き 写真無しの場合 2,000字	横書き 写真無しの場合 2,000字	横書き 写真無しの場合 1,100字
写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 900字

### (4) 文字原稿(印字原稿は次の書式でご提出下さい)

字数(1シート) A4版 40字×30行  
※誌面レイアウト・フォーマットに揃えた入稿も歓迎します。レイアウト見本をご希望の方は、事務局にお問い合わせ下さい。

### (5) 図版原稿(1ページの版面はA4)

カラー(巻頭図版) 掲載希望があればご相談下さい。  
モノクロ すべて挿図として扱います。

- a カラー図版原稿には、目次用のデータを明示して下さい。
- b 挿図原稿裏面に挿図番号とネームを記入して下さい。デジタルデータの場合は、データ名に明示して下さい。
- c 挿図原稿のコピーもしくは印刷された挿図原稿に、掲載希望範囲を、製版作業の支障にならないよう、明示して下さい。
- d レイアウトや掲載時の大きさの希望がある場合は、その旨注記して下さい。
- e 本文の印字原稿に、挿図番号で挿入箇所を示して下さい。

### (6) 図版の著作権申請

写真等掲載に関する作品所蔵者・著作権者からの許諾等取得は、執筆者が行なって下さい。

### (7) 執筆者の表示

原稿には氏名・自宅住所および所属機関所在地(それぞれ〒、Tel.、Fax、番号)・部署・役職を明記して下さい。氏名には読み仮名をふって下さい。  
成果品である紀要には、氏名と所属のみ記載します。

### 3. 原稿の送付先

原稿は、下記宛にお送りいただくか、ご持参下さい。

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 静岡県立美術館内  
静岡県博物館協会事務局  
Tel. 054-263-5857  
Fax. 054-263-5742

### 4. 日程および申込・校正手順

#### (1) 日程（予定）

申込締切 平成29年11月末日  
入稿締切 平成30年 1月末日  
発行予定 平成30年 3月末日

#### (2) 申込方法

申込締切までに、下記項目を静岡県博物館協会事務局宛にご連絡下さい。

- ・ 執筆者 （複数執筆者の場合は、全員の氏名と所属を明記）
- ・ 題名 （仮題で可）
- ・ 分量見込（レイアウト見本による全ページ数で表示。図版、表等の希望も含む。）
- ・ 縦書き、横書きの希望

※分量は、1本の論文当たり15ページ以内を基本とします。

#### (3) 申込の確認

静岡県博物館協会事務局は、申込締切後2週間以内に、執筆者申込時の分量見込みに基づいて紀要製作の見積もりを行いません。予算上製作が可能であれば、全申込者に申込通りの分量での執筆が可能である旨を連絡します。予算上不可能な場合は、申込者に対して分量についてのご相談を行ない、ご執筆いただく分量上限を決定します。

#### (4) 入稿の方法及び原稿の掲載

入稿は、上述2の「入稿規定」に従って、上述3の「原稿の送付先」に送付するか、ご持参下さい。4-(3)で示した事情により、実際に入稿した原稿が分量見込みより増えた場合、執筆者に分量を減らしていただくか、当該号での掲載を取りやめることがあります。

#### (5) 校正

入稿締切までに入稿された場合、執筆者は文字校正（図版等を含む）2回を行なうことが出来ます。入稿締切が守られなかった場合は、この限りではありません。

#### (6) レイアウト

レイアウトはフォーマットに基づき、執筆者の希望を尊重して行ないますが、最終的には静岡県博物館協会事務局が決定します。

### 5. その他

#### (1) 文責

原稿の内容についての文責は、全て執筆者にあるものとします。著作権や誤植、不適切な表記等の問題について静岡県博物館協会及び静岡県博物館協会事務局は、一切の責任を負いません。

#### (2) 執筆者への成果品割当

執筆者には、15部を贈呈します。複数執筆者の場合、全員分を合わせて30部を上限として贈呈することが出来ます。

#### (3) 抜き刷りの作成

執筆者から希望のある場合、実費をご負担いただくことで、執筆箇所の抜き刷りを作成します。静岡県博物館協会事務局にご相談下さい。



